

2026年度 未来教室科目 講義概要(シラバス)



法政大学

科目一覧

〔発行日：2026/5/1〕 最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目	〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目	〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs	〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ	〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室
〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル	

【A0048】 消費者法Ⅰ [大澤 彩] 春学期授業/Spring	1
【A0090】 労働法総論・労働契約法 [藤木 貴史] 春学期授業/Spring	3
【A0091】 労働基準法 [藤木 貴史] 秋学期授業/Fall	5
【A0092】 労働法総論・労働契約法 [沼田 雅之] 春学期授業/Spring	7
【A0093】 労働基準法 [沼田 雅之] 秋学期授業/Fall	9
【A0249】 ジェンダー論Ⅰ [浅野 幸子] 秋学期授業/Fall	11
【A0520】 都市政策 [杉崎 和久] 春学期授業/Spring	13
【A0521】 まちづくり論 [杉崎 和久] 秋学期授業/Fall	15
【A0733】 平和・軍事研究Ⅱ [権 鎬淵] 秋学期授業/Fall	17
【A0777】 平和・軍事研究Ⅰ [権 鎬淵] 春学期授業/Spring	18
【A0786】 現代政策学特講Ⅰ (千代田区) [杉崎 和久] オータムセッション/Autumn Session	19
【A0898】 アメリカ政治史Ⅰ [中野 勝郎] 春学期授業/Spring	20
【A0899】 アメリカ政治史Ⅱ [中野 勝郎] 秋学期授業/Fall	21
【A3482】 文化地理学(1) [村田 陽平] 春学期授業/Spring	22
【A3483】 文化地理学(2) [村田 陽平] 秋学期授業/Fall	23
【A6226】 Race, Class and Gender I: Concepts & Issues [Daiki Hiramori] 秋学期授業/Fall	24
【A6241】 Foundations of Finance [Shiaw Jia Eyo] 秋学期授業/Fall	25
【A6255】 International Security [Takeshi Yuzawa] 秋学期授業/Fall	26
【A6325】 Race, Class and Gender II: Global Inequalities [Daiki Hiramori] 春学期授業/Spring	27
【A6600】 (GO用) Race, Class and Gender I: Concepts & Issues [Daiki Hiramori] 秋学期授業/Fall	28
【A6601】 (GO用) Race, Class and Gender II: Global Inequalities [Daiki Hiramori] 春学期授業/Spring	29
【A6604】 (GO用) International Security [Takeshi Yuzawa] 秋学期授業/Fall	30
【A9810】 キャリアデザイン入門 [榊中 美佐] 春学期授業/Spring	31
【A9811】 キャリアデザイン入門 [高橋 実] 春学期授業/Spring	33
【A9812】 キャリアデザイン入門 [藤澤 広美] 春学期授業/Spring	36
【A9813】 キャリアデザイン入門 [藤澤 広美] 春学期授業/Spring	38
【A9814】 キャリアデザイン入門 [副田 あかね] 春学期授業/Spring	40
【A9815】 キャリアデザイン入門 [廣川 佳子] 春学期授業/Spring	42
【A9816】 キャリアデザイン入門 [土居 大亮] 春学期授業/Spring	44
【A9817】 キャリアデザイン入門 [藤澤 広美] 春学期授業/Spring	47
【A9818】 キャリアデザイン入門 [藤澤 広美] 春学期授業/Spring	49
【A9819】 キャリアデザイン応用 [藤澤 広美] 秋学期授業/Fall	51
【A9820】 キャリアデザイン応用 [藤澤 広美] 秋学期授業/Fall	53
【A9821】 キャリアデザイン応用 [なかむら アサミ] 秋学期授業/Fall	55
【A9822】 キャリアデザイン応用 [矢島 厚子] 秋学期授業/Fall	57
【A9823】 キャリアデザイン応用 [藤澤 広美] 秋学期授業/Fall	59
【A9824】 キャリアデザイン応用 [藤澤 広美] 秋学期授業/Fall	61
【A9835】 カーボンニュートラル推進リーダー育成講座(入門) [三田地 真実] オータムセッション/Autumn Session	63
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3717】 減災工学 [丸山 喜久、矢部 正明、藤村 和也、吉見 雅行、室野 剛隆、山崎 敦広、田中 孝幸、外園 明成、菅原 寛明、麓 博史、井原 和彦、山口 広喜] 年間授業/Yearly	66
【B3717】 減災工学 [丸山 喜久、矢部 正明、藤村 和也、吉見 雅行、室野 剛隆、山崎 敦広、田中 孝幸、外園 明成、菅原 寛明、麓 博史、井原 和彦、山口 広喜] 年間授業/Yearly	68

【B3717】 減災工学 [丸山 喜久、矢部 正明、藤村 和也、吉見 雅行、室野 剛隆、山崎 敦広、田中 孝幸、 外園 明成、菅原 寛明、麓 博史、井原 和彦、山口 広喜] 年間授業/Yearly	70
【C0243】 平和学 [松本 悟] 秋学期授業/Fall	72
【C1046】 地域協力・統合 [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	73
【C1056】 国際関係研究Ⅳ [宮本 佳和] 秋学期授業/Fall	75
【C2201】 現代社会論Ⅱ [島袋 海理] 春学期授業/Spring	76
【C2227】 災害政策論 [川副 早央里] 秋学期授業/Fall	78
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C5110】 産業・組織心理学Ⅱ [今城 志保] 秋学期授業/Fall	79
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C5111】 キャリア開発論 [高崎 美佐] 秋学期授業/Fall	80
関連科目【C5298】 就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合- [上西 充子、梅崎 修] 秋学期授業/Fall ..	82
関連科目【C5299】 就業応用力養成Ⅰ [鈴木 美伸] 春学期授業/Spring	84
関連科目【C5300】 就業応用力養成Ⅱ [鈴木 美伸] 秋学期授業/Fall	86
学部共通科目【H7042】 食品科学 [三浦 豊] 春学期授業/Spring	88
【K6066】 金融論A [武田 浩一] 春学期授業/Spring	89
【K6067】 金融論A [高橋 秀朋] 春学期授業/Spring	90
【K6068】 金融論B [武田 浩一] 秋学期授業/Fall	91
【K6069】 金融論B [高橋 秀朋] 秋学期授業/Fall	92
【K6108】 現代ファイナンス入門A [湯前 祥二] 春学期授業/Spring	93
【K6109】 現代ファイナンス入門B [湯前 祥二] 秋学期授業/Fall	94
【K6150】 国際関係論A [富永 靖敬] 春学期授業/Spring	95
【K6151】 国際関係論B [富永 靖敬] 秋学期授業/Fall	97
【K6314】 地球環境論A [山崎 友紀] 春学期授業/Spring	99
【K6315】 地球環境論B [山崎 友紀] 秋学期授業/Fall	100
【N1116】 国際協力論 [佐野 竜平] 春学期授業/Spring	101
【N1155】 NPO論 [渡真利 紘一] 秋学期授業/Fall	102
【N1159】 災害支援論 [青木 信夫、正谷 絵美] 春学期授業/Spring	104
【N6155】 NPO論 (SSI) [渡真利 紘一] 秋学期授業/Fall	106
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2323】 経済学L A [山本 英子] 春学期授業/Spring	108
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2324】 経済学L B [山本 英子] 秋学期授業/Fall	109
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6501】 スポーツ科学A [西村 一帆] 春学期授業 /Spring	110
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6502】 スポーツ科学B [西村 一帆] 秋学期授業 /Fall	112
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6505】 スポーツ科学A [佐藤 優希] 春学期授業 /Spring	114
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6506】 スポーツ科学B [佐藤 優希] 秋学期授業 /Fall	116
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6507】 スポーツ科学A [魚住 智広] 春学期授業 /Spring	118
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6508】 スポーツ科学B [魚住 智広] 秋学期授業 /Fall	120
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6509】 スポーツ科学A [朝比奈 茂] 春学期授業 /Spring	122
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6510】 スポーツ科学B [朝比奈 茂] 秋学期授業 /Fall	124
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6511】 スポーツ科学A [佐藤 優希] 春学期授業 /Spring	126
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6512】 スポーツ科学B [佐藤 優希] 秋学期授業 /Fall	128
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6513】 スポーツ科学A [吉田 康伸] 春学期授業 /Spring	130
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6514】 スポーツ科学B [吉田 康伸] 秋学期授業 /Fall	131
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6517】 スポーツ科学A [中澤 史] 春学期授業 /Spring	132

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6518】 スポーツ科学B〔中澤 史〕 秋学期授業 /Fall	134
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6519】 スポーツ科学A〔魚住 智広〕 春学期授業 /Spring	136
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6520】 スポーツ科学B〔魚住 智広〕 秋学期授業 /Fall	138
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6525】 スポーツ科学A〔伊藤 マモル〕 春学期授 業/Spring	140
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6526】 スポーツ科学B〔伊藤 マモル〕 秋学期授 業/Fall	142
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6529】 スポーツ科学A〔西村 一帆〕 春学期授業 /Spring	144
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6530】 スポーツ科学B〔西村 一帆〕 秋学期授業 /Fall	146

LAW300AB（法学 / law 300）

消費者法 I

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの消費生活では、契約トラブル、悪質商法、食の安全など、日々様々な法律問題が生じている。このような法律問題を考える上で必要となってくるのが、消費者法と呼ばれる領域の法知識・考え方である。本講義は消費者法についての考え方、知識を身につけ、日常生活における法律問題を考える際に必要なリーガルマインドを有した「消費者」になることを目的とする。

学習にあたっては、民法はもちろん、消費者契約法・製造物責任法などの特別法、さらには消費者行政に重要な役割を果たしている行政機関や行政規制の役割、民事訴訟を中心とした紛争解決制度の現状など、様々な分野にわたる知識・理解・関心が求められる。

消費者法 I では、主に契約をめぐる法的問題につき、民法のみならず消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法などの特別法の内容とともに学ぶ。それにより、消費者契約をめぐるトラブルに対処するための法解釈・適用の在り方を理解することができる。

「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（商法中心コース）・（労働法中心コース）」「文化・社会と法コース」に属する。

【到達目標】

民法の契約総論、各論部分のみならず、消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法などの特別法の知識を身につける。

契約トラブルなどの日常的な消費者問題に対して民法・各種特別法がいかなる役割を果たしているのかについて、法律の規定のみならず判例・学説をもとに理解する。これによって、民法の特に総則・債権法部分の発展的な学習を行うこともできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

①授業日2日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。レジュメに「事前課題」をのせることもある。受講生はこの事前課題やレジュメ、教科書、さらには裁判例集を読んで予習しておくこと。②授業日は、受講者がすでに教科書を読んでいることを前提に、発展的な解説を行う。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。また、授業開始前・終了後にも受け付ける。④事前課題に関する意見を学習支援システム内の掲示板に書き込んでもらい、授業内でその書き込みをふまえた補足解説を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	消費者法とは何か①	消費者法とは何か。消費者基本法。教科書 Unit1
第2回	消費者法とは何か②	消費者・事業者概念。教科書 Unit2
第3回	消費者契約の締結過程の適正化①契約の成立	消費者契約の成立、契約締結上の過失。教科書 Unit3
第4回	消費者契約の締結過程の適正化②民法の役割	民法の錯誤、詐欺。教科書 Unit4

第5回	消費者契約の締結過程の適正化③消費者契約法	消費者契約法4条など。教科書 Unit5
第6回	消費者契約の締結過程の適正化④交渉力の不均衡	民法の強迫、消費者契約法4条など。教科書 Unit6
第7回	消費者契約の内容の適正化①中心的債務：公序良俗	公序良俗規定と消費者取引。教科書 Unit7
第8回	消費者契約の内容の適正化②不当条項規制その1	民法による不当条項規制、約款論。教科書 Unit8
第9回	消費者契約の内容の適正化③不当条項規制その2	消費者契約法8条～10条。教科書 Unit9
第10回	消費者契約と特定商取引法①	特定商取引法の概要。教科書 Unit11
第11回	消費者契約と特定商取引法②	クーリングオフ、通信販売規制、過量販売規制など。教科書 Unit12
第12回	消費者取引とシステム責任論①割賦販売法	割賦販売法の概要、抗弁の接続。教科書 Unit13
第13回	消費者取引とシステム責任論②名義貸し、不正利用、預金トラブル	クレジットカードの不正利用、預金トラブル。教科書 Unit14
第14回	消費者取引と不法行為法	消費者取引における不法行為法役割。教科書 Unit15

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業2日前までにアップするレジュメや教科書を使って予習すること。また、教科書や消費者法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日に解説を行う。

講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりで教科書の指定箇所や消費者法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。「事前課題」に対する解答や意見を学習支援システムの掲示板に書き込むのも歓迎する。また、新聞やテレビ、インターネット等で日頃から私たちの日常生活におけるトラブルについてのニュースを見聞きしておくことも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大澤彩『消費者法（第2版）』（商事法務、2025年）
このほかに、オリジナル教材『消費者法裁判例集』を使用する予定。詳細は初回授業で指示するため、それまでは購入しないこと。

【参考書】

中田邦博＝鹿野菜穂子編『基本講義消費者法（第6版）』（日本評論社、2026年）
河上正二＝沖野真已編『消費者法判例百選（第2版）』（有斐閣、2020年）
松本恒雄＝後藤巻則編『消費者法判例インデックス』（商事法務、2017年）
大村敦志『消費者法（第4版）』（有斐閣、2011年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）を行う。この学期末試験による評価を100%とする。

以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの記述が詳細なので、レジュメの内容や授業ではもう少しかみ砕いた説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが容易になるよう、パソコンやタブレットを準備して欲しい。

【その他の重要事項】

・レジュメに頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話を聞き取って自分でノートをとるという姿勢である。
・学習支援システムの「お知らせ」をこまめにチェックすること。

- ・契約法（Ⅰ～Ⅳ）・不法行為法の講義をすでに受講、ないしは同時に受講していることが望ましい。
- ・2026年度は「消費者法Ⅰ」を開講する。「消費者法Ⅱ」は2027年度に開講する予定である。
- ・消費者問題に直接取り組む弁護士のみならず、消費者問題に対する対処が求められており、そのための部署も設けられている国・地方公共団体の職員を目指す学生、さらには、近年コンプライアンス意識が一層顕著になっているすべての企業で働くことになる学生にとっても重要な科目である。

SDG s の観点からも受講することをお勧めする。

学生向けに消費者法を学ぶことの意味について書いた、拙稿「消費者法－私達＝「消費者」のよりよい消費生活のために」法学教室487号（2021年）別冊付録掲載を読んで欲しい。

【Outline (in English)】

We learn the consumer law, especially, the consumer contract law. The goals of this course are to comprehend this law. Before / after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the term-end examination(100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

労働法総論・労働契約法

藤木 貴史

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年A-G・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いいため、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられようようにさまざまな規制を行う法分野です。

労働法総論・労働契約法では、個別的労働法の枠組み部分を扱います。労働法総論・労働契約法と労働基準法は連続性が強いので、継続して履修することを強く勧めます。

この科目は選択必修科目であり、全てのコースに属しています。

〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の3点です。

- ①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
- ②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる
- ③労働法分野の条文・判例の読み方を自主的に学習できる

〈注意〉この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または秋学期の「労働基準法」の単位を取得できていない場合、3年生以降、火曜4限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。

【到達目標】

- ①個別的労働法の基礎的な知識を習得する。
- ②個別的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。
- ③個別的労働法上の問題に対して、自主的・自律的に調査・学習する習慣を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・対面での講義を予定しています。ただし、都合により一部オンラインに変更となる可能性があります。
- ・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
- ・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
- ・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
- ・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働法の意義／労働法の体系／労働法と紛争解決
第2回	労働者の自由と権利	労働憲章／未成年保護／寄宿舎規定
第3回	労働法のプレーヤー	労働者性／使用者性・事業／労働組合・過半数代表者／労働法の法源

第4回	労働契約規制（1）	本体的権利義務／使用者の付随義務
第5回	労働契約規制（2）	労働者の付随義務
第6回	労働契約規制（3）	労働基準法上の規制／国際的労働契約
第7回	労働契約の開始	労働契約の成立／内定（内々定）／試用期間
第8回	労働契約の終了（1）	合意解約と辞職／定年／解雇制限
第9回	労働契約の終了（2）	解雇権濫用法理
第10回	懲戒	懲戒処分の種類／根拠と限界
第11回	労働条件の決定（1）	労働契約・労使慣行／就業規則
第12回	労働条件の決定（2）	就業規則と労働契約法
第13回	労働条件の決定（3）	就業規則の不利益変更
第14回	労働紛争の実態	労働紛争の実態を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

〔予習〕（1時間程度）

- ・LMS上からレジュメを印刷しましょう。
- ・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
- ・内容を忘れた場合、前回の該当箇所にさかのぼって教科書を読み直しましょう。

〔復習〕（3時間程度）

- ・LMS上の小テストを解きましょう。
- ・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
- ・その回で取り扱われた判例について、(i) どのような事件だったか、(ii) 裁判所はどのようなルールを設定したか、(iii) 裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。
- ・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所 2020年）

大木正俊ほか『労働法判例50！（Start Up）』（有斐閣、2025年）

【参考書】

日本労働政策研究・研修機構『労働関係法規集（2026年版）』

三省堂『デイリー六法』

【成績評価の方法と基準】

到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②・③の計測のために中間レポート、期末テストを、それぞれ実施します。

〔小テスト〕3割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）

〔中間レポート〕2割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

〔期末テスト〕5割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】

授業資料については比較的评价が高かったので継続して利用します。中間レポートに対するフィードバックはより素早く行えるように準備します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

- ・労働基準法との連続履修を強く勧めます。
- ・本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法などの基礎的知識があることが望ましいです（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません）

〔授業を受ける姿勢〕

- ・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
- ・教科書の購入は必須です。試験の際には、原則、教科書・六法のみ持ち込みを認めます。
- ・六法／法令集も授業に必ず持ってくる。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。
- ・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
- ・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

【Outline (in English)】

1.Course outline

In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers have less bargaining power than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor & Employment Law is a field of law that prevents such difficulties and imposes various regulations so that people can live with dignity.

In this lecture, students learn about the framework of individual labor & employment law. Since there is a high degree of continuity between Labor Contract Law and Labor Standards Law, it is strongly recommended that students take these courses consecutively as much as possible.

2.Learning Objectives

(1) Students acquire basic knowledge of individual labor & employment law.

(2) Students are able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with individual labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.

(3) Students acquire the habit of independently and autonomously researching and learning about individual labor law issues.

3.Learning activities outside of classroom

< Before the class > (about 1 hour)

-Print out your resume from the LMS.

-Read the textbook for the part indicated in the resume.

< After the class > (about 3 hours)

-Take the quiz in LMS.

-Solve the "Exercise Questions" in the textbook.

-Try to explain the case law about (i) what kind of case it was, (ii) what kind of rule the court told

4.Grading Criteria /Policy

-Quiz(30%)

-midterm exam(20%)

-final exam(50%)

LAW200AB（法学 / law 200）

労働基準法

藤木 貴史

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年A-G・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いいため、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられようようにさまざまな規制を行う法分野です。

労働基準法では、労働条件に対する法規制や労働契約の展開を規律する法規制を学びます。労働法総論・労働契約法と労働基準法は連続性が高い授業ですので、連続して受講することを強く推奨します。

この科目は、「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目です。また、「法曹コース」を除くすべてのコースで履修が推奨されています。

〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の3点です。

- ①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
- ②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる
- ③労働法分野の条文・判例の読み方を自主的に学習できる

〈注意〉この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または春学期の「労働法総論・労働契約法」の単位を取得できていない場合、3年生以降、火曜4限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。

【到達目標】

- ①個別的労働法の基礎的な知識を習得する。
- ②個別的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。
- ③個別的労働法上の問題に対して、自主的・自律的に調査・学習する習慣を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・対面での講義を予定しています。ただし、オンラインに変更となる可能性があります。
- ・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
- ・講義中詳細に触れない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
- ・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
- ・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働契約法の復習／労働基準法の全体像
第2回	賃金（1）	賃金総論／最低法賃金／賃金支払いの4原則
第3回	賃金（2）	賞与／退職金／休業手当

第4回	賃金（3）	賃金債権の確保／休業手当／解雇と賃金
第5回	労働時間（1）	労働時間の定義／休憩・休日
第6回	労働時間（2）	時間外労働、休日労働／割増賃金／固定残業代
第7回	労働時間（3）	弾力的労働時間制度／裁量労働制／労働時間法制の適用除外
第8回	年次有給休暇	年休権の法的性質／計画年休制度／年休付与義務
第9回	人事制度（1）	配転／出向、転籍
第10回	人事制度（2）	昇進・降職／昇格・降格／人事考課
第11回	企業組織再編	合併／事業譲渡／企業分割
第12回	労災（1）	労災保険とは何か／通勤災害と労災保険
第13回	労災（2）	過労死・過労自殺／労災民訴
第14回	労働基準行政	労働基準の実情を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

〔予習〕（1時間程度）

- ・LMS上からレジュメを印刷しましょう。
- ・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
- ・内容を忘れた場合、前回の該当箇所にさかのぼって教科書を読み直しましょう。

〔復習〕（3時間程度）

- ・LMS上の小テストを解きましょう。
- ・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
- ・その回で取り扱われた判例について、(i) どのような事件だったか、(ii) 裁判所はどのようなルールを設定したか、(iii) 裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。
- ・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）

大木正俊ほか『労働法判例50！（Start Up）』（有斐閣、2025年）

【参考書】

日本労働政策研究・研修機構『労働関係法規集（2026年版）』

三省堂『デイリー六法』

【成績評価の方法と基準】

到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②・③の計測のために期末テストを、それぞれ実施します。

- ・[小テスト] 3割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）
- ・[期末テスト] 7割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】

授業資料についてはおおむね良好な評価を得ているので、引きつづき利用を継続します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

【関連科目】

- ・労働法総論・労働契約法との連続履修を強く勧めます。
- ・本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法、⑤刑法などの基礎的知識があることが望ましいです（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません）

【授業を受ける姿勢】

- ・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
- ・教科書の購入は必須です。試験の際には、原則、教科書・六法のみ持ち込みを認めます。
- ・六法／法令集も授業に必ず持ってくる。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。
- ・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
- ・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

【Outline (in English)】

1.Course outline

In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers have less bargaining power than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor & Employment Law is a field of law that prevents such difficulties and imposes various regulations so that people can live with dignity.

In Labor Standards Law, students learn about laws and regulations governing working conditions and the development of labor contracts. Since there is a high degree of continuity between Labor Contract Law and Labor Standards Law, it is strongly recommended that students take these courses consecutively as much as possible.

2.Learning Objectives

(1) Students acquire basic knowledge of individual labor & employment law.

(2) Students are able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with individual labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.

(3) Students acquire the habit of independently and autonomously researching and learning about individual labor law issues.

3.Learning activities outside of classroom

< Before the class > (about 1 hour)

-Print out your resume from the LMS.

-Read the textbook for the part indicated in the resume.

< After the class > (about 3 hours)

-Take the quiz in LMS.

-Solve the "Exercise Questions" in the textbook.

-Try to explain the case law about (i) what kind of case it was, (ii) what kind of rule the court told

4.Grading Criteria /Policy

-Quiz(30%)

-Final exam(70%)

LAW200AB（法学 / law 200）

労働法総論・労働契約法

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年H・N・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「労働法総論」部分については、労働法関連科目を通じた労働法の目的・必要性、すなわち基本原則について説明する。「労働契約法」部分については、解雇や労働条件の変更といった問題を扱う。2008年3月に施行された労働契約法の内容を説明し、関連する多くの判例法理を整理して講義する。

◆注意◆この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または秋学期の「労働基準法」の単位を取得できていない場合、3年生以降、火曜4限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。◆注意◆

【到達目標】

1. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
2. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
3. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
4. 1～3で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
- ・本講義は、対面授業とします。
- ・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（4月7日（火））で行います。
- ・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進めます。
- ・授業に関する質問等については、授業終了後・オフィスアワー・電子メールにて対応し、その場でフィードバックします。
- ・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、労働法とは？	講義内容や評価方法について 労働法の全体像について
第2回	労働法の法源と労働条件決定ルール	労働条件決定の多様なツールについて
第3回	労働関係のプレイヤ（1）	労働者について
第4回	労働関係のプレイヤ（2）	使用者について

第5回	労働契約上の権利・義務	労働契約上当然にある権利・義務について
第6回	労働契約の終了（1）	解雇の手續き規制、法律上の解雇理由規制、労使の自主的ルールによる規制について
第7回	労働契約の終了（2）	解雇権の濫用について
第8回	労働関係の終了（3）	整理解雇について
第9回	労働関係の終了（4）	辞職、合意解約、定年、当事者の消滅について
第10回	懲戒	企業秩序遵守義務とその違反に関するルールについて
第11回	採用・採用内定・試用	採用内定の取消しや、試用期間後に本採用しないこと（本採用の拒否）に関するルールについて
第12回	就業規則と労働条件の変更	就業規則による労働条件の不利益変更法理について
第13回	人事（1）	同一使用者のもとでの労働者の異動である配転について
第14回	人事（2）	異なる使用者間の労働者の異動である出向・転籍について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。
- ・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
- ・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）
- ・プリント教材

【参考書】

- ・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
- ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

試験（80点）
・期末試験として1回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを評価基準とする。
Web小テスト（20点）
・講義ごとに実施するWeb小テストの点数を20点満点に換算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

- ・レジュメ等のPDFデータを利用する場合は、データを保存・表示可能な端末。

【専門領域と研究業績】

＜専門領域＞ 社会法（社会保障法・労働法）
＜研究テーマ＞ 非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題
＜主要研究業績＞

【主な著書】

（編著）「社会法をとりまく環境の変化と課題」（旬報社）
（編著）「労働法における最高裁判例の再検討」（旬報社）
（分担執筆）（共著）「日本女性差別事件資料集成19 第7巻」（すいれん舎）
（分担執筆）「クラウドワークの進展と社会法の近未来」（労働開発研究会）
（分担執筆）「ニューレクチャー労働法〔第3版〕」（成文堂）
（編著）「ファーストステップ労働法」（エイデル研究所）
（分担執筆）「講座労働法の再生第3巻 労働条件論の課題」（日本評論社）
（分担執筆）「労働者派遣と法」（日本評論社）

【主な論文】

「派遣労働者の均等・均衡処遇—労使委員会方式における過半数代表・派遣労働者個人への情報提供を中心にして」(労働法律旬報2095+2096号、) 2026年)

「労働契約申込みなしにより成立した派遣先の労働契約と雇止め法理の適用」(労働法律旬報2078号、2025年)

「労働委員会の裁量と損害賠償的救済命令の可能性」労働法律旬報(2071+2072号、2025年)

「フリーランス新法はフリーランスの需要を満たすものか」(労働法律旬報2035号、2023年)

「デジタルプラットフォームを介して就労している『配達パートナー』の労働組合法上の労働者該当性」(労働法律旬報2026号、2023年)

「就労形態の多様化と労働者・被用者概念の変容」(年金と経済41巻4号、2023年)」

「デジタルプラットフォームとワーカーの社会法上の保護」(季刊労働者の権利349号、2023年)」

「プラットフォームワーカーの自由と保障—『新しい働き方』のため、社会が準備すべきこと」(世界960号、2022年)

【Outline (in English)】

1. Course Outline

The purpose of this course is to lecture on the basic principles and basic legal issues of Japanese labor law.

The outline is as follows:

- 1. A basic principles of labor law;
- 2. A Labor Contract Act;
- 3. A case law concerning the Labor Contract Act.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
- B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test / legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
- C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
- D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- a. Term-end examination: 80%
- b. Online quiz : 20%

LAW200AB（法学 / law 200）

労働基準法

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年H・N・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、労働法のうち、労働基準法とこれに関連する判例法理を扱う。

法学科の選択必修科目の一つであり、「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目である。また、「法曹コース」を除くすべてのコースで履修が推奨されている。

「企業・経営と法（労働法中心）」コースをモデルとして履修計画をたてている者は、良好な成績で単位を修得することが強く求められる。

◆注意◆この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または春学期の「労働法総論・労働契約法」の単位を取得できていない場合、3年生以降、火曜4限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。◆注意◆

【到達目標】

1. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
2. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
3. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
4. 1～3で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
- ・本講義は、対面授業とします。
- ・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（9月22日（火））で行います。
- ・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進めます。
- ・授業に関する質問等については、授業終了後・オフィスアワー・電子メールにて対応し、その場でフィードバックします。
- ・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・ガイダンス ・労働基準法の適用範囲と実効性の確保	講義内容や評価方法の説明について 労働基準法が定める基準を守らせるための手段について 均等待遇原則、強制労働の禁止について
第2回	労働者の人権	

第3回	労働者のプライバシー	個人情報保護法の労働関係への適用と労働者のプライバシーの尊重について
第4回	賃金（1）	賃金の定義、最低賃金規制について
第5回	賃金（2）	賃金支払規制について
第6回	賃金（3）	休業手当、賞与（ボーナス）、退職金に関する諸問題について
第7回	労働時間規制（1）	法定労働時間規制、労働時間の概念について
第8回	労働時間規制（2）	休日規制、時間外・休日労働、深夜業規制について
第9回	労働時間規制（3）	休日規制、時間外・休日労働、深夜業規制の残りの論点について
第10回	フレキシブルな労働時間制度	労働時間制・フレックスタイム制について
第11回	みなし労働時間制について	事業場外労働のみなし時間制・裁量労働制について
第12回	労働時間規制の適用場外について	労働基準法41条及び同法41条の2の例外について
第13回	休暇	年次有給休暇等について
第14回	労働者の安全衛生	労働安全衛生法について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。
- ・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
- ・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）
- ・プリント教材

【参考書】

- ・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
- ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

- 試験（80点）
- ・期末試験として1回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
 - ・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを評価基準とする。
- Web小テスト（20点）
- ・講義ごとに実施するWeb小テストの点数を20点満点に換算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

- ・レジュメ等のPDFデータを利用する場合は、データを保存・表示可能な端末。

【その他の重要事項】

シラバスの内容を変更し、実務家の方による講演を実施することがあります。

【専門領域と研究業績】

- ＜専門領域＞ 社会法（社会保障法・労働法）
- ＜研究テーマ＞ 非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題
- ＜主要研究業績＞

【主な著書】

- （編著）「社会法をとりまく環境の変化と課題」（旬報社）
- （編著）「労働法における最高裁判例の再検討」（旬報社）
- （分担執筆）（共著）「日本女性差別事件資料集成19 第7巻」（すいれん舎）
- （分担執筆）「クラウドワークの進展と社会法の近未来」（労働開発研究会）
- （分担執筆）「ニューレクチャー労働法〔第3版〕」（成文堂）
- （編著）「ファーストステップ労働法」（エイデル研究所）
- （分担執筆）「講座労働法の再生第3巻 労働条件論の課題」（日本評論社）

(分担執筆)「労働者派遣と法」(日本評論社)

【主な論文】

「派遣労働者の均等・均衡処遇—労使委員会方式における過半数代表・派遣労働者個人への情報提供を中心にして」(労働法律旬報2095+2096号、2026年)

「労働契約申込みみなしにより成立した派遣先の労働契約と雇止め法理の適用」(労働法律旬報2078号、2025年)

「労働委員会の裁量と損害賠償的救済命令の可能性」労働法律旬報(2071+2072号、2025年)

「フリーランス新法はフリーランスの需要を満たすものか」(労働法律旬報2035号、2023年)

「デジタルプラットフォームを介して就労している『配達パートナー』の労働組合法上の労働者該当性」(労働法律旬報2026号、2023年)

「就労形態の多様化と労働者・被用者概念の変容」(年金と経済41巻4号、2023年)

「デジタルプラットフォームとワーカーの社会法上の保護」(季刊労働者の権利349号、2023年)

「プラットフォームワーカーの自由と保障—『新しい働き方』のため、社会が準備すべきこと」(世界960号、2022年)

【Outline (in English)】

1. Course Outline

The purpose of this course is to lecture on the basic principles and basic legal issues of Japanese labor law.

The outline is as follows:

- 1. About a Labor Standards Act;
- 2. A case law concerning the Labor Standards Act.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
- B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test / legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
- C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
- D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- a. Term-end examination: 80%
- b. Online quiz : 20%

ジェンダー論 I

浅野 幸子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目で、ジェンダーの視点から政治・政策を考察することを目的としています。ジェンダーは、現代社会を読み解くうえで、極めて有効な概念です。今日では、社会科学や人文科学における鍵概念の一つになっています。ジェンダーの概念とは何か？一言でいえば、権威化され、硬直化した既存の観念を批判し、新鮮かつ柔軟な見方を提示するための「ものの見方」であり、「考え方」と言うことができます。ジェンダーの概念は、これまで主流派政治学が見過ごしてきた社会の周縁や見捨てられた人びと、あるいは生活世界の問題に光を当て、停滞した既存の学問や固定化し融通性を失った通説への挑戦だと言っても過言ではありません。本講義は、このような政治学における新しい領域としてのジェンダーの視点に光を当てます。このジェンダー論 I では、ジェンダーとはどのような考え方なのか、その意味や意義、アプローチなどを学びます。いわばジェンダー論の基礎編になります。

【到達目標】

授業では、この「ジェンダー」を、現代社会を読み解く分析概念として位置づけ、政治や政策を、従来からの固定的な見方とは異なる形で再考することを目指します。すなわち、既存の理論や考え方、あるいは通説を批判的に検討し、それらとは異なった、そして意外性のある見方や考え方を学びます。そして、それがそれがどのような政策につながっているのかを理解してほしいと考えます。このような学びを通して、学生にはこれまでの概念を批判的に問い直し、自分自身の解答に到達する能力を身につけることを目指します。政治や政策は机上の理論ではなく、私たちの政策に密接にかかわっています。だからこそ参画して変えていくことが可能になるのです。そのために、ものごとの本質を見抜く、能力を磨くことを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ジェンダーの視点から政治、政策の中心的な課題を問い直します。

(1) ジェンダー概念

本講義では、政治、政策の課題をジェンダーの視点から検討し、どのような変化がみられるのか、その要因はどのような政治的、社会的な事象と関わっているのかを理解します。

この作業の前提として、講義ではまずジェンダーとは何か、ジェンダーに基づく見方や考え方、またジェンダー分析の射程について学びます。従来、ジェンダーは男女の役割や関係を表す用語として用いられてきましたが、今にちでは様々な社会関係に応用され、また性の多様性を表現する概念に発展しています。

(2) 様々な政策からジェンダー問題を理解する

1999年に可決された男女共同参画社会基本法、2000年以降、5年ごとに策定されてきた「男女共同参画基本計画」をもとに様々な分野で推進されている政策を理解することによって、政策決定過程やあらゆるレベルの政策及びシステムをジェンダー平等にするための政策理念「ジェンダー主流化（Gender Mainstreaming）」概念を明確にします。

(3) ジェンダー平等を進めるために

平等であることに異議を唱える人はあまりいないと思います。また、平等は人権が尊重され、誰もが幸福に生きるため社会的基盤といっても良いでしょう。しかし、いまだに、性別、人種や民族、性的マイノリティ、障がいのある人びとが差別的に取り扱われているという現実があります。

どうすればいいのか、国内の動きや海外の動きを見ることによって考えます。

授業ではパワーポイントの資料や行政で作成されている動画などを随時活用して講義を進めます。課題ごとのレポートを提出していただきます。また、提出していただいた課題ごとのレポートについては授業の初めに、いくつか内容を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

レポートの提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

また、対話やグループワークなどを取り入れ、参加型の授業を試みます。

授業は対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序：本講義の目的、講義の見取り図 講義の全体像の理解	本講義の概要、全体を通して学ぶべきこと、受講の姿勢。身近なくらしに埋め込まれたジェンダーに関わる社会通念についても考える。
第2回	ジェンダーとは？ ① ジェンダーについての理解を深める	ジェンダーとは「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間には生まれつきの生物学的性別（セックス／sex）とは異なる。どうしてジェンダーについて考える必要があるかを理解する。
第3回	ジェンダーとは？ ② ジェンダーをめぐる最近の動向について考える	現在ジェンダーをめぐる課題が大きく取り上げられるようになっている。男性性をめぐる議論、多様性をどう考えるか、LGBTQやパートナーシップ制度等に関する法制度の整備も進んでいる。政策の動向についても考察する。また、各地の裁判所で出された判決についても言及する。
第4回	家族とジェンダー	未婚化、少子化が進んでいる。家族を形成する結婚や子育ての状況が変化している。歴史的な動向を説明すると主に現状の問題を考えるとともに、少子化に対応する子育て支援施策(異次元の少子化対策)についてジェンダーの視点から考える。
第5回	教育とジェンダー	一般に教育の場は男女平等だと言われている。問題はないのかを考える。教育の中に潜むジェンダー問題を明らかにする。「理系は男子が得意で女子は文系が得意」といった、内在しているアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）についても理解する。

第6回	労働とジェンダー①	「女性の活躍」が政策課題になっている。女性の継続就労が当たり前になりつつある中の課題について言及する。 女性活躍推進法の改正によって、2022年から条件に該当する企業は「男女の賃金の差異」情報の公表が義務付けられることとなった。また、「年収の壁」を意識せず働くことができる環境づくりも進められている。このような動きの中で男女賃金格差問題を考える。	第13回	国際的に見たジェンダー平等の取組	世界の中でも日本のジェンダー平等のランキングは低い。 SDGs、GGGI等の国際的な動向を踏まえ日本の課題を考える。ジェンダー平等が達成されていない分野を明確にし、その要因も考える。
第7回	労働とジェンダー②	男女ともに働きやすい職場環境を作るために「ワーク・ライフ・バランス」の取組が進んでいる。2022年に男性の育児休業取得促進のための子の出生直後の時期における柔軟な育児休業の枠組みの創設された。男性が育児に関わることの意味と課題を考える。	第14回	授業内試験	持ち込み不可
第8回	メディアとジェンダー	インターネット、テレビ、新聞や雑誌など私たちのまわりは情報にあふれているがジェンダーのステレオタイプを再生産することが少なくない。メディアをジェンダーの視点で分析するとともに「メディア・リテラシー」を理解する。	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 事前の下調べ、授業後のノート整理は不可欠です。また、理解を深めるために、紹介文献等を読むことを薦めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。		
第9回	ジェンダーにもとづく暴力の根絶	性暴力、DVといったジェンダーに基づく暴力は重大な人権侵害である。その予防と被害からの回復、暴力を根絶するためにはどうすべきかを考える。改正された刑法について説明し「性的同意」を考える。	【テキスト（教科書）】 毎回レジュメや参考資料を配付する、映像資料も活用する。		
第10回	政治とジェンダー	政策・方針決定過程への女性の参画度合いは国際的に見ても非常に低く、その拡大は現在の日本において大きな課題となっている。特に政治分野における女性の参画拡大を進めるためにはどのような方策がとられているかを理解する。2018年に施行された「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」についても言及する。併せて、戦後の女性主体の各種の社会運動の歴史と、それらが政策形成や女性の政治参画にもつながっていたことも紹介する。	【参考書】 ・三浦まり『さらば、男性政治』（岩波新書2023年） ・牧野百恵『ジェンダー格差』（中公新書2023年） ・関口洋平『イクメンを疑え！』（集英社新書2023年） ・神谷悠一『差別は思いやりでは解決しない』（集英社新書2022年） ・男女共同参画基本計画（シラバス作成時点では5次計画が最新が、今年前半に策定予定の第6次計画を参照のこと） https://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/index.html ・国立女性教育会館 学校教育における男女共同参画推進 https://www.nwec.go.jp/research/teacher.html ・内閣府男女局 理工チャレンジ（リコチャレ） http://www.gender.go.jp/c-challenge/ ・科学技術振興機構 ダイバーシティ推進 http://www.jst.go.jp/diversity/index.html ・内閣府「仕事と生活の調和」推進サイト ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて http://www.cao.go.jp/wlb/index.html ・内閣府男女共同参画局女性活躍推進法見える化サイト http://www.gender.go.jp/policy/suishin_law/index.html ・厚生労働省女性活躍推進法特集ページ https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000091025.html ・NWEAC実践研究第9号「ジェンダーに基づく暴力」 https://www.nwec.go.jp/about/publish/2018/ecdat60000002jgc.html ・若年層を対象とした性的な暴力の啓発教材 http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/index.html ・内閣府男女共同参画局 災害対応のページ https://www.gender.go.jp/policy/saigai/index.html		
第11回	災害とジェンダー	災害は平等に人を襲うわけではなく、ジェンダー、階級、人種などの要因により平時から不利な状況に置かれているひとは、被害が大きくなる傾向にある。ジェンダーは医療・福祉・保育の問題とも深く結びついている。防災対策上、ジェンダーは不可欠であることを、国内災害の実態と、政策動向などを通して理解する。	【成績評価の方法と基準】 内容ごとの課題レポートの提出（50%） 筆記試験（授業内試験、持ち込み不可）（50%）		
第12回	国内のジェンダー平等政策	ジェンダー平等を進めるためにどのような方策がとられてきたのかを「男女共同参画基本計画」を中心に理解する。 さらにジェンダー平等に向けた法制度についても概観する。	【学生の意見等からの気づき】 本年度、授業担当者変更により、フィードバックできません。		
			【Outline (in English)】 Gender is one of the most important concepts in social science discourse. In the lecture, I will critically discuss political phenomena, events and institutions through gender lens. Course outline This course introduces gender concept, gender policy and gender issues in Japanese society to students taking this course. Learning Objectives The goals of this course are to understand Japanese gender issues and develop the ability to think critically about social phenomena. Lecture/Exercise (two-credits) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading Criteria /Policies Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%、Short reports : 50%		

POL200AC (政治学 / Politics 200)

都市政策

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、多様な利害と価値観が錯綜する都市において、私たちの活動の基盤となる空間形成を制御するシステムである都市計画法等の諸制度の内容について概観するものである。

【到達目標】

- 1) 都市空間の形成を制御するシステム（制度、プロセス等）を理解できること
- 2) 都市空間の現代的な課題を認識し、成長を前提とした既存システムの抱える課題について考察できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・原則、対面方式で実施する（ただし、授業計画に示した授業回はオンライン方式で行う）。
- ・授業資料は、授業前日（月曜日中）までに学習支援システムにアップロードする（印刷配布をしない）。
- ・受講者は、授業終了当日（火曜日）中（締切：23時59分）までに講義課題を提出する（ただし、第1回のみは翌週締切とする）。
- ・必要に応じて、授業の中で解説を行うことを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の説明をしたあと、授業が対象とする都市とは何か、そして都市の成り立ちについて概観する。
第2回	工業化の進展と都市	工業化の進展とともに都市空間の在り方が変化し、また発生する課題への対応により近代都市計画の発生する経緯を概観する。
第3回	商業と都市空間	都市における経済活動が都市空間に与えた影響について概観する。
第4回	都市の住まい	都市住民の生活の器としての住宅が都市形成に与える影響、またセーフティネットとしての住宅を担保する住宅政策について概観する。
第5回	都市の防災	異常な自然現象などによって都市における活動や人名に被害を与える災害への対応などについて概観する。
第6回	都市の環境	私を取り巻く都市の環境問題、それらに対応するについて概観する。
第7回	都市計画概論	国土計画における都市計画、都市計画法の枠組みを概観する。

第8回	都市の基本計画	都市の将来の姿を共有し、実現のための都市計画の手段を表現した都市計画マスタープランを概観する。
第9回	土地利用規制	都市計画の実現手法の一つである土地利用規制（ゾーニング、地域地区・用途地域、集団規定（建築基準法））について概観する。
第10回	開発許可制度	現在の都市計画法制定の背景となった経済成長期の開発の問題とそれを踏まえた開発許可制度の導入について概観する。
第11回	市街地開発事業	都市空間における面的整備を行う手法である市街地開発事業の種類、また代表的な手法である土地地区画整理事業、市街地再開発事業について概観する。
第12回	都市施設	都市生活を支える機能を持つ都市施設、その代表的な施設である道路のあり方について概観する。
第13回	人口減少化の都市計画	人口減少社会における都市再生施策とコンパクトシティについて概観する。
第14回	都市計画の決め方	都市計画決定のプロセスとそれに対する市民参加について概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
- ・「土地利用に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、土地利用規制等を考察するため、資料収集や現地調査が必要となる。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は使用しない。授業では、スライド資料を使用する。

【参考書】

澤木昌典・嘉名光市 編著「図説 都市計画」（学芸出版社）
<https://book.gakugei-pub.co.jp/gakugei-book/9784761528324/>

【成績評価の方法と基準】

- ・評価は、「①授業ごとに出席する課題（14回）」の合計（70%）、「②レポート課題（2回）」の合計点（30%）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。
- ・なお、①の提出回数が9回未満（全14回のうち）、または②（2回のレポートのいずれか）の未提出がある場合には成績評価をしない（E評価とする）。
- 「①授業ごとに出席する課題」の評価（5段階）は下記になる。
 - 5：授業内容を踏まえて、独自に事例や制度の調査を行うなど独自の視点からの意見や考え方が記述されている。
 - 4：適切な分量を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。
 - 3：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。
 - 0：未提出、締切期限以降の提出（＊提出締切時間は厳守すること（締切時間を過ぎたものは理由の如何に関係なく、採点評価しない））。
- 「②レポート課題」（2回）について
 - ・出題は、説明用動画を用いて行う、出題時には学習支援システムを通じて連絡をする。
 - ・提出は、学習支援システムを通じて行う。
 - ・評価（5段階）は下記とする。
 - 5：地域特性や回答者の特徴を踏まえるなど、独自の視点からの意見が記述されているなど優れた内容である。
 - 4：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。
 - 3：レポートの課題主旨が理解できていない内容である。
 - 2：指定されたファイル形式以外で提出などの不備がある。または評価不能な内容である。
- ＊締切日時以降の提出は、いかなる理由があっても受理しない。そのため余裕をもって提出作業をすることが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深めるため、具体的な都市における事例解説を行い、それらの解説のための視覚資料等の改善を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

この講義は、基本的には対面方式で実施するが、資料配布、課題提出等に学習支援システムを活用する。また、一部回では、オンデマンド教材で実施する。上記に対応するためのインターネット環境が必要になる。

【その他の重要事項】

受講に関する注意事項については、学習支援システムの冒頭に記載し、第1回授業動画の中で説明するので必ず視聴すること（動画のリンク先は、学習支援システムで連絡するので、必ず仮登録をすること）。

複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、都市の空間制御に関する仕組みについて講義する。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

In this lecture, we overview the system to control the space in the city.

【到達目標 (Learning Objectives)】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A.Understanding the system that controls the formation of urban space

B.Recognizing the contemporary problems of urban space

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Grading will be decided based on Mid-term report (30%), and reports at each class(70%).

POL200AC (政治学 / Politics 200)

まちづくり論

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、地域の課題解決や資源を活用した価値創造を目的とした地域住民、企業、行政等による取り組み（まちづくり）を対象とする。特に近講義では、地域住民等が主体的に関わる取り組みを中心として、各テーマごとに背景、関連する制度、具体的な取り組みなどを概観するものである。

【到達目標】

- 1) 都市において表出している課題の存在とその背景となる構造を認識できること
- 2) まちづくりが多様な主体の協働によって行われることを理解し、各主体の役割について理解できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・原則、対面方式で実施する（ただし、授業計画に示した授業回はオンライン方式で行う）。
- ・授業資料は、授業前日（月曜日中）までに学習支援システムにアップロードする（印刷配布をしない）。
- ・受講者は、授業終了当日（火曜日）中（締切：23時59分）までに講義課題を提出する（ただし、第1回のみは翌週締切とする）。
- ・必要に応じて、授業の中で解説を行うことを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業が対象とする「まちづくり」とは何かについて問題提起する。
第2回	地域防災	想定されている災害に備えた地域社会の取り組み等について理解する。
第3回	ユニバーサルデザイン・バリアフリー	多様な主体の社会参加を担保する都市空間のあり方を理解する。
第4回	地域福祉	人口減少、少子・高齢化が進行する中で安心して生活できる社会をつくるために地域社会で取り組み取り組みについて理解する。
第5回	都市のモビリティ	高齢社会における都市空間の移動の課題とその対応について理解する。
第6回	公共施設マネジメント	人口減少、超高齢社会を進行し、かつ成長期に作られた公共施設が老朽化した中での公共施設のあり方、それへの対応について理解する。
第7回	ミクロの都市計画	地域環境の課題解決や価値の創造のために行う土地利用規制や施設整備などの都市計画（地区計画等）の仕組みを理解する。

第8回	都市における建物ストックの活用	人口減少等に伴う発生している空き家や空き店舗などの建物ストックの増加を予防したり、地域のために活用したりする取り組みを理解する。
第9回	郊外住宅地の再生	人口増加期に都市周辺に拡大した郊外住宅地の課題やそれに対する取り組みについて理解する。
第10回	歴史的町並みの保存・再生	歴史的価値を持つ街並みや集落を継承し、活用していく取組について理解する。
第11回	景観形成とまちづくり	都市の魅力を高める街並みづくり、景観形成について理解する。
第12回	観光施策と都市	都市における経済効果が期待される観光の取組とそれによる都市への影響について理解する。
第13回	公共空間の利活用	まちなかの賑わい創出等を目的とした公共空間利活用に関する取り組みについて理解する。
第14回	地域を運営する仕組み	社会状況の変化、施設の老朽化等に伴う、公共施設の在り方の変化について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
- ・「地域課題に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、課題に関する考察をするため、資料収集や現地調査が必要となる。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は使用しない。授業では、スライド資料を使用する。

【参考書】

澤木昌典・嘉名光市 編著「図説 都市計画」（学芸出版社）
伊藤雅春・小林郁雄・澤田雅浩・野澤千絵・真野洋介・山本俊哉 編著「都市計画とまちづくりがわかる本 第二版」（彰国社）

【成績評価の方法と基準】

- 「②レポート課題（2回）」の合計点（30 %）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。
- ・なお、①の提出回数が9回未満（全14回のうち）、または②（2回のレポートのいずれか）の未提出がある場合には成績評価をしない（E評価とする）。
- 「①授業ごとに課題する課題」の評価（5段階）は下記になる。
- 5：授業内容を踏まえて、独自に事例や制度の調査を行うなど独自の視点からの意見や考え方が記述されている。
- 4：適切な分量を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。
- 3：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。
- 0：未提出、締切期限以降の提出（※提出締切時間は厳守すること、締切時間を過ぎたものは理由の如何に関係なく、採点評価しない）。
- 「②レポート課題」（2回）について
- ・出題は、説明用動画をういて行う、出題時には学習支援システムを通じて連絡をする。
- ・提出は、学習支援システムを通じて行う。
- ・評価（5段階）は下記とする。
- 5：地域特性や回答者の特徴を踏まえるなど、独自の視点からの意見が記述されているなど優れた内容である。
- 4：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。
- 3：レポートの課題主旨が理解できていない内容である。
- 2：指定されたファイル形式以外で提出などの不備がある。または評価不能な内容である。
- ※締切日時以降の提出は、いかなる理由があっても受理しない。そのため余裕をもって提出作業をすることが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深める視覚資料等の改善を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

この講義は、基本的には対面方式で実施するが、資料配布、課題提出等に学習支援システムを活用する。また、一部回では、オンデマンド教材で実施する。上記に対応するためのインターネット環境が必要になる。

【その他の重要事項】

- ・春学期の「都市政策」を受講している前提で講義を進める（ただし「都市政策」は未受講でも履修は認める）。
- ・受講に関する注意事項については、学習支援システムの冒頭に記載し、第1回授業動画の中で説明するので必ず視聴すること。
- ・授業担当者は、複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、都市の空間制御に関する仕組みについて講義する。

【Outline (in English)】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A.Understanding the existence of challenges in cities and the structures that contribute to them.

B.Understand that machizukuri is carried out through the collaboration of a variety of actors, and be able to understand the role of each actor.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

平和・軍事研究Ⅱ

権 鎬淵

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の前半は、戦後日本の軍事政策の概要と歩みに関して分析や解説を行う。授業の後半は、日本をめぐる東アジアの軍事情勢を詳しく分析する。領土問題をはじめ、日本や東アジアの主要な軍事争点を解説する。

これらを通じて、国際政治における戦争と平和に関する専門知識と東アジア地域の軍事情勢に関する知識を身につける。

【到達目標】

平和や軍事問題に関する基礎知識の習得、国際政治への性悪説的なアプローチ、東アジア地域の情勢認識、自分なりの安全保障観の確立を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主に教員の講義をもって授業を行うが、理解を助けるために各種の映像物を見せることもある。関係する展示会（例えば、国際航空宇宙展など）や記念施設への展覧や感想文を求めることもある。

毎回の授業の中で、前回の授業で提出されたリアクションペーパー、課題、小レポートに対する講評や解説も行う。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	終戦の状況と戦後日本のスタート	「過去の大戦」とは何か。戦争終結要因の分析、終戦の状況を解説
第2回	米国の対日占領政策	GHQの非武装政策、平和憲法、領土処理を解説
第3回	自衛隊創設と日本の主権回復	朝鮮戦争、自衛隊創設、サンフランシスコ講和条約、集団的自衛権問題を解説
第4回	日米安保Ⅰ	1951年の旧日米安保条約、日米行政協定を解説
第5回	日米安保Ⅱ	1960年の新日米安保条約を解説。極東条項と核戦争巻き込まれ論など。
第6回	領土問題Ⅰ	北方四島について
第7回	領土問題Ⅱ	独島・竹島、尖閣諸島、沖縄について
第8回	シビリアンコントロール	天皇統帥権、軍政軍令分離論、シビリアンコントロールの意味
第9回	日本の核政策	非核3原則、核燃料リサイクル政策、T-1政策について
第10回	日本の軍事計画Ⅰ	一次防から「防衛大綱達成(1990年)」まで
第11回	日本の軍事計画Ⅱ	冷戦終結以降の軍事計画について
第12回	中国の軍事政策	中国の核戦力・通常戦力
第13回	北朝鮮の軍事政策	核とミサイル戦力 南の韓国に対する戦略

第14回 韓国の軍事政策

北に対する戦略

通常戦力、兵役制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）、記念施設、展示会を見て感想文を提出することを求めることがある。
本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示する。

【参考書】

開講時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（10～20％）、課題（10～30％）、試験（60～80％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course will explain and analyze the history of Japan's postwar military policy and the military situation in East-Asia surrounding Japan.

The aim of this course is to help students understand the correlation of war and peace, and the knowledge of Japan's military policy and military situation surrounding Japan.

POL300AD（政治学 / Politics 300）

平和・軍事研究 I

権 鎬淵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世の中を知るために、いろいろなレンズが使われる。お金というレンズで世の中を分析すると、それまでに見えにくかった現象がより明確に理解できると同時に、軍事というレンズを通して世界を眺めると、それまでに見えなかったことが鮮明に見えてくるかも知れない。戦後の日本では軍事というレンズをもって国際および国内を観察するという試みを意図的に避けてきた一方、昨今の一部勢力には歪んだ見方が流行ったりして、大学生や教養人として健全たる軍事的な判断能力が求められる。

この科目は軍事というレンズで世界や国際秩序を理解する授業である。細かい軍事知識が説明される場合も多いが、それは「世界を知るため」の必要最小限にとどまる。「平和」を願うなら、「軍事」のことを考えなければならない。平和を理想だけに求めず、武力万能論にも走らず、「平和」を現実的に追求していくことを模索していく。

【到達目標】

平和や軍事問題に関する基礎的な見方や知識の習得、国際政治への性悪説的なアプローチに接し、自分なりの安全保障観の確立を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

世界の基本秩序は軍事力の関係によって形づくられるが、その力関係の根本を作るのはやはり核兵器である。核兵器を語らずに世界秩序の基本を語ることはできない。武器というものは使われない時でも存在するだけで力を発揮しており、核兵器はなおさらである。

被爆経験のある日本ではこれまで正面で取り上げることがなかった、核兵器や核戦略のことを徹底的に分析する。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	軍事という観点から世界を見る。	軍事はなぜ重要なのか
第2回	原子爆弾と水素爆弾の構造	作る方法と作らせない方法も
第3回	核戦略序論	両方とも核を保有している場合、どう戦うのか？
第4回	相互確証破壊戦略	奇抜な内容の戦略が世界を支配する
第5回	限定的な核使用戦略	核兵器を使いやすくする戦略
第6回	Middle Powerの核戦略	イギリス、フランス、中国の核戦略の考え方。
第7回	冷戦終了後の核兵器状況	2024年の時点で、世界に1万2千発の核兵器が現存
第8回	（時事問題について、随時解説）	（時事問題）
第9回	北朝鮮の核	なぜ、北朝鮮は核兵器に固執するのか。

第10回	日本の冷戦時代の戦略	「非核3原則」「専守防衛」は表面的なだけで、実態とは全然異なる。
第11回	日本の核能力	核燃料リサイクル政策と今後取りうる核戦略の選択肢を説明する。
第12回	中国の核戦力	中国の核戦略、核戦力の詳細
第13回	（時事問題について、随時解説）	（時事問題）
第14回	ミサイル防衛	「飛んでくる弾を弾で落とす」戦略は有効か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）、記念施設、展示会を見て感想文を提出することを求めることがある。
本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に開示する

【参考書】

授業中に随時開示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（10～20％）、課題（10～20％）、試験（60～80％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces the international political history, mainly based on arms race competition for supremacy in nuclear warfare between the United States, the Soviet Union, and their respective allies during the Cold War.

It introduces also contemporary big military issues, missile defense system and nuclear proliferation issues.

The aim of this course is to help students understand international political situations with basic knowledge of nuclear warfare systems.

POL300AC (政治学 / Politics 300)

現代政策学特講Ⅰ (千代田区)

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：オータムセッション/Autumn Session

単位数：2単位

備考（履修条件等）：抽選科目※申請方法については法学部HPを参照（6月案内予定）

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、政治学科科目の中で「政策」の分野に属する実習を中心とする2単位科目である。市ヶ谷キャンパスが所在する千代田区における地域社会の政策課題をフィールドワーク（現地調査）を通じて発見し、考察すること。

なお、沖縄県の2大学（沖縄大学・名城大学）、および千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアムに参加する各大学（大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、専修大学）の学生も受講可能となっている。

【到達目標】

千代田区に関する事前学習、現地実習等を通じて、地域の特性（課題、魅力等）を理解し、課題解決のための方法を提案する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、オータムセッション期間を含む4日間（9月14日～17日：予定）に対面による講義と現地調査、発表を行う。それに加えて、事前にオンデマンド講義も行う。

なお、事前学習や講義や実習では小レポート提出をする。また授業の最後にグループごとに成果発表を行い、さらに終了後には個人レポートを提出する。これらの課題等に対しては、必要に応じて、事前学習、オータムセッション期間中は授業内で、終了後の課題については、学習支援システム上で講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
8月下旬	オリエンテーション	授業の進め方および目的について説明する（オンデマンド）。
8月下旬	事前学習「千代田区概論」	対象となる千代田区に概観を解説する（オンデマンド）。
9月10日 午前	現地実習オリエンテーション	実習の進め方等について共有する。
9月10日 午後	講義：千代田区の政策について	対象となる千代田区行政による取り組みについて、ゲストからの話題提供を行う。
9月11日 午前	現地実習（千代田区内）	調査対象地域を訪問し、調査を実施する。
9月11日 午後	現地実習（千代田区内）	調査対象地域を訪問し、調査を実施する。
9月12日 午前	現地実習（千代田区内）	調査対象地域を訪問し、調査を実施する。
9月12日 午後	グループワーク	調査報告のための作業を行う。

9月13日 成果発表
午前

グループごとに、調査報告や地域の課題解決や発展に関する提案の発表をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現地実習準備、発表準備等のために、必要に応じて授業外の時間での作業が必要になる場合がある。

また、事前学習における小レポート作成、実習準備等は授業外の時間に行うことが前提としている。さらに授業終了後には個人レポート提出を予定している。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

必要に応じて、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループ別発表の評価（40%）、最終個人レポートの評価（10%）、小レポートの評価（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

授業は、対面で行うが、グループ発表とその準備のためにパソコンを使用することを想定している。また、資料配布はデータ配布、事前学習はオンデマンド教材利用することから、オンライン環境が必要になる。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to discover and consider policy issues in the community through fieldwork in Chiyoda Ward.

To acquire the ability to grasp the characteristics of the region and propose methods for solving problems.

You work outside of classroom to prepare for on-site training and presentations.

Grading will be decided based on group presentation (40%), term-end report (10%), and short report (50%).

POL200AC (政治学 / Politics 200)

アメリカ政治史 I

中野 勝郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は「歴史・思想」の科目群に属する科目です。アメリカ合衆国を理解するための前提について検討します。

【到達目標】

アメリカ合衆国を理解するのに必要な視点を構築することをめざします。

アメリカ合衆国は、理解することがむずかしい国です。この授業によって、「アメリカ合衆国とはなにか」という問いにたいする答えを出すことはできないと思いますが、その問いに答えるための補助線を身につけることはできると思います。

また、このような作業をとおして、日本に住むあなたたちが、自分たちの国や社会について思いを巡らせ、「自分たちは何者であるのか」を考える視点を築くための材料を得ることも、この授業の目的です。
The goal of this course is to enhance your understanding of how the U.S. has become what it is now.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業をおこないます。

毎回、授業後にリアクション・ペーパーを提出してもらいます。

次の週の授業では、そのうちのいくつかを取り上げて、復習をします。
In-person lecture.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「アメリカ」と「合衆国」について考える
第2回	アメリカ史における「時間」1	「時間」という視点からアメリカを考える1
第3回	アメリカ史における「時間」2	「時間」という視点からアメリカを考える2
第4回	アメリカ史における「時間」3	「時間」という視点からアメリカを考える3
第5回	アメリカ史における「空間」1	「空間」という視点からアメリカを考える1
第6回	アメリカ史における「空間」2	「空間」という視点からアメリカを考える2
第7回	アメリカ史における「空間」3	「空間」という視点からアメリカを考える3
第8回	アメリカ史における「空間」4	「空間」という視点からアメリカを考える4
第9回	アメリカ史における「人間」1	「人間」という視点からアメリカを考える1
第10回	アメリカ史における「人間」2	「人間」という視点からアメリカを考える2
第11回	アメリカ史における「人間」3	「人間」という視点からアメリカを考える3
第12回	アメリカ史における「人間」4	「人間」という視点からアメリカを考える4

第13回	「時間・空間・人間」再考	アメリカのナショナリズムについて考える
第14回	「文脈」的理解	アメリカ現代社会をアメリカ史の「文脈」において捉える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に適宜参考文献・資料を指示しますので、それを読むようにしてください。

授業以外の学習時間は各回4時間が標準です。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

齋藤真『アメリカとはなにか』（平凡社ライブラリー、1995）（旧版、『アメリカ史の文脈』（岩波書店）でも可）

【成績評価の方法と基準】

学期末試験(50%)、リアクション・ペーパー (50%)

Grading will be decided on the term-end examination and attendance points.

【学生の意見等からの気づき】

ノートを取りやすいように心がける。

【Outline (in English)】

This course aims to analyze several hallmarks of politics and society of U.S.

POL200AC (政治学 / Politics 200)

アメリカ政治史Ⅱ

中野 勝郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は「歴史・思想」の科目群に属する科目です。アメリカ合衆国の政治を歴史的に考察します。

本学は、アメリカ合衆国の社会および人びとの思考様式について考察します。

【到達目標】

アメリカ社会の思考様式の特徴を理解することをめざします。

The goal of this course is to understand the American ways of thinking.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教室での講義形式で授業をおこないます。

毎回、授業終了時に、リアクション・ペーパーを提出してもらいます。

In-person lecture

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リベラリズム 1	1776年と1619年—liberalか illiberalか
第2回	リベラリズム 2	リベラリズム以外の思想が存在しない社会
第3回	デモクラシーと共和主義 1	「デモクラシーの行き過ぎ」と人民主権
第4回	デモクラシーと共和主義 2	リベラリズム vs. コミュニタリアニズム論争
第5回	保守主義 1	欧米の保守主義の異同
第6回	保守主義 2	「リベラリズム」という保守主義
第7回	保守主義 3	レーガン保守主義
第8回	保守主義 4	「保守主義が存在しない」社会から国民の半分以上が保守主義者を辞任する社会への変容
第9回	反知性主義 1	反知性主義とデモクラシー
第10回	反知性主義 2	ポピュリズム
第11回	宗教と政治 1	信仰復興運動
第12回	宗教と政治 2	キリスト教原理主義・福音主義
第13回	トランプ時代の保守主義	トランプ政権を支える保守主義
第14回	アメリカ政治思想の総括	アメリカ的思考様式を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に適宜参考文献・資料を指示しますので、それを読むようにしてください。

授業以外の学習時間は各回4時間が標準です。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験(50%)、リアクション・ペーパーの提出(50%)

Grading will be decided on the term-end examination and attendance points.

【学生の意見等からの気づき】

ノートを取りやすいように心がける。

【その他の重要事項】

この授業は、アメリカ政治史Ⅰの続編です。できるだけ、両方の科目を履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

A History of the American Ways of Thinking

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

文化地理学（1）

村田 陽平

授業コード：A3482 | 曜日・時限：金4/Fri.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の文化地理学において、主要な潮流であるジェンダー地理学を理解することを目的とする。

【到達目標】

空間や場所におけるジェンダーやセクシュアリティ、ポジショナリティを十分に理解し、文化地理学を身近なものとして認識できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書を用いて、文化地理学とジェンダー、セクシュアリティをわかりやすく解説し、毎回リアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義の全体像の提示
第2回	文化地理学とジェンダー	フェミニスト地理学の誕生
第3回	文化地理学とセクシュアリティ(1)	LGBTの空間経験(1)
第4回	文化地理学とセクシュアリティ(2)	LGBTの空間経験(2)
第5回	文化地理学とセクシュアリティ(3)	「女性専用車両」の意味
第6回	文化地理学とポリティクス(1)	政治という場所
第7回	文化地理学とポリティクス(2)	男性・異性愛の空間構造
第8回	文化地理学と広告(1)	自然な風景
第9回	文化地理学と広告(2)	身体と空間
第10回	文化地理学と男性	ホモソーシャルな空間
第11回	文化地理学と女性	地理学界のジェンダー
第12回	文化地理学とポジショナリティ	建築、空間、場所
第13回	文化地理学と現象学(1)	空間の認識論
第14回	文化地理学と現象学(2)	よりよい空間へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の復習や授業中に紹介する関連文献を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

村田陽平（2009）『空間の男性学：ジェンダー地理学の再構築』京都大学学術出版会、¥3800円＋税

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で提出するリアクションペーパー（100％）を成績判定の材料とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course deals with Cultural Geography. It also enhances the development of students' skill in Cultural Geography. The aims and the goals of this course is to help students acquire an understanding of the contemporary Cultural Geography. At the end of the course, students are expected to realize the contemporary Cultural Geography. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, which will need more than 2 hours. Final grade will be decided based on the Short reports.

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

文化地理学 (2)

村田 陽平

授業コード：A3483 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の文化地理学の概要について学ぶ。基本的には、指示するテキストの講読という形で、1980年代以降大きな変貌を遂げた「新しい」文化地理学の内容を知り、その批判的受容につとめることを目的とする。

【到達目標】

新しい文化地理学についての知識を得るとともに、それを基軸にして地球大の人間の生活空間を認識する視点を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

下記に指示するテキストを精読する。担当者が担当部分を読み、それに適宜解説を加えながら、議論していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的の確認
第2回	序章	読解と発表, 議論①
第3回	テキスト第1章	読解と発表, 議論②
第4回	テキスト第2章①	読解と発表, 議論③
第5回	テキスト第2章②	読解と発表, 議論④
第6回	テキスト第3章	読解と発表, 議論⑤
第7回	テキスト第4章①	読解と発表, 議論⑥
第8回	テキスト第4章②	読解と発表, 議論⑦
第9回	テキスト第5章①	読解と発表, 議論⑧
第10回	テキスト第5章②	読解と発表, 議論⑨
第11回	テキスト第6章	読解と発表, 議論⑩
第12回	テキスト第7章①	読解と発表, 議論⑪
第13回	テキスト第7章②	読解と発表, 議論⑫
第14回	テキスト終章	読解と発表, 議論⑬

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。事前の文献読み込みが必須である。それをもとに授業で不明な箇所などを読み解き理解してゆく。

【テキスト（教科書）】

村田陽平（2012）『受動喫煙の環境学：健康とタバコ社会のゆくえ』世界思想社

【参考書】

特に指定はしない。

【成績評価の方法と基準】

口頭の発表時の準備状況と問題設定 (50%)、授業時の議論の内容 (50%) を斟酌して判断・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞文化地理学

＜研究テーマ＞健康の地理学、感情の地理学、空間の男性学

＜主要研究業績＞

村田陽平（2009）『空間の男性学：ジェンダー地理学の再構築』京都大学学術出版会

村田陽平（2012）『受動喫煙の環境学：健康とタバコ社会のゆくえ』世界思想社

【Outline (in English)】

This seminar is on Human Geography, especially on Social and Cultural Geography. The aims and goals of this seminar are to comprehend and present and discuss about contents of selected texts. In addition, for students who must write a graduation thesis can get some practical supports. Grading will be decided based on in-class contribution. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Judgment and evaluation will be made by taking into consideration the state of preparation and problem setting at the time of oral presentation (50%), and the content of discussion during class (50%).

SOC200ZA (社会学 / Sociology 200)

Race, Class and Gender I: Concepts & Issues

Daiki Hiramori

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 火3/Tue.3

その他属性 : <優> <S> <ダ> <未>

【Outline and objectives】

This class sees our society through the lens of race, class and gender to understand how privilege and inequality are produced, maintained, naturalized and challenged. The course will look at how various inequalities are connected to one another through examining global, national and local issues. Students will learn to analyze how race, class and gender are connected to each other as intersecting inequalities in a society and the world, and on that basis, consider the possibility of an equal but diverse world.

【Goal】

By the end of this course, students will be able to: (1) identify and describe the key concepts and main themes in the field of social inequality (remembering/understanding), (2) apply key concepts from the field of social inequality to contemporary social issues in Japan and abroad (applying), (3) compare and contrast various dimensions of social inequality (analyzing), and (4) develop and present their own ideas and perspectives on social inequality (evaluating/creating).

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Foundation: "Academic Reading"	What reading strategies can help us understand academic texts in the social sciences accurately and systematically?
3	Foundation: "Inequality"	What do we mean by inequality?
4	Foundation: "Class"	How do major social scientists conceptualize social class?
5	Social Stratification in Japan	What does social stratification in Japan look like?
6	Foundation: "Race"	What are the main theoretical approaches to race?
7	Critical Race Theory	What are the key premises of Critical Race Theory?
8	Foundation: "Gender"	What are the main theoretical approaches to gender?
9	Gender Inequality in Japan	What does gender inequality in Japan look like?
10	Foundation: "Sexuality"	What are the main theoretical approaches to sexuality?
11	Sexual Orientation and Gender Identity in Japan	How to measure sexual orientation and gender identity on surveys in Japan?
12	Foundation: "Disability"	What is the social model of disability?
13	Foundation: "Intersectionality"	What is intersectionality?
14	Review & Final Exam	What have we learned in this course? Final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

【References】

Further references may be provided based on students' areas of interest.

【Grading criteria】

Participation: 20%

Discussion facilitation: 20%

Weekly reading quizzes: 30%

Final exam: 30%

【Changes following student comments】

Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

【Equipment student needs to prepare】

Many of our in-class activities will require access to the Internet, so please bring a laptop/tablet to every class meeting. Laptops and other devices should be used for purposes directly related to class activities; use of computers for other activities (e.g., checking emails) is non-conducive to a productive learning environment for you as well as the students sitting around you and therefore not allowed.

【Others】

Students are strongly encouraged to take "Race, Class and Gender II" after completing "Race, Class and Gender I." Students who have passed "Race, Class and Gender I" will be given admission priority to the seminar "Intersectionality: Multiple Inequalities."

【Prerequisite】

To take this class, students are expected to have passed "Introduction to Sociology" and "Introduction to Social Research Methods."

ECN200ZA (経済学 / Economics 200)

Foundations of Finance

Shiaw Jia Eyo

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 火 1/Tue.1

Notes : TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module) band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉〈優〉〈未〉

【Outline and objectives】

Learning the fundamental concepts of finance. This is a finance course that focuses on the core principles of finance, including financial statements, financial performance, time value of money financial assets such as bonds, stocks, and risk analysis. Even if you are not planning a career in finance, a working knowledge of finance will help you to understand and interpret financial information around you.

【Goal】

This course presents the fundamental concepts of finance to students. The goal of this class is to understand corporate finance analyses that are used in business. At the end of this course, students will learn how to construct financial statements, calculate various financial ratios, and understand financial assets such as bonds and stocks. Students will acquire the analytical skills necessary to make good financial decisions.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course is taught primarily through lectures. Feedback is given during class time and through tools such as HOPPII or email. Interactive class participation is encouraged.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Introduction and Overview
2	Financial Statements (1)	Construct the Income statement and Balance Sheet
3	Financial Statements (2)	Construct the Statement of Cash Flow
4	Financial Performance (1)	Calculate financial ratios
5	Financial Performance (2)	Analyzing financial ratios
6	The Time Value of Money (1)	Calculate present value, future value, and annuity
7	The Time Value of Money (2)	Understand interest rate, uneven cash flow and amortization table
8	Review & Midterm Exam	Assessing the degree to which you understand the subject
9	Financial Markets (1)	Learn the different financial institutions and the stock market
10	Financial Assets (1)	Understand the determinants of interest rate
11	Financial Assets (2)	Learn about bonds valuation and rating
12	Financial Assets (3)	Understand and calculate stand-alone risk
13	Financial Assets (4)	Understand and calculate risk in a portfolio context
14	Final Exam & Wrap-up	Assessing the degree to which you understand the subject

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to download the lecture slides, read the textbook, and complete any assignments given. Since the finance materials are quite dry and challenging, the preparatory study and review time for this class is at least two hours.

【Textbooks】

Brigham, Eugene, Houston, Joel F. *Essentials of Financial Management*, 4th Edition, Cengage Learning Asia Pte Ltd, 2018.

You are not required to buy the textbook. There are older editions available in the library.

【References】

Further materials will be provided by the instructor.

【Grading criteria】

Students will be evaluated based on class participation (10%), assignments (20%), midterm exam (35%) and a final exam (35%).

【Changes following student comments】

Students in previous years found this course quite challenging but extremely useful and rewarding.

【Equipment student needs to prepare】

You will need to bring a calculator with roots and powers functions during the final exam.

【Others】

This course requires students to like “numbers” because it involves a lot of calculations and analysis. Students who are interested in taking this course must attend the first week of class. A selection process will be conducted during the first week prior to the enrollment of this course.

【Prerequisite】

None

POL200ZA (政治学 / Politics 200)

International Security

Takeshi Yuzawa

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 火3/Tue.3

その他属性 : <優> <未>

【Outline and objectives】

This course delves into the approaches to security studies, a sub-discipline of International Relations (IR). Security studies primarily explore topics such as the causes of interstate and intrastate wars, the conditions necessary for international peace, and the strategies employed by states and non-state actors to ensure their survival and security. Additionally, it examines methods for managing and resolving international and domestic armed conflicts, as well as the impact of new technologies, weapons, and ideas on how states engage in warfare.

【Goal】

The course objectives are:

- (1) to enable students to gain a broader understanding of the key theories and concepts in security studies;
- (2) to empower students to examine major security challenges in the international arena through the lens of relevant theories and concepts;
- (3) to equip students with the ability to formulate their own answers to enduring and contemporary questions inherent in international security studies.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

The course is divided into two segments: The first segment introduces major theories and concepts in security studies, essential for comprehending contemporary security policies and issues. The second segment delves into contemporary security challenges, including armed conflicts, the arms trade and military competition, nuclear proliferation, genocide and mass killings in intrastate wars, and terrorism. Feedback on assignments will be provided during class and office hours.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Military Security	Exploring the concepts of military security
3	Regime Security	Exploring the concepts of regime security
4	Societal Security	Exploring the concepts of societal security
5	Human Security	Exploring the concepts of human security
6	Environmental Security	Exploring the concepts of environmental security
7	Review and Mid-term exam	Review and Written test
8	The Evolution of Modern Warfare	Examining changes in warfare
9	The Arms Trade	Examining the key aspects of the contemporary arms trade
10	Nuclear Proliferation	Examining the important aspects of nuclear proliferation
11	Humanitarian Intervention	Providing an overview of the heated debate in terms of the validity of humanitarian intervention
12	Terrorism	Analyzing the threat that terrorism poses to countries and the world
13	Review and Preparation for the final exam	Review of major topics covered by week 9-13
14	Review and Final Exam	Review and Written test

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to have read the relevant chapters for the books listed in both the textbook and reference sections before attending the lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Allan Collins (ed). *Contemporary Security Studies*, Seventh edition. Oxford University Press, 2025.

【References】

Paul D Williams and Matt McDonald, ed. *Security Studies: An Introduction*. Fourth edition. Routledge, 2023.

John Baylis, James J. Wirtz and Colin S. Gray *Strategy in the Contemporary World*. Seventh Edition. Oxford University Press, 2022.

【Grading criteria】

Contribution to discussion (10%), mid-term examination (45%), final examination (45%)

【Changes following student comments】

Nothing in particular

【Equipment student needs to prepare】

Some course materials will be delivered via the Hoppii.

【Others】

Non-GIS students wishing to take part in this course should have adequate English skills to complete the course work and assignments.

【Prerequisite】

none.

SOC300ZA (社会学 / Sociology 300)

Race, Class and Gender II: Global Inequalities

Daiki Hiramori

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木1/Thu.1

その他属性 : <優> <S> <ダ> <未>

【Outline and objectives】

This class builds on what students have learned in Race, Class and Gender I to look at how inequalities are inter-connected through examining various global issues. Students will learn to analyze how race, class and gender are connected to each other as intersecting inequalities in a society and the world, and on that basis, consider the possibility of an equal but diverse world.

【Goal】

By the end of this course, students will be able to: (1) identify and describe the key concepts and main themes in the field of social demography (remembering/understanding), (2) apply key concepts from the field of social demography to contemporary social issues in Japan and abroad (applying), (3) compare and contrast various population processes and population structures (analyzing), and (4) develop and present their own ideas and perspectives on population issues (evaluating/creating).

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ/Seminar

【Method(s)】

This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり/Yes

【Fieldwork in class】

なし/No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Intersectionality as an Integrative Framework for Race, Class and Gender	Reviewing what was covered in Race, Class and Gender I
3	Population Processes	What is demography? How do demographers study population processes?
4	Population Structures	What is demography? How do demographers study population structures?
5	Theories of Population	How do populations grow and shrink?
6	Fertility	What determines how many children people have?
7	Mortality	Why do people die, and how does mortality vary across populations?
8	Migration	What drives people to move from one place to another?
9	Demography of Race and Ethnicity	How do race and ethnicity shape population patterns and inequalities?
10	Demography of Gender	How do gender shape population patterns and inequalities?
11	Demography of Sexuality	How do sexuality shape population patterns and inequalities?
12	Population Issues in Japan I	Why is Japan experiencing declining fertility?
13	Population Issues in Japan II	Why is Japan experiencing rising anti-immigrant sentiment?
14	Review & Final Exam	What have we learned in this course? Final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

【References】

Further reference may be provided based on students' areas of interest.

【Grading criteria】

Participation: 20%

Discussion facilitation: 20%

Weekly reading quizzes: 30%

Final exam: 30%

【Changes following student comments】

Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

【Equipment student needs to prepare】

Many of our in-class activities will require access to the Internet, so please bring a laptop/tablet to every class meeting. Laptops and other devices should be used for purposes directly related to class activities; use of computers for other activities (e.g., checking emails) is non-conducive to a productive learning environment for you as well as the students sitting around you and therefore not allowed.

【Prerequisite】

To take this class, students are expected to have passed "Race, Class and Gender I."

SOC200ZA (社会学 / Sociology 200)

(GO用) Race, Class and Gender I: Concepts & Issues

Daiki Hiramori

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 火3/Tue.3

Notes : Not Available for ESOP Students. / TOEFL iBT 80 以上、IELTS (Academic Module) band 6.0 以上、TOEIC860 以上、英検 : 準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要場合があります。

その他属性 : <グ> <S> <ダ> <未>

【Outline and objectives】

This class sees our society through the lens of race, class and gender to understand how privilege and inequality are produced, maintained, naturalized and challenged. The course will look at how various inequalities are connected to one another through examining global, national and local issues. Students will learn to analyze how race, class and gender are connected to each other as intersecting inequalities in a society and the world, and on that basis, consider the possibility of an equal but diverse world.

【Goal】

By the end of this course, students will be able to: (1) identify and describe the key concepts and main themes in the field of social inequality (remembering/understanding), (2) apply key concepts from the field of social inequality to contemporary social issues in Japan and abroad (applying), (3) compare and contrast various dimensions of social inequality (analyzing), and (4) develop and present their own ideas and perspectives on social inequality (evaluating/creating).

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Foundation: "Academic Reading"	What reading strategies can help us understand academic texts in the social sciences accurately and systematically?
3	Foundation: "Inequality"	What do we mean by inequality?
4	Foundation: "Class"	How do major social scientists conceptualize social class?
5	Social Stratification in Japan	What does social stratification in Japan look like?
6	Foundation: "Race"	What are the main theoretical approaches to race?
7	Critical Race Theory	What are the key premises of Critical Race Theory?
8	Foundation: "Gender"	What are the main theoretical approaches to gender?
9	Gender Inequality in Japan	What does gender inequality in Japan look like?
10	Foundation: "Sexuality"	What are the main theoretical approaches to sexuality?
11	Sexual Orientation and Gender Identity in Japan	How to measure sexual orientation and gender identity on surveys in Japan?
12	Foundation: "Disability"	What is the social model of disability?
13	Foundation: "Intersectionality"	What is intersectionality?
14	Review & Final Exam	What have we learned in this course? Final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

【References】

Further references may be provided based on students' areas of interest.

【Grading criteria】

Participation: 20%

Discussion facilitation: 20%

Weekly reading quizzes: 30%

Final exam: 30%

【Changes following student comments】

Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

【Equipment student needs to prepare】

Many of our in-class activities will require access to the Internet, so please bring a laptop/tablet to every class meeting. Laptops and other devices should be used for purposes directly related to class activities; use of computers for other activities (e.g., checking emails) is non-conducive to a productive learning environment for you as well as the students sitting around you and therefore not allowed.

【Others】

Students are strongly encouraged to take "Race, Class and Gender II" after completing "Race, Class and Gender I." Students who have passed "Race, Class and Gender I" will be given admission priority to the seminar "Intersectionality: Multiple Inequalities."

【Prerequisite】

To take this class, students are expected to have passed "Introduction to Sociology" and "Introduction to Social Research Methods."

SOC300ZA (社会学 / Sociology 300)

(GO 用) Race, Class and Gender II: Global Inequalities

Daiki Hiramori

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木1/Thu.1

Notes : Not Available for ESOP Students. / TOEFL iBT 80 以上、IELTS (Academic Module) band 6.0 以上、TOEIC860 以上、英検 : 準1 級以上合格かつCSEスコアが2500 点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性 : <グ> <S> <ダ> <未>

[Outline and objectives]

This class builds on what students have learned in Race, Class and Gender I to look at how inequalities are inter-connected through examining various global issues. Students will learn to analyze how race, class and gender are connected to each other as intersecting inequalities in a society and the world, and on that basis, consider the possibility of an equal but diverse world.

[Goal]

By the end of this course, students will be able to: (1) identify and describe the key concepts and main themes in the field of social demography (remembering/understanding), (2) apply key concepts from the field of social demography to contemporary social issues in Japan and abroad (applying), (3) compare and contrast various population processes and population structures (analyzing), and (4) develop and present their own ideas and perspectives on population issues (evaluating/creating).

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Main Teaching Method]

S 演習/ゼミ /Seminar

[Method(s)]

This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Intersectionality as an Integrative Framework for Race, Class and Gender	Reviewing what was covered in Race, Class and Gender I
3	Population Processes	What is demography? How do demographers study population processes?
4	Population Structures	What is demography? How do demographers study population structures?
5	Theories of Population	How do populations grow and shrink?
6	Fertility	What determines how many children people have?
7	Mortality	Why do people die, and how does mortality vary across populations?
8	Migration	What drives people to move from one place to another?
9	Demography of Race and Ethnicity	How do race and ethnicity shape population patterns and inequalities?
10	Demography of Gender	How do gender shape population patterns and inequalities?
11	Demography of Sexuality	How do sexuality shape population patterns and inequalities?
12	Population Issues in Japan I	Why is Japan experiencing declining fertility?
13	Population Issues in Japan II	Why is Japan experiencing rising anti-immigrant sentiment?

14 Review &Final Exam What have we learned in this course? Final exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

[References]

Further reference may be provided based on students' areas of interest.

[Grading criteria]

Participation: 20%

Discussion facilitation: 20%

Weekly reading quizzes: 30%

Final exam: 30%

[Changes following student comments]

Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

[Equipment student needs to prepare]

Many of our in-class activities will require access to the Internet, so please bring a laptop/tablet to every class meeting. Laptops and other devices should be used for purposes directly related to class activities; use of computers for other activities (e.g., checking emails) is non-conducive to a productive learning environment for you as well as the students sitting around you and therefore not allowed.

[Prerequisite]

To take this class, students are expected to have passed "Race, Class and Gender I."

POL200ZA (政治学 / Politics 200)

(GO用) International Security

Takeshi Yuzawa

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 火3/Tue.3

Notes : Not Available for ESOP Students. / TOEFL iBT 80 以上、IELTS (Academic Module) band 6.0 以上、TOEIC860 以上、英検 : 準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性 : <グ> <未>

【Outline and objectives】

This course delves into the approaches to security studies, a sub-discipline of International Relations (IR). Security studies primarily explore topics such as the causes of interstate and intrastate wars, the conditions necessary for international peace, and the strategies employed by states and non-state actors to ensure their survival and security. Additionally, it examines methods for managing and resolving international and domestic armed conflicts, as well as the impact of new technologies, weapons, and ideas on how states engage in warfare.

【Goal】

The course objectives are:

- (1) to enable students to gain a broader understanding of the key theories and concepts in security studies;
- (2) to empower students to examine major security challenges in the international arena through the lens of relevant theories and concepts;
- (3) to equip students with the ability to formulate their own answers to enduring and contemporary questions inherent in international security studies.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

The course is divided into two segments: The first segment introduces major theories and concepts in security studies, essential for comprehending contemporary security policies and issues. The second segment delves into contemporary security challenges, including armed conflicts, the arms trade and military competition, nuclear proliferation, genocide and mass killings in intrastate wars, and terrorism. Feedback on assignments will be provided during class and office hours.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Military Security	Exploring the concepts of military security
3	Regime Security	Exploring the concepts of regime security
4	Societal Security	Exploring the concepts of societal security
5	Human Security	Exploring the concepts of human security
6	Environmental Security	Exploring the concepts of environmental security
7	Review and Mid-term exam	Review and Written test
8	The Evolution of Modern Warfare	Examining changes in warfare
9	The Arms Trade	Examining the key aspects of the contemporary arms trade
10	Nuclear Proliferation	Examining the important aspects of nuclear proliferation
11	Humanitarian Intervention	Providing an overview of the heated debate in terms of the validity of humanitarian intervention
12	Terrorism	Analyzing the threat that terrorism poses to countries and the world
13	Review and Preparation for the final exam	Review of major topics covered by week 9-13
14	Review and Final Exam	Review and Written test

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to have read the relevant chapters for the books listed in both the textbook and reference sections before attending the lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Allan Collins (ed). *Contemporary Security Studies*, Seventh edition. Oxford University Press, 2025.

【References】

Paul D Williams and Matt McDonald, ed. *Security Studies: An Introduction*. Fourth edition. Routledge, 2023.

John Baylis, James J. Wirtz and Colin S. Gray *Strategy in the Contemporary World*. Seventh Edition. Oxford University Press, 2022.

【Grading criteria】

Contribution to discussion (10%), mid-term examination (45%), final examination (45%)

【Changes following student comments】

Nothing in particular

【Equipment student needs to prepare】

Some course materials will be delivered via the Hoppii.

【Others】

Non-GIS students wishing to take part in this course should have adequate English skills to complete the course work and assignments.

【Prerequisite】

none.

CAR100LG（キャリア教育 / Career education 100）

キャリアデザイン入門

枡中 美佐

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：火3/Tue.3 | キャンパス：市ヶ谷
 備考（履修条件等）：入学年度によって授業コードが異なります。
 多摩学部の学生で「キャリアデザイン論」を履修済みの方は、本科目を履修することはできません。
 2024年度以前入学者：授業コード「A9825～A9833」の授業を履修登録
 2025年度以降入学者：授業コード「A9810～A9818」の授業を履修登録
 その他属性：〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。
 授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会や働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。
 そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS（Plan, Do, See）サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。
 最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-V」に関連。
 大学のディプロマポリシー詳細はこちら。
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】
 L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要、進め方、成績評価方法等を説明する。 あわせて「キャリアとは何か」について導入的な講義を行う。
第2回	大学での学び	大学とはどういう場なのか、何のために大学で学ぶのか。また、大学での経験が今後のキャリアにどのようにつながるのかを考え、理解する。

第3回	学生生活と就職の準備	就職活動の開始時期や必要な準備について、卒業生データをもとにキャリアセンター職員が解説する。
第4回	働くことの意味	働くとはどういうことなのか？ 激変する社会環境と雇用にも触れながら、これからの時代の「働く」をキャリア理論を交えていく。 働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から考察する。
第5回	自己を知る	アセスメントを通じて自らの特性や強みを把握し、言語化する。 グループワークを通し、自己理解を高め、今後のキャリア選択に資する基盤を形成する。
第6回	学生生活の過ごし方	大学生活を有意義に過ごすために、目標設定、行動計画の立案、実行方法について学ぶ。
第7回	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なる。 インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので積極的な参加を期待したい。本授業では窓口であるキャリアセンター職員が過去の先輩の事例や参加する際の注意点などを解説する。 キャリア形成に不可欠な要素としてのコミュニケーションを学ぶ。 社会における人間関係やチームワークに関する理解を深め、心理的安全性、協働、職場関係性について考える。
第8回	コミュニケーション	就活を採用される立場からだけでなく、採用する側の視点で考えてみる。 企業社会で求められる人材とはどういう人だろうか。 ゲスト講師と共に考え、議論する。
第9回	企業の採用活動	アスリートは現役時代から学業や仕事とのデュアルキャリアが求められる。そのための戦略やビジネスとスポーツに通じるチーム力、組織力についてゲスト講師と共に考え、議論する。
第10回	アスリートのキャリア	グローバル人材として多様な文化を知る中で、自分らしいキャリアを構築していくために必要な学び・経験とは何か、ゲスト講師と共に考え、議論する。
第11回	グローバル人材のキャリア	キャリアを仕事に限定せず、人生全体の視点から捉える。 仕事と生活を統合し、自らのキャリアデザインを検討する。
第12回	ライフキャリア	多様な働き方が広がる現代社会を背景に、多様性の観点から自分らしい働き方をゲスト講師を交え、探究する。
第13回	働き方と多様性	これまでの学びを振り返り、将来の目標達成に向けた行動計画・戦略を立て、宣言する。
第14回	将来のキャリアに向けて	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は4時間を目安としています。内容としてはレポートのための課題本を読む時間を含めています。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず毎回投影資料で説明を行います。

【参考書】

参考になる書籍・映画等を講義の中で適宜ご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点60%

レポート40%

・毎回のリアクションペーパー提出<30%>

・授業への貢献＝グループワークへの積極的参加・発言・発表・質問・課題レポートへの取り組み<30%>

・期末レポート<40%>

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

・オンライン授業用のPCまたはタブレット端末（パソコンの使用を推奨します）

・筆記用具

・課題・リアクションペーパーの提出は「学習支援システム」を通じて行います。

※他に必要なものがあれば、授業の中で適宜指示をします。

【その他の重要事項】

●「実務経験のある教員による授業」

担当教員は法政大の修了生です。電通グループで営業・人事採用・育成担当経験があり、皆さんのライフキャリアに役立つ企業人視点に基づいた授業を展開します。

●授業実施形態や授業テーマに関して

授業実施日の授業形態（オンライン／対面）が変更になる可能性があります。各回の授業テーマや形態の詳細は、逐次「学習支援システム」よりお知らせします。また、授業内でも案内していきます。

●どのような雰囲気での授業か

グループワークを多く行うため、様々な学部の学生とコミュニケーションを取りながらワークショップ形式で授業を進行していきます。また、回によっては各テーマに沿って、各界で活躍するゲスト講師が参加し、多様なキャリアに関するリアルな声を届けていく予定です。よってコミュニケーションを積極的に取りたいという学生に向いている授業です。

●受講者制限

受講希望者が教室定員を超過する場合は、選抜を行うことがあります。

●配当年次

入学年度によって配当年次が異なります。

2024年度以前入学者：法文営国環キG1年、経社1～2年、現ス1～4年

2025年度以降入学者：法文営国環キG経社現ス1～3年

●履修条件

入学年度によって授業コードが異なります。

多摩学部の学生で「キャリアデザイン論」を履修済みの方は、本科目を履修することはできません。

2024年度以前入学者：授業コード「A9825～A9833」の授業を履修登録

2025年度以降入学者：授業コード「A9810～A9818」の授業を履修登録

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this class, I hope to help you make the most of your student life by exploring two key themes: 1) how to spend your time at university, and 2) the significance of working in society.

The course provides fundamental knowledge about professional life and long-term life planning. The goal is to cultivate an autonomous attitude that enables you to think and act independently.

【Learning Objectives】

The objective is for students to develop the ability to think critically and take the initiative. While secondary education often focuses on finding pre-determined "correct" answers quickly, society requires individuals to identify problems and take action toward solutions. In the real world, there is rarely a single "correct" answer, and what is right today may change tomorrow.

In such an environment, you must identify your own issues and implement solutions. Over your four years at university, I hope you will acquire the ability to maintain the PDS (Plan, Do, See) cycle of continuous thought and action. We aim to take the first steps toward these actions through this six-month course.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Students are expected to spend approximately 4 hours on preparation and review. This includes time allocated for reading the assigned books for the report.

【Grading Criteria / Policy】

Class Participation: 60%

Reports: 40%

Attendance & Participation (30%): Submission of response papers for each class.

Class Contribution (30%): Active involvement in discussions, presentations, questions, and progress on assignment reports.

Final Report (40%): Comprehensive assessment of the final submission.

CAR100LG（キャリア教育 / Career education 100）

キャリアデザイン入門

高橋 実

開講時期：春学期授業/Spring ｜ 単位数：2単位
曜日・時限：金2/Fri.2 ｜ キャンパス：市ヶ谷
備考（履修条件等）：入学年度によって授業コードが異なります。
多摩学部の学生で「キャリアデザイン論」を履修済みの方は、本科目を履修することはできません。
2024年度以前入学者：授業コード「A9825～A9833」の授業を履修登録
2025年度以降入学者：授業コード「A9810～A9818」の授業を履修登録
その他属性：〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。
授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会や働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。
そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS（Plan, Do, See）サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。
最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-V」に関連。
大学のディプロマポリシー詳細はこちら。
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。
初回の授業（第1回）は、オンデマンド授業（コンテンツ動画配信）で行います（登録者に学習支援システムを通じて案内します）。
対面型の授業以外に、学習支援システムやメールを積極的に活用しますので、受講期間は必ずチェックを行うようにしてください。

■課題等の提出

- ・学習支援システムを利用して行います。
- ・授業後のリアクションペーパーの提出、最終レポート、その他講師が授業で指定した課題等の提出となります。

■フィードバック方法

- ・提出された課題については、学習支援システムを通じてフィードバックを行います。
- ・講師とのメールも活用してフィードバックを行います。
- ・提出された課題を、授業内で取り上げる場合があります。

■特別課題について

- ・授業計画以外に、本講義の目的に沿ってオンデマンド教材にて特別授業を行う場合があります。

■受講ルール

本授業の大きなテーマは「自立（自律）」です。そのため、授業内では「社会のルール」を体験していただきます。授業内で詳しく説明しますので、特に第1回のオリエンテーションは必ず視聴してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	【オンデマンド授業（オンラインによる動画視聴）】多くの企業経験のある現役人事で、複業（パラレルワーカー）として働いている講師のキャリアを紹介し、授業の内容、進め方、受講のルールなど、この授業を通して何が得られるかを説明します。じつは多くの大人は「大学でもっと多くのことを学んでおけば良かった」と考えています。大学は、キャリアの始まり。学び方も生活も大きく変わります。大学という場所では何を学び、どんな姿勢で過ごしていくべきなのかを考えます。
2	大学での学び	大学を卒業すると、多くの皆さんが社会に出ていきます。このステップは、人生でも最大級のトランジション（変わり目）になります。そこで何がかわるのかを学び、大学生活で何をすべきかを考えます。
3	社会に出るというトランジション（変わり目）	「働く」意味の一つは「労働に対する対価（＝給料）を得る」というものですが、果たしてそれだけでいいのでしょうか。働くことは本当に辛いことなのでしょうか。将来の皆さんの「働く意味」を考え、働くことを通じて自己実現し、どのように幸せになっていくのかを考えます。
4	働くことの意味	これからの世の中は大きく変化していきます。日本是世界でも未曾有の少子化による労働人口減少に直面します。技術革新も進み、時代も大きく変化していく未来でどのように生きていくべきなのか。皆さんを取り巻く社会環境の変化からキャリア形成を考えます。
5	社会環境の変化とキャリア形成	ダイバーシティ（多様性）が世の中ではどんどん進んでいます。働く人も環境も多様になり、働き方が大きく変わります。現役人事パラレルワーカー（複業者）の講師が働き方の語るリアルを通して、皆さんのこれからのキャリアを考えます。
6	働き方と多様性	現役人事がホンネを語る。企業は何を考え採用を行っているのか。就活学生をどのように見ているのかを赤裸々にお話しします。皆さんと逆の立場の人事を理解することで、自分のこれからのキャリア形成を考えます。
7	人事が考えていること～人事のホンネ～	

- 8 組織のリアル～職場の人間関係・コミュニケーションを考える～
- 9 キャリアモデルケーススタディ～大人がキャリアを語る～
- 10 社会で「評価される」とはどういうことか
- 11 インターンシップ～キャリアセンターがホンネで語る～
- 12 【リアル座談会】企業人事によるホンネトーク
- 13 学生生活と就職の準備～キャリアセンターがホンネで語る～
- 14 学生生活の過ごし方
- 社会に出ると、多くの人は組織に属し、周囲の人のコミュニケーションが必ず必要となります。好きでない人と付き合わねばならないことも多くあります。組織ではどのようにコミュニケーションをとっていくべきなのか。上司や同僚とどう付き合うべきか、コミュニケーションのポイントを考えます。
- 【オンデマンド授業】現役で働いている大人数名に、自身のキャリアと、キャリアを培ってきた想いなどをお話いただきます。そして、そのキャリアモデルをもとに、自分自身のこれからのキャリアを考えます。
- お給料はどうすれば上がるのか？ 社会に出ると学生時代とは評価の方法が劇的に変わります。社会人の評価の仕組みを理解し、どのようにキャリアを作っていくべきなのかを考えます。
- インターンシップとひとことで言っても多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なります。インターンシップは大学に在学しながら社会人の体験ができる貴重な機会。本授業では大学キャリアセンター職員が過去の先輩の事例や参加の注意点などを解説します。
- 現役の企業人事数名をお呼びして、「企業人事のホンネ」をリアルに語ってもらう座談会を行います。ここだけの話をたくさんしていただきます。
- 就職はキャリアのゴールではないですが、大学生活に重なる就職活動とはどのようなものか、そのために準備しておくことを大学キャリアセンター職員が解説します。
- 春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどう過ごすかを考える。授業の総括や振り返りを通して、卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを考え、自分自身の主体的な行動計画を企画していきます。
- (授業内容は変わることがあります)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

毎回授業後に「リアクションペーパー」の提出課題があります。

また、本授業の受講者は必ず「本授業専用のキャリアマイノート」を準備し、毎回の授業の内容および感じたことを記載してもらいます。

14回の授業のほか、オンデマンド教材による特別授業もあります（キャリアデザイン入門の他の講師とのコラボレーション特別授業など）。

なお、上記のほか、授業内で案内した書籍や、自主的なレポートは積極的に受け付けます(自主的な取り組みは加点評価を行います。積極的に取り組んでみてください)

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

授業で使用了資料等は、授業後に配布します。

【参考書】

授業内で、参考になる書籍を適宜案内します。積極的に読んでください。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業後に提出してもらうリアクションペーパーが70%。期末レポートが30%の割合で評価します。また、平常点も加味します。皆さんの理解度を深めるため授業の8割の出席をしてください。

本授業は、授業の内容を通して「自らのキャリアと向き合う」ことを求めます。単に授業を聞くだけでなく、以下の点を授業後のリアクションペーパー、最終課題等では常に求めます。

①考察をする

「考察」とは「物事を明らかにするために調べて考えること」です。授業で伝えた内容をもとに、さらに自分自身で「考察」してもらいます。

②自分自身に向き合う

本授業は「自らのキャリアを考える」ことを主眼に置いています。授業内容をもとに必ず自分自身に照らして自身のキャリアと向き合ってください。

③自身の行動に落とし込む

本授業で伝えた知見は、自身の行動が変わることを期待しています。小さなことからでも具体的な行動目標を立てて実行してみてください。

また、提出を求める課題以外でも、授業で案内した書籍を読んで自分自身を振り返ったり、授業内容をもとに「行動した」レポートなどは、随時任意で提出することができます。その場合、提出内容を精査した上で、加点评価として加味します。積極的に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1) 様々な企業人事の話聞けるように、「企業人事による人事座談会」を講義に入れています。直接企業の人事としての接点の機会を増やしています。

2) 授業内で、これまで以上に学生間で交流が持てるようにディスカッション機会を増やしています。

【学生が準備すべき機器他】

本授業専用「キャリアマイノート」を必ず事前準備して、毎回の授業に臨んでください。授業内で学んだこと、そして感じたことを積極的にキャリアマイノートに記載してください。そのための筆記用具は必ず持参してください。

授業内では、学習支援システムや相互チャットツールも活用します。パソコンも持参してください。

また、第1回目の講義のほか、数回オンラインを活用した講義を行います。また、毎回の講義の情報や課題提出、コミュニケーションのために学習支援システムやメール等を積極的に活用します。そのため、パソコンおよびインターネット接続が必須になります。受講者の皆さんは準備し、随時チェックを行ってください。

【その他の重要事項】

【その他の重要事項 / Others】

本講義は「自分自身のキャリアを真剣に考えたい人」の受講を勧めます。

自分自身と向き合うためには、時間と熟慮が必要です。これはかなり厄介で面倒なプロセスです。本講義では、徹底的に自分自身と向き合ってもらうため、積極的な受講意識を持っている方にお勧めします（自分に向き合うことは決して楽ではありません）。

本気で自身のキャリアを考えたい人には、将来社会人になってからも活用できる知識とノウハウが身に着くはずで。

■講師プロフィール

新卒でJCB入社、その後NTT、トヨタグループ企業で新規事業企画、営業などを歴任。その後40歳にして人事に転身。トヨタファナンス、創業100年企業、IT企業のHDE（現HENNGE）で人事部長を歴任。これまで2,000人を超える新卒学生と面接を行っている。

2018年から現職。「マイクロ人事部長」として、パラレルワーク（複業）を行って複数社の企業の組織改革や人事に携わっている。現職の人事としてリアリティのあるキャリアデザイン講義となります。

https://www.dodadsj.com/content/180403_takahashi/

<https://bizhint.jp/report/398484>

【受講者制限】

受講希望者が教室定員を超過する場合は、選抜を行うことがあります。

【配当年次】

入学年度によって配当年次が異なります。

2024年度以前入学者：法文営国環キG1年、経社1～2年、現ス1～4年

2025年度以降入学者：法文営国環キG経社現ス1～3年

【履修条件】

入学年度によって授業コードが異なります。

多摩学部の学生で「キャリアデザイン論」を履修済みの方は、本科目を履修することはできません。

2024年度以前入学者：授業コード「A9825～A9833」の授業を履修登録

2025年度以降入学者：授業コード「A9810～A9818」の授業を履修登録

【Outline (in English)】

【Course Outline】

We will discuss your university life and working in society together. We aim to support you in making the most of your university life.

The purpose of this class is to provide you with fundamental knowledge and perspectives that are essential for building a meaningful career and life in society.

【Learning Objectives】

This class aims to help you develop the mindset and ability to think and act independently.

【Learning Activities Outside of the Classroom】

Students are expected to read the relevant chapters from the textbook before and after each class meeting. Additionally, students are required to keep a career journal as part of this class. You are expected to spend approximately two hours preparing for each class meeting.

【Grading Criteria / Policy】

Your final grade will be based on the following criteria:

- Short reports after each class meeting (70%)
- Final reports (30%)

CAR100LG（キャリア教育 / Career education 100）

キャリアデザイン入門

藤澤 広美

開講時期：春学期授業/Spring ｜ 単位数：2単位
 曜日・時限：金3/Fri.3 ｜ キャンパス：市ヶ谷
 備考（履修条件等）：入学年度によって授業コードが異なります。
 多摩学部の学生で「キャリアデザイン論」を履修済みの方は、本
 科目を履修することはできません。
 2024年度以前入学者：授業コード「A9825～A9833」の授業を履
 修登録
 2025年度以降入学者：授業コード「A9810～A9818」の授業を履
 修登録
 その他属性：〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということにつ
 いて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせる
 よう支援していきたいと思ひます。
 授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社
 会や働くということについての基本的な知見を提供します。これら
 を通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この
 授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標としま
 す。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ
 早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問
 題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰
 かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではない
 でしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。
 そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行
 し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら
 行動し続ける姿勢、言い換えればPDS（Plan, Do, See）サイクルを
 回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思ひます。
 最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにし
 て、何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され
 たの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
 に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-V」に関連。
 大学のディプロマポリシー詳細はこちら。
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り
 入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グル
 ープワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要、進め方、成績評価 方法等を説明する。あわせて、 「キャリアとは何か」について導 入的な講義を行う。
2	大学での学び	大学での学びや経験が、社会人 としてのキャリアにどのように つながるのかを理解する。授業 や課外活動を通じて主体的に取 り組むことの意義について考察 する。

3	学生生活と就職の準備	就職活動の開始時期や必要な準備について、卒業生データをもとにキャリアセンター職員が解説する。
4	働くことの意味	「なぜ働くのか」という問いに向き合い、働くことの意味や価値について多面的に考察する。
5	自己理解とキャリア	自己理解とは何かについて整理し、キャリアを考えるうえで自己理解に取り組む意義や基本的な姿勢について学ぶ。
6	自己を知る（1）	自己形成に影響を与えた出会いや経験を振り返り、自分自身の価値観や関心について理解を深める。
7	自己を知る（2）	自己理解に関わる代表的なアセスメントを実施し、自身の特性を把握することで自己理解を深める。
8	人間関係とコミュニケーション	社会のなかで形成されるキャリアや人間関係に関わるコミュニケーションについて学ぶ。
9	多様なキャリアの捉え方	正規雇用、非正規雇用、専門職、フリーランスなど、多様なはたらき方の特徴と課題を整理する。
10	偶然や転機の活かし方	偶然や予期せぬ出来事がキャリアに与える影響について学び、キャリアとの向き合い方を考える。
11	学生生活の過ごし方	大学生活をどのように過ごすかという視点から、自分らしい学び方や取り組み方について考える。
12	インターンシップ	インターンシップをキャリアを試行する機会として捉え、先輩の事例や参加にあたっての留意点について、キャリアセンター職員が紹介する。
13	働き方と多様性	キャリアを仕事に限定せず、人生全体の視点から捉える。仕事と生活を統合したキャリアデザインについて考える。
14	どのような大学生活を送るのか	大学生活を有意義に過ごすために、目標設定、行動計画の立案、実行方法について学ぶ。これまでの学びを振り返り、将来の目標達成に向けた大学生活の計画および目標を立てる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回各講義に関連した資料を配布します。
 資料は「授業支援システム」上にPDFファイルにて配布します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、以下の通りです。
 リアクションペーパー（毎回）：40%
 ・各回のテーマに対する理解度、新たな気づき、自身の考えが記述されているかを評価します。
 授業への参画：20%
 ・グループワークへの積極的な関わりや授業内での発言・質問など、主体的な参加態度を評価します。
 期末レポート：40%
 ・課題の趣旨を踏まえた論理構成や、考察の質（具体性・独自性）を重視して評価します。
 なお、指定文字数や提出期限の遵守は必須条件（評価の前提）とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

授業では、レジュメやワークシートの配布、課題提出等に学習支援システムを使用します。

そのため、スマートフォンよりも、PCまたはタブレット端末を使用することを推奨します。

【その他の重要事項】

【講師プロフィール】

HR系ベンチャー企業にてコンサルティング業務に従事後、メーカー系販社にて法人営業を担当。その間、社会人大学院（修士課程）に進学しました。修了後は、大学でキャリアカウンセラーとして学生支援に携わったのち、大学教員となりました。専門はキャリア教育・人材マネジメントです。博士（マネジメント）。「学びとキャリアを科学する」をテーマに、現場での実践と研究の往還を大切にしながら活動しています。

【授業形態】

講師の都合により、対面で実施予定の授業がオンラインに変更となる場合があります。変更がある場合は、授業内および学習支援システムにて事前にお知らせします。

【受講者制限】

受講希望者が教室定員を超過する場合は、選抜を行うことがあります。

【配当年次】

入学年度によって配当年次が異なります。

2024年度以前入学者：法文営国環キG1年、経社1～2年、現ス1～4年

2025年度以降入学者：法文営国環キG経社現ス1～3年

【履修条件】

入学年度によって授業コードが異なります。

多摩学部の学生で「キャリアデザイン論」を履修済みの方は、本科目を履修することはできません。

2024年度以前入学者：授業コード「A9825～A9833」の授業を履修登録

2025年度以降入学者：授業コード「A9810～A9818」の授業を履修登録

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, we will explore together ① how to spend your time at university and ② what it means to work in society, aiming to support you in making your student life meaningful. The course will provide essential perspectives for navigating the longer term of your life, as well as fundamental insights into society and work. Through these, the goal is to cultivate an attitude that enables you to think for yourself and take action. (Learning Objectives)

Our goal is for you to learn to think for yourselves and take initiative in your actions. Up through high school, including entrance exams, you were given problems and expected to find the correct answer as quickly as possible. However, in society, you must discover problems on your own and take action to solve them. Furthermore, no one will provide you with the correct answer. There may not even be a single correct answer. What is correct today may not be correct tomorrow.

In such an environment, what is required is the attitude to identify challenges yourself, devise solutions, and persistently put them into practice. During your four years at university, I hope you will develop the fundamental ability to continuously think and act—in other words, to cycle through the PDS (Plan, Do, See) process.

It's perfectly fine to start with small steps. Over the next six months, let's aim to take some action inspired by your classes.

(Learning activities outside of classroom)

Preparation and review time for this class is typically 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be as follows:

Reaction Papers (each session): 40%

・ Evaluated based on understanding of each session's theme, inclusion of new insights, and expression of personal thoughts.

Class Participation: 20%

・ Evaluated based on proactive involvement in group work, in-class contributions such as speaking up and asking questions, and overall engagement.

Final Report: 40%

・ Evaluation emphasizes logical structure aligned with the assignment's purpose and the quality of analysis (specificity and originality).

Note: Adherence to the specified word count and submission deadline is a mandatory requirement (a prerequisite for evaluation).

CAR100LG（キャリア教育 / Career education 100）

キャリアデザイン入門

藤澤 広美

開講時期：春学期授業/Spring ｜ 単位数：2単位
 曜日・時限：金4/Fri.4 ｜ キャンパス：市ヶ谷
 備考（履修条件等）：入学年度によって授業コードが異なります。
 多摩学部の学生で「キャリアデザイン論」を履修済みの方は、本科目を履修することはできません。
 2024年度以前入学者：授業コード「A9825～A9833」の授業を履修登録
 2025年度以降入学者：授業コード「A9810～A9818」の授業を履修登録
 その他属性：〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。
 授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会や働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。
 そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS（Plan, Do, See）サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。
 最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-V」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要、進め方、成績評価方法等を説明する。あわせて、「キャリアとは何か」について導入的な講義を行う。
2	大学での学び	大学での学びや経験が、社会人としてのキャリアにどのようにつながるのかを理解する。授業や課外活動を通じて主体的に取り組むことの意義について考察する。

3	学生生活と就職の準備	就職活動の開始時期や必要な準備について、卒業生データをもとにキャリアセンター職員が解説する。
4	働くことの意味	「なぜ働くのか」という問いに向き合い、働くことの意味や価値について多面的に考察する。
5	自己理解とキャリア	自己理解とは何かについて整理し、キャリアを考えるうえで自己理解に取り組む意義や基本的な姿勢について学ぶ。
6	自己を知る（1）	自己形成に影響を与えた出会いや経験を振り返り、自分自身の価値観や関心について理解を深める。
7	自己を知る（2）	自己理解に関わる代表的なアセスメントを実施し、自身の特性を把握することで自己理解を深める。
8	人間関係とコミュニケーション	社会のなかで形成されるキャリアや人間関係に関わるコミュニケーションについて学ぶ。
9	多様なキャリアの捉え方	正規雇用、非正規雇用、専門職、フリーランスなど、多様なはたらき方の特徴と課題を整理する。
10	偶然や転機の活かし方	偶然や予期せぬ出来事がキャリアに与える影響について学び、キャリアとの向き合い方を考える。
11	学生生活の過ごし方	大学生活をどのように過ごすかという視点から、自分らしい学び方や取り組み方について考える。
12	インターンシップ	インターンシップをキャリアを試行する機会として捉え、先輩の事例や参加にあたっての留意点について、キャリアセンター職員が紹介する。
13	働き方と多様性	キャリアを仕事に限定せず、人生全体の視点から捉える。仕事と生活を統合したキャリアデザインについて考える。
14	どのような大学生活を送るのか	大学生活を有意義に過ごすために、目標設定、行動計画の立案、実行方法について学ぶ。これまでの学びを振り返り、将来の目標達成に向けた大学生活の計画および目標を立てる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回各講義に関連した資料を配布します。資料は「授業支援システム」上にPDFファイルにて配布します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、以下の通りです。

リアクションペーパー（毎回）：40%

・各回のテーマに対する理解度、新たな気づき、自身の考えが記述されているかを評価します。

授業への参画：20%

・グループワークへの積極的な関わりや授業内での発言・質問など、主体的な参加態度を評価します。

期末レポート：40%

・課題の趣旨を踏まえた論理構成や、考察の質（具体性・独自性）を重視して評価します。

なお、指定文字数や提出期限の遵守は必須条件（評価の前提）とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

授業では、レジュメやワークシートの配布、課題提出等に学習支援システムを使用します。

そのため、スマートフォンよりも、PCまたはタブレット端末を使用することを推奨します。

【その他の重要事項】

【講師プロフィール】

HR系ベンチャー企業にてコンサルティング業務に従事後、メーカー系販社にて法人営業を担当。その間、社会人大学院（修士課程）に進学しました。修了後は、大学でキャリアカウンセラーとして学生支援に携わったのち、大学教員となりました。専門はキャリア教育・人材マネジメントです。博士（マネジメント）。「学びとキャリアを科学する」をテーマに、現場での実践と研究の往還を大切にしながら活動しています。

【授業形態】

講師の都合により、対面で実施予定の授業がオンラインに変更となる場合があります。変更がある場合は、授業内および学習支援システムにて事前にお知らせします。

【受講者制限】

受講希望者が教室定員を超過する場合は、選抜を行うことがあります。

【配当年次】

入学年度によって配当年次が異なります。

2024年度以前入学者：法文営国環キG1年、経社1～2年、現ス1～4年

2025年度以降入学者：法文営国環キG経社現ス1～3年

【履修条件】

入学年度によって授業コードが異なります。

多摩学部の学生で「キャリアデザイン論」を履修済みの方は、本科目を履修することはできません。

2024年度以前入学者：授業コード「A9825～A9833」の授業を履修登録

2025年度以降入学者：授業コード「A9810～A9818」の授業を履修登録

【Outline (in English)】

((Course outline))

In this course, we will explore together ① how to spend your time at university and ② what it means to work in society, aiming to support you in making your student life meaningful. The course will provide essential perspectives for navigating the longer term of your life, as well as fundamental insights into society and work. Through these, the goal is to cultivate an attitude that enables you to think for yourself and take action. (Learning Objectives)

Our goal is for you to learn to think for yourselves and take initiative in your actions. Up through high school, including entrance exams, you were given problems and expected to find the correct answer as quickly as possible. However, in society, you must discover problems on your own and take action to solve them. Furthermore, no one will provide you with the correct answer. There may not even be a single correct answer. What is correct today may not be correct tomorrow.

In such an environment, what is required is the attitude to identify challenges yourself, devise solutions, and persistently put them into practice. During your four years at university, I hope you will develop the fundamental ability to continuously think and act—in other words, to cycle through the PDS (Plan, Do, See) process.

It's perfectly fine to start with small steps. Over the next six months, let's aim to take some action inspired by your classes. (Learning activities outside of classroom)

Preparation and review time for this class is typically 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be as follows:

Reaction Papers (each session): 40%

・ Evaluated based on understanding of each session's theme, inclusion of new insights, and expression of personal thoughts.

Class Participation: 20%

・ Evaluated based on proactive involvement in group work, in-class contributions such as speaking up and asking questions, and overall engagement.

Final Report: 40%

・ Evaluation emphasizes logical structure aligned with the assignment's purpose and the quality of analysis (specificity and originality).

Note: Adherence to the specified word count and submission deadline is a mandatory requirement (a prerequisite for evaluation).

CAR100LG（キャリア教育 / Career education 100）

キャリアデザイン入門

副田 あかね

開講時期：春学期授業/Spring ｜ 単位数：2単位
曜日・時限：水3/Wed.3 ｜ キャンパス：市ヶ谷
備考（履修条件等）：入学年度によって授業コードが異なります。
多摩学部の学生で「キャリアデザイン論」を履修済みの方は、本科目を履修することはできません。
2024年度以前入学者：授業コード「A9825～A9833」の授業を履修登録
2025年度以降入学者：授業コード「A9810～A9818」の授業を履修登録
その他属性：〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。
授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会や働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。
そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS（Plan, Do, See）サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。
最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-V」に関連。
大学のディプロマポリシー詳細はこちら。
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要、進め方、成績評価方法等を説明する。あわせて、「キャリアとは何か」について導入的な講義を行う。
2	大学での学び	大学での経験が社会人としてのキャリアにどのようにつながるかを理解する。授業や課外活動を通じて主体的に取り組むことの意義を考察する。

3	学生生活と就職の準備	就職活動の開始時期や必要な準備について、卒業生データをもとにキャリアセンター職員が解説する。
4	働くことの意味	「なぜ働くのか」という根源的な問いに向き合い、働くことの意味や価値を多面的に考察する。
5	自己理解とキャリア	自己理解とは何かについて整理し、キャリアを考えるうえで自己理解に取り組む意義や基本的な姿勢について学ぶ。
6	自己を知る	自己理解に関わる代表的なアセスメントを実施し、自身の特性を把握することで自己理解を深める。
7	人間関係とコミュニケーション	社会のなかで形成されるキャリアや人間関係に関わるコミュニケーションについて学ぶ。
8	多様なキャリアの捉え方	正規雇用、非正規雇用、専門職、フリーランスなど、多様なはたらき方の特徴と課題を整理する。
9	グローバル化社会と人材	国や地域の枠を超えて働くことについて学び、どのような人材として成長していくか考える。
10	偶然や転機を活かすキャリア	偶然や予期せぬ出来事がキャリアに与える影響について学び、キャリアとの向き合い方を考える。
11	学生生活の過ごし方	大学生活をどのように過ごすかという視点から、自分らしい学び方や取り組み方について考える。
12	インターンシップ	インターンシップをキャリアを試行する機会として捉え、先輩の事例や参加にあたっての留意点についてキャリアセンター職員が紹介する。
13	働き方と多様性	キャリアを仕事に限定せず、人生全体の視点から捉え、仕事と生活を統合したキャリアデザインについて考える。
14	どのような大学生活を送るのか	大学生活を有意義に過ごすために、目標設定、行動計画の立案、実行方法について学び、将来の目標達成に向けた大学生活の計画および目標を立てる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回各講義に関連した資料を配布します。資料は「授業支援システム」上に PDF ファイルにて配布します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、以下の通りです。
リアクションペーパー（毎回）：40%
・各回のテーマに対する理解度、新たな気づき、自身の考えが記述されているかを評価します。
授業への参画：20%
・グループワークへの積極的な関わりや授業内での発言・質問など、主体的な参加態度を評価します。
期末レポート：40%
・課題の趣旨を踏まえた論理構成や、考察の質（具体性・独自性）を重視して評価します。なお、指定文字数や提出期限の遵守は必須条件（評価の前提）とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

授業では、レジュメやワークシートの配布、課題提出等で授業支援システムを利用します。

そのため、スマートフォンよりも、PCまたはタブレット端末を使用することを推奨します。

【その他の重要事項】

大学卒業後、現在に至るまで、外資系企業数社において20年以上にわたり人事業務に従事してきました。採用、教育研修、制度設計、キャリア支援、組織風土づくりなど、組織における「人材」に関わる幅広い業務を経験しています。特に、さまざまな国の人々と協働し、多様性を活かしながら組織文化をより良くする取り組みを強みとしています。

また、働きながら社会人大学院に進学し、経営学およびリーダーシップ開発を専門として学んできました。実務と学びを往還しながら、「働くこと」と「学ぶこと」を探究し続けています。さらに、10年にわたり本学の体育会チームの運営にも携わり、学生一人ひとりの大学生活が充実したものとなるよう支援してきました。

企業人事としての実務経験、社会人としての学び、そして学生支援の経験を踏まえ、受講生の皆さんと一緒にキャリアデザインについて考えていきましょう。

【受講者制限】

受講希望者が教室定員を超過する場合は、選抜を行うことがあります。

【配当年次】

入学年度によって配当年次が異なります。

2024年度以前入学者：法文営国環キG1年、経社1～2年、現ス1～4年

2025年度以降入学者：法文営国環キG経社現ス1～3年

【履修条件】

入学年度によって授業コードが異なります。

多摩学部の学生で「キャリアデザイン論」を履修済みの方は、本科目を履修することはできません。

2024年度以前入学者：授業コード「A9825～A9833」の授業を履修登録

2025年度以降入学者：授業コード「A9810～A9818」の授業を履修登録

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to support students in leading a meaningful and fulfilling university life by jointly examining (1) approaches to university learning and engagement and (2) the nature of work and participation in society.

Throughout the course, students will be provided with fundamental perspectives and conceptual frameworks necessary for navigating their lives over the long term, as well as foundational knowledge concerning society and the world of work. Through these learning processes, the course seeks to cultivate students' capacity for independent thinking and proactive action.

【Learning Objectives】

The objective of this course is to foster students' capacity for independent thinking and self-directed action.

Pre-university education, including entrance examination preparation, often emphasizes responding to predefined tasks and identifying correct answers efficiently. In contrast, contemporary society requires individuals to identify problems autonomously, generate multiple possible solutions, and act under conditions of uncertainty, where answers are neither singular nor fixed.

Accordingly, this course seeks to develop students' ability to engage in sustained reflective practice — identifying issues, formulating responses, and implementing them iteratively through the PDS (Plan– Do– See) cycle.

Students are encouraged to translate learning into at least one concrete action during the semester.

【Learning activities outside of classroom】

The standard expectation for this course is approximately two hours each for preparation and review.

【Grading Criteria /Policy】

Final grades will be calculated based on the following: Reaction papers (40%), class participation (20%), and the final paper (40%).

Reaction papers will be assessed for understanding, insight, and independent reflection. Class participation will be evaluated based on active engagement and contributions in class. The final paper will be graded on logical structure, analytical quality, specificity, and originality. Adherence to the required word count and submission deadline is mandatory.

CAR100LG（キャリア教育 / Career education 100）			
キャリアデザイン入門			
廣川 佳子			
開講時期：春学期授業/Spring 単位数：2単位 曜日・時限：水4/Wed.4 キャンパス：市ヶ谷 備考（履修条件等）：入学年度によって授業コードが異なります。 多摩学部の学生で「キャリアデザイン論」を履修済みの方は、本科目を履修することはできません。 2024年度以前入学者：授業コード「A9825～A9833」の授業を履修登録 2025年度以降入学者：授業コード「A9810～A9818」の授業を履修登録 その他属性：〈未〉			
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思ひます。 授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会や働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。			
【到達目標】 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。 そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS（Plan, Do, See）サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思ひます。 最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう			
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-V」に関連。 大学のディプロマポリシー詳細はこちら。 https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/			
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture			
【授業の進め方と方法】 環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。			
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes			
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No			
【授業計画】 授業形態：対面/face to face			
回	テーマ	内容	
1	オリエンテーション	【オンデマンド授業（動画視聴）】 授業の概要、進め方、成績評価方法等を説明する。あわせて、「キャリアとは何か」について導入的な講義を行い、大学生活におけるキャリアデザインの視点を学ぶ。	2 大学での学び 大学での学びや経験が、社会人としてのキャリアにどのようにつながるのかを理解する。これまでの学習との違いを知り、主体的に学ぶことの意義を考察する。 3 学生生活と就職の準備 就職活動の開始時期や必要な準備について、卒業生データをもとにキャリアセンター職員が解説する。 4 働くことの意味 「なぜ働くのか」という問いに向き合う。多様な価値観に触れ、内発的動機づけなどの視点から、自分にとっての働く意味や価値を多面的に考察する。 5 自己理解とキャリア 自己理解とは何かについて整理する。フレームワークを用いながら、キャリアを考えるうえで自己理解に取り組む意義や、客観的・主観的な視点の重要性を学ぶ。 6 自己を知る（1） 自己形成に影響を与えた過去の出会いや経験を振り返る。自身のライフストーリーを言語化することで、根底にある価値観や関心について理解を深める。 7 自己を知る（2） 自己理解に関わる代表的なアセスメントを実施する。結果を自身の特性や持ち味を把握するための材料として活用し、自己理解を深める。 8 人間関係とコミュニケーション コミュニケーションを阻害する思い込みについて、理論を用いて学ぶ。思考の癖に気づいた上で、自他を尊重する表現スキルを学ぶ。 9 多様なキャリアの捉え方 社会環境が変化する中で、多様な働き方があることを学ぶ。既存のイメージにとらわれず、自ら意味づけを行い、納得できるキャリアを構築する視点を養う。キャリアは予期せぬ出来事や偶然によっても形作られることを学ぶ。「計画された偶発性理論」に基づき、偶然を自らのキャリア形成に積極的に取り込むための捉え方や行動特性を身につける。 10 偶然や転機の活かし方 11 学生生活の過ごし方 大学生生活をどのように過ごすかという視点から、自分らしい学び方や取り組み方について考える。これまでの自己理解を踏まえ、キャリア・レディネス（準備）を高めるための過ごし方を検討する。 12 インターンシップ インターンシップをキャリアを試行する機会として捉え、先輩の事例や参加にあたっての留意点について、キャリアセンター職員が紹介する。 13 働き方と多様性 キャリアを仕事に限定せず、人生全体の視点（ライフ・キャリア）から捉える。人それぞれ大切にしている役割や価値観があることを理解し、多様な背景を持つ人々と協働するための視点を養う。

- 14 どのような大学生活を送るのか 大学生活を有意義に過ごすために、これまでの学びを統合する。「今、何をするか」に焦点を当て、明日から踏み出せる具体的なかつ実行可能なアクションプランを策定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。授業で使用する資料は「授業支援システム」にて配布します。

【参考書】

必要に応じて参考文献等を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（毎回）：40%

・各回のテーマに対する理解度、新たな気づき、自身の考えが記述されているかを評価します。

原則として、授業時間内に提出されたものを評価対象とします。授業への参画：20%

・グループワークへの積極的な関わりや授業内での発言・質問など、主体的な参加態度を評価します。

期末レポート：40%

・課題の趣旨を踏まえた論理構成や、考察の質（具体性・独自性）を重視して評価します。

なお、指定文字数や提出期限の遵守は必須条件（評価の前提）とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

授業では、資料やワークシートの配布、リアクションペーパー、課題提出に学習支援システムを使用します。そのため、スマートフォン以外のタブレット端末やパソコンの使用を推奨します。

【その他の重要事項】

【講師プロフィール】

家電メーカー、カラーコンサルティング会社、研修会社での実務を経て、独立、起業しました。その後、実務経験を体系化するために大学院で学び、博士（心理学）を取得しました。現在は大学教員として、産業・組織心理学の分野で組織行動についての研究を行っています。心理学の知見を活かし、理論と実践の両面から「キャリア」について皆さんと一緒に考えていきます。

【授業形態】

初回（第1回）はオンデマンド授業を実施します。第2回以降は対面授業を予定しています。ただし、状況により授業形態（対面/オンライン）が変更となる場合があります。変更の際は、授業内及び学習支援システムで事前にお知らせします。

【受講者制限】

受講希望者が教室定員を超過する場合は、選抜を行うことがあります。

【配当年次】

入学年度によって配当年次が異なります。

2024年度以前入学者：法文営国環キG1年、経社1～2年、現ス1～4年

2025年度以降入学者：法文営国環キG経社現ス1～3年

【履修条件】

入学年度によって授業コードが異なります。

多摩学部の学生で「キャリアデザイン論」を履修済みの方は、本科目を履修することはできません。

2024年度以前入学者：授業コード「A9825～A9833」の授業を履修登録

2025年度以降入学者：授業コード「A9810～A9818」の授業を履修登録

【Outline (in English)】

[Course Outline and Objectives]

This course explores two main themes: (1) how to spend your university life meaningfully, and (2) what it means to work in society. By providing foundational knowledge for long-term life and career planning, the course aims to foster your ability to think independently and take self-directed action.

[Goal / Learning Objectives]

The primary goal is to empower you to think independently and act proactively. Unlike high school, society has no single "correct answer" and requires you to identify problems and create your own solutions.

By the end of this course, you will be encouraged to:

・Acquire the basic ability to execute the PDS (Plan-Do-See) cycle.

・Take at least one concrete action or a "small step" toward your future during this semester.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to spend a standard of 2 hours on preparation and 2 hours on review for each class session.

[Grading Criteria / Policy]

・Reaction Papers (40%): Submitted during each class. Graded on your understanding of the theme, new insights, and depth of personal reflections. (Generally, only papers submitted within class time will be evaluated).

・Class Participation (20%): Graded on proactive engagement, including active participation in group work, comments, and asking questions.

・Final Report (40%): Graded on logical structure, depth of analysis, and originality based on the assignment prompt.

Note: Strict adherence to the specified word count and submission deadline is a mandatory prerequisite for evaluation.

CAR100LG（キャリア教育 / Career education 100）			
キャリアデザイン入門			
土居 大亮			
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 単位数：2単位 曜日・時限：火4/Tue.4 ｜ キャンパス：市ヶ谷 備考（履修条件等）：入学年度によって授業コードが異なります。 多摩学部の学生で「キャリアデザイン論」を履修済みの方は、本科目を履修することはできません。 2024年度以前入学者：授業コード「A9825～A9833」の授業を履修登録 2025年度以降入学者：授業コード「A9810～A9818」の授業を履修登録 その他属性：〈未〉			
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。 授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会や働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。			
【到達目標】 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。 そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS(Plan, Do, See)サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。			
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-V」に関連。 大学のディプロマポリシー詳細はこちら。 https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/			
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture			
【授業の進め方と方法】 環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます。（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）			
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes			
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No			
【授業計画】 授業形態：対面/face to face			
回	テーマ	内容	
1	オリエンテーション	本科目の授業主旨、授業計画、進め方、成績評価方法、参加態度等について概要を説明します。併せて、授業受講に必要なシステムの活用法、学生相談室やキャリアセンター等の窓口の利用法、学生生活上の注意事項などに関する情報の提供を行います。	2 大学での学び 3 学生生活と就職の準備 (キャリアセンター担当) 4 インターンシップ (キャリアセンター担当) 5 働くことの意味 6 自分の価値観を知る 7 自分の人生を振り返る 8 自分のキャリアの方向性を探る
			大学とはどういう場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値等について考えていきます。また、学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識（対話や傾聴）について学びます。 本学の学生は、卒業後の進路として9割が就職をします。就職がキャリアのゴールではないですが、多くの学生が直面する就職活動がいつ頃から始まり、どのような準備が必要かを卒業生のデータを踏まえながらキャリアセンター職員が解説します。 インターンシップとひとことで言っても多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なります。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので積極的な参加を期待しています。本授業では窓口であるキャリアセンター職員が過去の先輩の事例や参加する際の注意点などを解説します。 働くとはどういうことなのでしょう？これまでの主な労働論や労働観にも触れながら、これからの時代の「働く」を考えていきます。特に、働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から社会人ゲスト講師とともに考えていきましょう。 キャリア軸の基礎となる価値観について、キャリアアンカーテストを実施して、自分自身の価値判断の軸を確認します。また「キャリアの輪」ワークを活用して自分自身の価値観と向き合い、キャリア将来像を価値観から捉えます。 今までの人生について、時間軸で振り返りを行います。振り返りには、ライフラインチャートを利用します。生まれてから現在までの自分の軌＝キャリアを俯瞰して眺めることで、自分自身の人生における特徴を理解します。 自分の得意なことを「職業」にする、また、好きなことを「業界」にする、さらに大事にしている「価値観」が合う企業を見つけるという視点から、まずは職業、業界、企業の調べ方を伝授し、職業、業界、企業調査を実施します。

9	自分の未来を創造する	現在から未来までキャリアの軸を線で捉えるミライマインドマップというワークシートを活用し、現在から未来に向けて働くイメージを広げるワークを行います。また、過去→現在→未来の自分を繋ぎ、キャリアに関する自分の軸を明らかにします。これからの変化の激しい社会において自分を生かしていく働き方について考えていきます。労働の領域におけるダイバーシティ(多様性)に関する基本的考え方に加え、多様な雇用形態、パラレルキャリア、他拠点勤務、テレワークなど新しい働き方のあり方についてゲスト社会人講師も交え議論していきます。
10	働き方と多様性	
11	企業の採用活動	就活を採用される立場からだけでなく、採用する側の企業側視点で考えてみましょう。企業社会で求められる人材とはどういう人でしょうか？実際の人事経験があるゲスト社会人講師とともに考えていきます。
12	グローバル化社会と人材	グローバル人材になるには、英語をはじめとした外国語の能力は確かに大切です。では、語学力があれば外国人と仕事ができるかと言うと、そう単純ではありません。相手の文化を知っていることがわかり合うための大前提になります。社会人ゲスト講師も招いてリアルな現場を知ることから行っていきます。
13	これからの社会の動きと求められる人材とは	これから先の社会がどのように変化していくのか見通しが立てにくい時代を私たちは生きています。その中で私たちは自分自身のキャリアデザインのために、何を考え、どのような人材として成長していくのが望ましいかについて社会人ゲスト講師と一緒に考えていきます。
14	学生生活の過ごし方	春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどう過ごすかをグループで討議していきます。卒業までに成し遂げたいことと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを考え、自分自身のキャリアを作る主体的な行動計画を企画していきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は4時間を目安としています。内容としてはレポートのための課題本を読む時間を含めています

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず毎回投影資料で説明を行います。

【参考書】
レポート課題図書：夢をかなえるゾウ 1 水野敬也（文響社）

【成績評価の方法と基準】
平常点50％
・授業リアクションペーパー提出
・授業での発言・発表・質問・授業課題ワークへの取り組み等に対する貢献
レポート50％
・期末レポート

【学生の意見等からの気づき】
前年度学生の受講アンケートを転載します。

・就活などの仕事に関してのこと、キャリアデザインについて知ることができた。社会人との対話会もできてとても勉強になった。
・いろんなキャリアについて知ることができたり、いろんな経験を積むことができました。社会人の話を聞くこともでき、良い経験になりました。
・自分について深く考えれる時間でとてもよかった。
・自分の中で考え方の変化を感じられた。
・リアルな社会人の方々とお話できる機会をくださってとてもためになった。
・様々な社会人の方と話せて本当に楽しかったです！

【学生が準備すべき機器他】
・オンライン授業用のPCまたはタブレット端末（パソコンの使用を推奨します）
・筆記用具
・課題・リアクションペーパーの提出は「学習支援システム」を通じて行います。
※他に必要なものがあれば、授業の中で適宜指示をします。

【その他の重要事項】
●「実務経験のある教員による授業」
担当教員は法政大の卒業生です。マクニカやジョンソン・エンド・ジョンソングループ等日系&外資系企業採用担当・責任者として20年以上実務経験があるため、就職活動に役立つ企業視点に基づいた授業を展開します。現在は日鉄ソリューションズグループという日本のIT企業に勤務しています。
●授業実施形態や授業テーマに関して
授業実施日の授業形態（オンライン／対面）が変更になる可能性があります。各回の授業テーマや形態の詳細は、逐次「学習支援システム」よりお知らせします。また、授業内でも案内していきます。
●どのような雰囲気での授業か
グループワークを多く行うため、様々な学部の学生とコミュニケーションを取りながらワークショップ形式で授業を進行していきます。また、回によってはゲスト社会人講師が参加をして、キャリアに関するリアルな声を届けていただく予定です。よってコミュニケーションを積極的に取りたいという学生に向いている授業です。
●受講者制限
受講希望者が教室定員を超過する場合は、選抜を行うことがあります。
●配当年次
入学年度によって配当年次が異なります。
2024年度以前入学者：法文営国環キG1年、経社1～2年、現ス1～4年
2025年度以降入学者：法文営国環キG経社現ス1～3年
●履修条件
入学年度によって授業コードが異なります。
多摩学部の学生で「キャリアデザイン論」を履修済みの方は、本科目を履修することはできません。
2024年度以前入学者：授業コード「A9825～A9833」の授業を履修登録
2025年度以降入学者：授業コード「A9810～A9818」の授業を履修登録

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this class, I hope to help you make the most of your student life by thinking together about 1) how to spend your time at university and 2) what it means to work in society.
In the class, I will provide you with basic knowledge about society and working, as well as ideas that are necessary for a more long-term life. Through these, the purpose of this class is to cultivate an attitude that will enable you to think and act on your own.
【Learning Objectives】
The goal is for students to be able to think for themselves and take the initiative. Up until high school, including entrance exams, students were given assignments and were expected to be able to find the correct answer as quickly as possible. In society, however, it is necessary to discover problems on one's own and take action to solve them. Also, no one can give you the correct answer. There will be more than one correct answer. The right answer today is not necessarily the right answer tomorrow.

In such a situation, you are required to find your own issues, think of solutions, and continue to implement them. During your four years at university, I hope that you will acquire the basic ability to think and act continuously, or in other words, to keep the PDS (Plan, Do, See) cycle going. It may be a small step at first. During the six months, let's aim to take some action, using the classes as a starting point.

【Learning activities outside of classroom】

The estimated preparation and review time for this class is 4 hours. The content includes time to read the assigned book for the report.

【Grading Criteria /Policy】

a mark given for class participation 50%

Report 50%

< Details >

Submission of reaction papers for each class,

Contribution to the class: Speech, presentation, questions, and work on the assignment report

Final report

CAR100LG（キャリア教育 / Career education 100）

キャリアデザイン入門

藤澤 広美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火3/Tue.3 | キャンパス：多摩

備考（履修条件等）：入学年度によって授業コードが異なります。
「キャリアデザイン論」を履修済みの方は、本科目を履修することはできません。

2024年度以前入学者：授業コード「A9825～A9833」の授業を履修登録

2025年度以降入学者：授業コード「A9810～A9818」の授業を履修登録

その他属性：〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。

授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会や働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS（Plan, Do, See）サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。

最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-V」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要、進め方、成績評価方法等を説明する。あわせて、「キャリアとは何か」について導入的な講義を行う。
2	大学での学び	大学での学びや経験が、社会人としてのキャリアにどのようにつながるのかを理解する。授業や課外活動を通じて主体的に取り組むことの意義について考察する。

3	学生生活と就職の準備	就職活動の開始時期や必要な準備について、卒業生データをもとにキャリアセンター職員が解説する。
4	働くことの意味	「なぜ働くのか」という問いに向き合い、働くことの意味や価値について多面的に考察する。
5	自己理解とキャリア	自己理解とは何かについて整理し、キャリアを考えるうえで自己理解に取り組む意義や基本的な姿勢について学ぶ。
6	自己を知る（1）	自己形成に影響を与えた出会いや経験を振り返り、自分自身の価値観や関心について理解を深める。
7	自己を知る（2）	自己理解に関わる代表的なアセスメントを実施し、自身の特性を把握することで自己理解を深める。
8	人間関係とコミュニケーション	社会のなかで形成されるキャリアや人間関係に関わるコミュニケーションについて学ぶ。
9	多様なキャリアの捉え方	正規雇用、非正規雇用、専門職、フリーランスなど、多様なはたらき方の特徴と課題を整理する。
10	偶然や転機の活かし方	偶然や予期せぬ出来事がキャリアに与える影響について学び、キャリアとの向き合い方を考える。
11	学生生活の過ごし方	大学生活をどのように過ごすかという視点から、自分らしい学び方や取り組み方について考える。
12	インターンシップ	インターンシップをキャリアを試行する機会として捉え、先輩の事例や参加にあたっての留意点について、キャリアセンター職員が紹介する。
13	働き方と多様性	キャリアを仕事に限定せず、人生全体の視点から捉える。仕事と生活を統合したキャリアデザインについて考える。
14	どのような大学生活を送るのか	大学生活を有意義に過ごすために、目標設定、行動計画の立案、実行方法について学ぶ。これまでの学びを振り返り、将来の目標達成に向けた大学生活の計画および目標を立てる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回各講義に関連した資料を配布します。資料は「授業支援システム」上にPDFファイルにて配布します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、以下の通りです。

リアクションペーパー（毎回）：40%

・各回のテーマに対する理解度、新たな気づき、自身の考えが記述されているかを評価します。

授業への参画：20%

・グループワークへの積極的な関わりや授業内での発言・質問など、主体的な参加態度を評価します。

期末レポート：40%

・課題の趣旨を踏まえた論理構成や、考察の質（具体性・独自性）を重視して評価します。

なお、指定文字数や提出期限の遵守は必須条件（評価の前提）とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

授業では、レジュメやワークシートの配布、課題提出等に学習支援システムを使用します。

そのため、スマートフォンよりも、PCまたはタブレット端末を使用することを推奨します。

【その他の重要事項】

【講師プロフィール】

HR系ベンチャー企業にてコンサルティング業務に従事後、メーカー系販社にて法人営業を担当。その間、社会人大学院（修士課程）に進学しました。修了後は、大学でキャリアカウンセラーとして学生支援に携わったのち、大学教員となりました。専門はキャリア教育・人材マネジメントです。博士（マネジメント）。「学びとキャリアを科学する」をテーマに、現場での実践と研究の往還を大切にしながら活動しています。

【授業形態】

講師の都合により、対面で実施予定の授業がオンラインに変更となる場合があります。変更がある場合は、授業内および学習支援システムにて事前にお知らせします。

【受講者制限】

受講希望者が教室定員を超過する場合は、選抜を行うことがあります。

【配当年次】

入学年度によって配当年次が異なります。

2024年度以前入学者：法文営国環キG1年、経社1～2年、現ス1～4年

2025年度以降入学者：法文営国環キG経社現ス1～3年

【履修条件】

入学年度によって授業コードが異なります。

多摩学部の学生で「キャリアデザイン論」を履修済みの方は、本科目を履修することはできません。

2024年度以前入学者：授業コード「A9825～A9833」の授業を履修登録

2025年度以降入学者：授業コード「A9810～A9818」の授業を履修登録

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, we will explore together ① how to spend your time at university and ② what it means to work in society, aiming to support you in making your student life meaningful. The course will provide essential perspectives for navigating the longer term of your life, as well as fundamental insights into society and work. Through these, the goal is to cultivate an attitude that enables you to think for yourself and take action. (Learning Objectives)

Our goal is for you to learn to think for yourselves and take initiative in your actions. Up through high school, including entrance exams, you were given problems and expected to find the correct answer as quickly as possible. However, in society, you must discover problems on your own and take action to solve them. Furthermore, no one will provide you with the correct answer. There may not even be a single correct answer. What is correct today may not be correct tomorrow.

In such an environment, what is required is the attitude to identify challenges yourself, devise solutions, and persistently put them into practice. During your four years at university, I hope you will develop the fundamental ability to continuously think and act—in other words, to cycle through the PDS (Plan, Do, See) process.

It's perfectly fine to start with small steps. Over the next six months, let's aim to take some action inspired by your classes. (Learning activities outside of classroom)

Preparation and review time for this class is typically 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be as follows:

Reaction Papers (each session): 40%

・ Evaluated based on understanding of each session's theme, inclusion of new insights, and expression of personal thoughts.

Class Participation: 20%

・ Evaluated based on proactive involvement in group work, in-class contributions such as speaking up and asking questions, and overall engagement.

Final Report: 40%

・ Evaluation emphasizes logical structure aligned with the assignment's purpose and the quality of analysis (specificity and originality).

Note: Adherence to the specified word count and submission deadline is a mandatory requirement (a prerequisite for evaluation).

CAR100LG（キャリア教育 / Career education 100）

キャリアデザイン入門

藤澤 広美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火4/Tue.4 | キャンパス：多摩

備考（履修条件等）：入学年度によって授業コードが異なります。
「キャリアデザイン論」を履修済みの方は、本科目を履修することはできません。

2024年度以前入学者：授業コード「A9825～A9833」の授業を履修登録

2025年度以降入学者：授業コード「A9810～A9818」の授業を履修登録

その他属性：〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。

授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会や働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS（Plan, Do, See）サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。

最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-V」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要、進め方、成績評価方法等を説明する。あわせて、「キャリアとは何か」について導入的な講義を行う。
2	大学での学び	大学での学びや経験が、社会人としてのキャリアにどのようにつながるのかを理解する。授業や課外活動を通じて主体的に取り組むことの意義について考察する。

3	学生生活と就職の準備	就職活動の開始時期や必要な準備について、卒業生データをもとにキャリアセンター職員が解説する。
4	働くことの意味	「なぜ働くのか」という問いに向き合い、働くことの意味や価値について多面的に考察する。
5	自己理解とキャリア	自己理解とは何かについて整理し、キャリアを考えるうえで自己理解に取り組む意義や基本的な姿勢について学ぶ。
6	自己を知る（1）	自己形成に影響を与えた出会いや経験を振り返り、自分自身の価値観や関心について理解を深める。
7	自己を知る（2）	自己理解に関わる代表的なアセスメントを実施し、自身の特性を把握することで自己理解を深める。
8	人間関係とコミュニケーション	社会のなかで形成されるキャリアや人間関係に関わるコミュニケーションについて学ぶ。
9	多様なキャリアの捉え方	正規雇用、非正規雇用、専門職、フリーランスなど、多様なはたらき方の特徴と課題を整理する。
10	偶然や転機の活かし方	偶然や予期せぬ出来事がキャリアに与える影響について学び、キャリアとの向き合い方を考える。
11	学生生活の過ごし方	大学生活をどのように過ごすかという視点から、自分らしい学び方や取り組み方について考える。
12	インターンシップ	インターンシップをキャリアを試行する機会として捉え、先輩の事例や参加にあたっての留意点について、キャリアセンター職員が紹介する。
13	働き方と多様性	キャリアを仕事に限定せず、人生全体の視点から捉える。仕事と生活を統合したキャリアデザインについて考える。
14	どのような大学生活を送るのか	大学生活を有意義に過ごすために、目標設定、行動計画の立案、実行方法について学ぶ。これまでの学びを振り返り、将来の目標達成に向けた大学生活の計画および目標を立てる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回各講義に関連した資料を配布します。資料は「授業支援システム」上にPDFファイルにて配布します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、以下の通りです。

リアクションペーパー（毎回）：60％、レポート：40％

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

授業では、レジュメやワークシートの配布、課題提出等に学習支援システムを使用します。そのため、スマートフォンよりも、PCまたはタブレット端末を使用することを推奨します。

【その他の重要事項】

【講師プロフィール】

HR系ベンチャー企業にてコンサルティング業務に従事後、メーカー系販社にて法人営業を担当。その間、社会人大学院（修士課程）に進学しました。

修了後は、大学でキャリアカウンセラーとして学生支援に携わったのち、大学教員となりました。専門はキャリア教育・人材マネジメントです。博士（マネジメント）。

「学びとキャリアを科学する」をテーマに、現場での実践と研究の往還を大切にしながら活動しています。

【授業形態】

講師の都合により、対面で実施予定の授業がオンラインに変更となる場合があります。変更がある場合は、授業内および学習支援システムにて事前にお知らせします。

【受講者制限】

受講希望者が教室定員を超過する場合は、選抜を行うことがあります。

【配当年次】

入学年度によって配当年次が異なります。

2024年度以前入学者：法文営国環キG1年、経社1～2年、現ス1～4年

2025年度以降入学者：法文営国環キG経社現ス1～3年

【履修条件】

入学年度によって授業コードが異なります。

多摩学部の学生で「キャリアデザイン論」を履修済みの方は、本科目を履修することはできません。

2024年度以前入学者：授業コード「A9825～A9833」の授業を履修登録

2025年度以降入学者：授業コード「A9810～A9818」の授業を履修登録

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, we will explore together ① how to spend your time at university and ② what it means to work in society, aiming to support you in making your student life meaningful. The course will provide essential perspectives for navigating the longer term of your life, as well as fundamental insights into society and work. Through these, the goal is to cultivate an attitude that enables you to think for yourself and take action. (Learning Objectives)

Our goal is for you to learn to think for yourselves and take initiative in your actions. Up through high school, including entrance exams, you were given problems and expected to find the correct answer as quickly as possible. However, in society, you must discover problems on your own and take action to solve them. Furthermore, no one will provide you with the correct answer. There may not even be a single correct answer. What is correct today may not be correct tomorrow.

In such an environment, what is required is the attitude to identify challenges yourself, devise solutions, and persistently put them into practice. During your four years at university, I hope you will develop the fundamental ability to continuously think and act—in other words, to cycle through the PDS (Plan, Do, See) process.

It's perfectly fine to start with small steps. Over the next six months, let's aim to take some action inspired by your classes.

(Learning activities outside of classroom)

Preparation and review time for this class is typically 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be as follows:

Reaction Papers (each session): 40%

・ Evaluated based on understanding of each session's theme, inclusion of new insights, and expression of personal thoughts.

Class Participation: 20%

・ Evaluated based on proactive involvement in group work, in-class contributions such as speaking up and asking questions, and overall engagement.

Final Report: 40%

・ Evaluation emphasizes logical structure aligned with the assignment's purpose and the quality of analysis (specificity and originality).

Note: Adherence to the specified word count and submission deadline is a mandatory requirement (a prerequisite for evaluation).

CAR100LG（キャリア教育 / Career education 100）

キャリアデザイン応用

藤澤 広美

サブタイトル：理論で支えるキャリア

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金3/Fri.3 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

その他属性：〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、私たちの「はたらき方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等の組織的活動を含む社会的活動や社会の状況に対する理解を前提に、自分自身のキャリアデザインのあり方や計画的行動について多面的に考察することを目的とします。

この授業の受講を通じて、実践的なキャリアデザインに向けて、残された大学生活の時間を自ら有効にプロデュースしていくための基礎を身につけることも重要なねらいとしています。そのために、キャリアをデザインする上で考慮すべき多様な視点を提示し、それらに対する理解に基づいた戦略的なキャリアデザインを、受講生一人ひとりが実践できるよう支援します。

なお、担当教員の専門性および実務経験を活かし、本授業では学習やキャリアに関する理論を重点的に扱います。キャリア理論を用いて自分自身の経験や将来像を捉え直し、「考える」だけでなく「計画し、行動につなげる」ことを応用的な学びとして位置づけています。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生を歩んでいく皆さんが、自分自身の思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度、構想力、行動様式を身につけることを到達目標とします。特に本授業では、はたらき方・生き方と社会的活動の接点に焦点を当て、キャリアに関する理論を用いて自分自身のキャリアを説明できるようにすることを目指します。

そのうえで、自身のはたらき方・生き方について具体的にイメージし、それを踏まえて、残された大学生活における具体的な行動計画を立てられるようになることを到達目標とします。

最初は小さな一歩で構いません。半年間の学びを通じて、本授業をきっかけに、自分なりの確信をもって行動に移すことができるようになることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-V」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要、進め方、成績評価方法等を説明する。あわせて、「なぜキャリアデザインが必要か」について導入的に整理し、本授業の位置づけを理解する。

2	キャリアをどう捉えるか（1）	理論とは何かを理解し、キャリアに応用可能な理論の基本的な考え方について学ぶ。理論を用いてキャリアを捉える視点を身につける。
3	キャリアをどう捉えるか（2）	キャリア選択や意思決定に関わる理論を踏まえ、自分自身が経験してきた迷いや葛藤をどのように捉え直すことができるかを考察する。
4	キャリアをどう捉えるか（3）	節目とは何かを理解し、偶然や転機を活かす理論を通して、予期せぬ出来事をキャリアの一部として捉える視点について学ぶ。
5	自己理解を深める（1）	興味・価値観・能力といった自己理解の要素について、理論的枠組みを用いて整理する。
6	自己理解を深める（2）	興味・価値観・能力といった自己理解の要素について、代表的なアセスメントを用いて理解を深める。
7	中間振り返り	これまでに扱ったキャリア理論を整理し、それらを用いて自分自身のキャリアを言語化する。中間リフレクションを通じて、学びの意味を振り返る。
8	個人と組織	個人と組織の関係性に関する理論を学び、キャリアが個人の意思だけでなく、組織や制度、他者との関係の中で形成されることを理解する。
9	はたらき方の多様化	正規雇用、非正規雇用、専門職、フリーランスなど、多様なはたらき方の特徴と課題を整理する。
10	キャリアを支える視点	キャリアカウンセリングの基本概念や基本姿勢を学ぶ。傾聴や共感といった視点を通じて、どのように他者の支援に活かしていくか理解を深める。
11	学びとキャリア	キャリアと学習の関係について学ぶ。学習意欲のメカニズムや自己調整学習の方法を理解し、今後の学習や行動にどのようにつなげていくかを考える。
12	ありたい姿を描く	これまでに学んだキャリア理論や社会理解を踏まえ、キャリアビジョンやライフプランを描く。将来の方向性を整理することで、いま自分がすべきことを明確にする。
13	キャリアをデザインする	これまでに学んだキャリア理論や社会理解を踏まえ、自分自身のキャリアデザインを具体化する。残りの大学生活をどのように活用するかを整理し、今後に向けた行動計画を作成する。
14	まとめ・統合する	授業全体の学びを振り返り、自身のキャリアデザインや行動計画を言語化・共有する。他者の考えに触れることで、自分の計画を相対化し、キャリアを継続的に見直していく視点を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回各講義に関連した資料を配布します。資料は「授業支援システム」上にPDFファイルにて配布します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、以下の通りです。

リアクションペーパー（毎回）：40%

・各回のテーマに対する理解度、新たな気づき、自身の考えが記述されているかを評価します。

授業への参画：20%

・グループワークへの積極的な関わりや授業内での発言・質問など、主体的な参加態度を評価します。

期末レポート：40%

・課題の趣旨を踏まえた論理構成や、考察の質（具体性・独自性）を重視して評価します。

なお、指定文字数や提出期限の遵守は必須条件（評価の前提）とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

授業では、レジュメやワークシートの配布、課題提出等に学習支援システムを使用します。

そのため、スマートフォンよりも、PCまたはタブレット端末を使用することを推奨します。

【その他の重要事項】

【講師プロフィール】

HR系ベンチャー企業にてコンサルティング業務に従事後、メーカー系販社にて法人営業を担当。その間、社会人大学院（修士課程）に進学しました。修了後は、大学でキャリアカウンセラーとして学生支援に携わったのち、大学教員となりました。専門はキャリア教育・人材マネジメントです。博士（マネジメント）。『学びとキャリアを科学する』をテーマに、現場での実践と研究の往還を大切にしながら活動しています。

【授業形態】

講師の都合により、対面で実施予定の授業がオンラインに変更となる場合があります。変更がある場合は、授業内および学習支援システムにて事前にお知らせします。

【受講者制限】

受講希望者が教室定員を超過する場合は、選抜を行うことがあります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course focuses on our “ways of working and living.” Building on an understanding of future social activities — including organizational activities within companies — and societal conditions, it aims to encourage multifaceted consideration of one’s own career design approach and planned actions.

A key objective is for students to acquire the foundation needed to effectively manage the time remaining in their university life toward practical career design. To achieve this, we present diverse perspectives to consider when designing a career and support each student in practicing strategic career design based on their understanding of these perspectives.

Leveraging the instructor’s expertise and practical experience, this course emphasizes theories related to learning and careers. It positions the application of career theories to re-examine one’s own experiences and future vision — moving beyond mere “thinking” to “planning and translating into action” — as applied learning.

(Learning Objectives)

Through this course, our goal is for you, as you embark on your long journey through life, to acquire the fundamental attitudes, conceptual skills, and behavioral patterns that will enable you to live as close as possible to the life you envision for yourself. Specifically, this course focuses on the intersection of how you work and live with your social activities. Using career-related theories, we aim to help you develop the ability to articulate your own career path.

Furthermore, the course aims to help you form a concrete vision of your own approach to work and life, and based on that vision, develop a specific action plan for the remainder of your university life.

It’s perfectly fine to start with a small step. Over the course of these six months, let’s aim for this class to be the catalyst that enables you to take action with your own conviction.

(Learning activities outside of classroom)

Preparation and review time for this class is typically 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be as follows:

Reaction Papers (each session): 40%

・ Evaluated based on understanding of each session’s theme, inclusion of new insights, and expression of personal thoughts.

Class Participation: 20%

・ Evaluated based on proactive involvement in group work, in-class contributions such as speaking up and asking questions, and overall engagement.

Final Report: 40%

・ Evaluation emphasizes logical structure aligned with the assignment’s purpose and the quality of analysis (specificity and originality).

Adherence to the specified word count and submission deadline is a mandatory requirement (a prerequisite for evaluation).

CAR100LG（キャリア教育 / Career education 100）

キャリアデザイン応用

藤澤 広美

サブタイトル：理論で支えるキャリア

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金4/Fri.4 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

その他属性：〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、私たちの「はたらき方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等の組織的活動を含む社会的活動や社会の状況に対する理解を前提に、自分自身のキャリアデザインのあり方や計画的行動について多面的に考察することを目的とします。

この授業の受講を通じて、実践的なキャリアデザインに向けて、残された大学生活の時間を自ら有効にプロデュースしていくための基礎を身につけることも重要なねらいとしています。そのために、キャリアをデザインする上で考慮すべき多様な視点を提示し、それらに対する理解に基づいた戦略的なキャリアデザインを、受講生一人ひとりが実践できるよう支援します。

なお、担当教員の専門性および実務経験を活かし、本授業では学習やキャリアに関する理論を重点的に扱います。キャリア理論を用いて自分自身の経験や将来像を捉え直し、「考える」だけでなく「計画し、行動につなげる」ことを応用的な学びとして位置づけています。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生を歩んでいく皆さんが、自分自身の思い描く人生にできるだけ近づくようになるための基本的な態度、構想力、行動様式を身につけることを到達目標とします。特に本授業では、はたらき方・生き方と社会的活動の接点に焦点を当て、キャリアに関する理論を用いて自分自身のキャリアを説明できるようにすることを目指します。

そのうえで、自身のはたらき方・生き方について具体的にイメージし、それを踏まえて、残された大学生活における具体的な行動計画を立てられるようになることを到達目標とします。

最初は小さな一歩で構いません。半年間の学びを通じて、本授業をきっかけに、自分なりの確信をもって行動に移すことができるようになることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-V」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要、進め方、成績評価方法等を説明する。あわせて、「なぜキャリアデザインが必要か」について導入的に整理し、本授業の位置づけを理解する。

2	キャリアをどう捉えるか（1）	理論とは何かを理解し、キャリアに応用可能な理論の基本的な考え方について学ぶ。理論を用いてキャリアを捉える視点を身につける。
3	キャリアをどう捉えるか（2）	キャリア選択や意思決定に関わる理論を踏まえ、自分自身が経験してきた迷いや葛藤をどのように捉え直すことができるかを考察する。
4	キャリアをどう捉えるか（3）	節目とは何かを理解し、偶然や転機を活かす理論を通して、予期せぬ出来事をキャリアの一部として捉える視点について学ぶ。
5	自己理解を深める（1）	興味・価値観・能力といった自己理解の要素について、理論的枠組みを用いて整理する。
6	自己理解を深める（2）	興味・価値観・能力といった自己理解の要素について、代表的なアセスメントを用いて理解を深める。
7	中間振り返り	これまでに扱ったキャリア理論を整理し、それらを用いて自分自身のキャリアを言語化する。中間リフレクションを通じて、学びの意味を振り返る。
8	個人と組織	個人と組織の関係性に関する理論を学び、キャリアが個人の意思だけでなく、組織や制度、他者との関係の中で形成されることを理解する。
9	はたらき方の多様化	正規雇用、非正規雇用、専門職、フリーランスなど、多様なはたらき方の特徴と課題を整理する。
10	キャリアを支える視点	キャリアカウンセリングの基本概念や基本姿勢を学ぶ。傾聴や共感といった視点を通じて、どのように他者の支援に活かしていくか理解を深める。
11	学びとキャリア	キャリアと学習の関係について学ぶ。学習意欲のメカニズムや自己調整学習の方法を理解し、今後の学習や行動にどのようにつなげていくかを考える。
12	ありたい姿を描く	これまでに学んだキャリア理論や社会理解を踏まえ、キャリアビジョンやライフプランを描く。将来の方向性を整理することで、いま自分がすべきことを明確にする。
13	キャリアをデザインする	これまでに学んだキャリア理論や社会理解を踏まえ、自分自身のキャリアデザインを具体化する。残りの大学生活をどのように活用するかを整理し、今後に向けた行動計画を作成する。
14	まとめ・統合する	授業全体の学びを振り返り、自身のキャリアデザインや行動計画を言語化・共有する。他者の考えに触れることで、自分の計画を相対化し、キャリアを継続的に見直していく視点を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回各講義に関連した資料を配布します。資料は「授業支援システム」上にPDFファイルにて配布します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、以下の通りです。

リアクションペーパー（毎回）：40%

・各回のテーマに対する理解度、新たな気づき、自身の考えが記述されているかを評価します。

授業への参画：20%

・グループワークへの積極的な関わりや授業内での発言・質問など、主体的な参加態度を評価します。

期末レポート：40%

・課題の趣旨を踏まえた論理構成や、考察の質（具体性・独自性）を重視して評価します。

なお、指定文字数や提出期限の遵守は必須条件（評価の前提）とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

授業では、レジュメやワークシートの配布、課題提出等に学習支援システムを使用します。

そのため、スマートフォンよりも、PCまたはタブレット端末を使用することを推奨します。

【その他の重要事項】

【講師プロフィール】

HR系ベンチャー企業にてコンサルティング業務に従事後、メーカー系販社にて法人営業を担当。その間、社会人大学院（修士課程）に進学しました。

修了後は、大学でキャリアカウンセラーとして学生支援に携わったのち、大学教員となりました。専門はキャリア教育・人材マネジメントです。博士（マネジメント）。

「学びとキャリアを科学する」をテーマに、現場での実践と研究の往還を大切にしながら活動しています。

【授業形態】

講師の都合により、対面で実施予定の授業がオンラインに変更となる場合があります。変更がある場合は、授業内および学習支援システムにて事前にお知らせします。

【受講者制限】

受講希望者が教室定員を超過する場合は、選抜を行うことがあります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course focuses on our “ways of working and living.” Building on an understanding of future social activities — including organizational activities within companies — and societal conditions, it aims to encourage multifaceted consideration of one’s own career design approach and planned actions.

A key objective is for students to acquire the foundation needed to effectively manage the time remaining in their university life toward practical career design. To achieve this, we present diverse perspectives to consider when designing a career and support each student in practicing strategic career design based on their understanding of these perspectives.

Leveraging the instructor’s expertise and practical experience, this course emphasizes theories related to learning and careers. It positions the application of career theories to re-examine one’s own experiences and future vision — moving beyond mere “thinking” to “planning and translating into action” — as applied learning.

(Learning Objectives)

Through this course, our goal is for you, as you embark on your long journey through life, to acquire the fundamental attitudes, conceptual skills, and behavioral patterns that will enable you to live as close as possible to the life you envision for yourself. Specifically, this course focuses on the intersection of how you work and live with your social activities. Using career-related theories, we aim to help you develop the ability to articulate your own career path.

Furthermore, the course aims to help you form concrete visions of your own ways of working and living, and based on these, develop specific action plans for the remainder of your university life.

It’s perfectly fine to start with small steps. Over the course of these six months, let this class be the catalyst that empowers you to take action with your own conviction.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be as follows:

Reaction Papers (each session): 40%

・ Evaluated based on understanding of each session’s theme, inclusion of new insights, and expression of personal thoughts.

Class Participation: 20%

・ Evaluated based on proactive involvement in group work, in-class contributions such as speaking up and asking questions, and overall engagement.

Final Report: 40%

・ Evaluation emphasizes logical structure aligned with the assignment’s purpose and the quality of analysis (specificity and originality).

Adherence to the specified word count and submission deadline is a mandatory requirement (a prerequisite for evaluation).

CAR100LG（キャリア教育 / Career education 100）

キャリアデザイン応用

なかむら アサミ

サブタイトル：予測不能な時代を生き抜くキャリアデザイン

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水3/Wed.3 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

その他属性：〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では「はたらき方・生き方」に焦点を当てて、多面的に自分自身のキャリアデザインのあり方や自分自身の計画的行動について深く考えていくことを目的とします。

ひとことで言うと、『『なんとなく』の大学生活を卒業して、自分らしい将来を自分でつくるための作戦会議』の時間です。

担当教員の専門性と実務経験を活かし、本授業ではキャリア形成における実践的課題を考えます。

この授業の受講を通じて、自分自身の実践的なキャリアデザインのために、残された大学生活の時間の使い方を自分自身で有効にプロデュースしていくための基礎を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていく上で考えておくべき多様な視点を提供し、それらに関する深い理解に基づく戦略的なキャリアデザインをそれぞれの受講生が実践できるようになるよう支援していきます。

授業を受けた後に、

・「将来どうしよう…」という不安が、「こう動こう!」という具体的なプランに変わる

・大学生活の過ごし方が、今までよりずっと目的を持った有意義なものになる ことを願います。

【到達目標】

長い人生において直面する予期せぬ変化や困難に対し、主体的にキャリアを切り拓く力を養います。

人生には、思いがけないトラブルやチャンスが次々と起こります。そんな「何が起るかわからない時代」でも、迷子にならずに自分らしい人生を歩み進めていくための、心の持ちよう（態度）、未来を描く力（構想力）、具体的な一歩の踏み出し方（行動様式）を習得するのがこの授業のゴールです。

本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身のはたらき方・生き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-V」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

参加型の授業スタイルを想定しています。グループワークを多く行うため、様々な学部の学生とコミュニケーションを取りながらワークショップ形式で授業を進行していきます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

授業に関する連絡や授業計画等の変更がある場合には、学習支援システムで連絡します。随時学習支援システムでの確認をお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価、授業に臨む姿勢について概要を説明する。
第2回	ワークライフバランス	年齢や性別や職業を問わず、仕事とプライベートの活動を調和させて相乗効果を生み出し、人生の質を高めることを目的とするワーク・ライフ・バランスについての基礎的な概念を学ぶ。
第3回	テレワークとワーケーション	仕事をする場所を自由に、効率的に選択し、自分自身にとってはたやすいワークスタイルを実現することが可能なテレワークというはたらき方の特徴や課題について事例を交えて学んでいく。
第4回	お金（報酬）について考える	人生において大事なものの1つとなる「お金」と、キャリアとの関係性を学ぶ。
第5回	組織で働くか、それ以外で働くか	はたらき方には「雇われる」以外のはたらき方もある。これからのわたしたちのはたらき方に変化と多様性をもたらす仕事への取り組み方について理解を深めていく。
第6回	結婚と家族と子育て	人生の一大イベントである結婚と結婚によって築かれる家族の現代における状況についての理解を深めるとともに、われわれの社会における子育てに関する諸問題について考察していく。
第7回	ジェンダー	社会的「性」であるジェンダーについての理解を深め、家庭内、職場、社会におけるジェンダーとその「ジェンダー」格差（ジェンダーギャップ）に気づき、わたしたちはどのように理解し対処していくべきかを考える。
第8回	障害や精神疾患、働きづらさをもって働くということ	怪我や病気など長い人生にはいろいろなことが発生する。身体的障がいや精神疾患なども当たり前に起こる。そういうときの「働く」について考える。
第9回	災害とキャリア	特に日本においては災害はつきもの。地震、台風、水害などそれらがキャリアに及ぼす影響について考える。
第10回	どこで働いても必要なチームワーク	どんな「はたらき方」であろうと、一人で働くことはできない。チームとは何か、チームワークを身につけ、活かすために必要なことを学ぶ。
第11回	キャリア理論	これまでの学びを含め、キャリアを理論的に捉え直す。
第12回	キャリアビジョン、ライフプランの作成	キャリアビジョンやライフプランを描き、未来を具体的に構想する。今、大学生活で取り組むべきことを行動計画として明確化する。
第13回	これまでの学びとこれからの歩み	これまでの学びを振り返り、大学生活やキャリアをどう歩んでいくかを発表・共有する。
第14回	「生き方」を言語化する	これまでの学びを振り返り、大学生活やキャリアをどう歩んでいくかを発表・共有する。授業を通じて立てた行動計画を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞や記事を読むなど、「はたらく」をめぐる動向に関心をもってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず毎回投影資料で説明を行います。

【参考書】

- ・渡辺三枝子 編著「新版キャリアの心理学 [第2版] キャリア支援への発達のアプローチ」2018、ナカニシヤ出版
- ・ほか、講義中に適時紹介

【成績評価の方法と基準】

評価は、授業への出席内容と期末試験結果で行います。

授業への参加度60%、期末試験40%。

- ・毎回のリアクションペーパー提出<40%>、
- ・授業への貢献＝発言・発表・質問・課題レポートへの取り組み<20%>
- ・期末レポート<40%>

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により特になし。

基本的には、みなさんの意見を取り入れながら授業をしていく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

- ・資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を活用します。
- ・PC持込可

【その他の重要事項】

- ・担当教員は、企業で25年以上の実務経験を有しており、今も企業で働きながらこの授業を担当しています。

授業は、教科書には載っていないことも含めた実際のテーマをもとにした内容としています。

【教員プロフィール】 <https://teamwork.cybozu.co.jp/profile/asami/>

- ・本授業は、対面中心ではありますが、オンラインも併用する予定です。

詳細な日程については逐次「学習支援システム」や授業内でお知らせします。

- ・受講希望者が教室定員を超過する場合は、選抜を行うことがあります。

【Outline (in English)】

This course focuses on the intersection of work and life, encouraging students to think deeply about their career design and proactive action. It leverages the expertise of our instructors to address practical challenges in modern career development.

Key Learning Objectives:

- ・Self-Creation: Acquire foundational skills to effectively manage and "create" the rest of your time at university.
- ・Strategic Thinking: Develop strategic thinking based on diverse perspectives to chart your future career path.
- ・From Anxiety to Action: Transform vague worries about the future into concrete, actionable plans.

By the end of this course, students will be able to transform their university experience into a meaningful, purposeful journey toward achieving their career goals.

CAR100LG（キャリア教育 / Career education 100）

キャリアデザイン応用

矢島 厚子

サブタイトル：社会と組織を理解し、自分らしい未来をデザインする

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火4/Tue.4 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

その他属性：〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、私たちの「はたらき方・生き方」に焦点を当てて、これからの企業等の組織的活動を含む社会的活動や社会の状況の理解を前提にして、多面的に自分自身のキャリアデザインのあり方や自分自身の計画的行動について深く考えていくことを、この授業の目的とします。

「将来どのように働いていきたいか」「そのために今、何をしていくのか」を具体的に考える授業です。

この授業の受講を通じて、自分自身の実践的なキャリアデザインのために、残された大学生活の時間の使い方を自分自身で有効にプロデュースしていくための基礎を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていく上で考えておくべき多様な視点を提供し、それらに関する深い理解に基づく戦略的なキャリアデザインをそれぞれの受講生が実践できるようになるよう支援していきます。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度、構想力、行動様式を身につけることが到達目標です。

特にこの授業では、はたらき方・生き方と社会的活動の接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身のはたらき方・生き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることを目指します。

本授業をきっかけに、自分で考えたことを行動に移す経験を持つことを大切にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-V」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

自分の考えを言葉にし、学生同士がコミュニケーションを取りながら互いの考えに触れ、学びを自分の行動につなげていく授業です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価、授業に臨む姿勢、学び方について説明する。

第2回	私たちの生きる社会とキャリアデザイン	私たちが生きる現代社会の特徴・環境について理解を深め、そのような時代における「はたらき方」と「生き方」の変化、なぜキャリアデザインが重要なのかを考える。
第3回	現代における企業の特徴と働き方	組織の中で人が果たす役割や企業の仕組みを理解する。近年の働く環境はどのように変化しているのかを考える。
第4回	チームで働く力	社会ではチームで働く機会が増加する。組織内のチームもあれば組織外の人と協働する場合もある。こうした協働経験が学習と成長につながる仕組みについて理解する。
第5回	対話によるキャリア理解① 聴く力	コミュニケーションの中でも重要な、傾聴と共感を学ぶ。最終レポートでは、他者のキャリアインタビューを行った上でレポートを作成するため、聴く姿勢を身につける。
第6回	自分のこれまでの人生と価値観	これまでの人生においてモチベーションに影響を与えた出来事を振り返り、働く上で重要な自分自身の価値観を考える。
第7回	キャリア理論の実践的理解	キャリア理論を学び、自分の経験や将来設計にどう活かせるか考える。
第8回	キャリアの転機と機会	社会人の実体験から、偶然や転機がキャリアに与える影響を学ぶ。
第9回	対話によるキャリア理解② 語る力	これまでの学びやインタビューを行った内容をグループ内で発表する。グループで得た情報をもとに、自己のキャリアをまとめ、語ることを通して自己理解を深める。
第10回	ライフステージとキャリアの変化	学生期・社会人期・リタイア後といった人生の各段階における特徴や課題を学びながら、その時々でキャリアにおいて大切にすることがどのように変化していくのかを考える。
第11回	多様な働き方を知る	企業勤務、自営業、フリーランス、チームで協働する働き方など、多様な働き方の特徴や違いについて理解を深める。
第12回	新しい働き方とキャリアの形	副業、越境、プロジェクト型など、新しい働き方のあり方とキャリアの広がりについて考える。
第13回	自分のキャリアデザインを描く	これまでの学びを踏まえ、自分のキャリアデザインを具体化し、大学生活をどのように意味づけるかを整理した上で、今後の行動計画を考える。
第14回	これからのキャリアに向けて	授業全体を振り返り、自身のキャリアデザインと行動計画を作成し、発表する。他者との共有を通して考えを深め、これからの行動につなげる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内容をより深く理解するために、授業内または学習支援システムで提示された文献を読んだり、事前課題に取り組んだりしてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

各回の授業内容に応じた資料を「学習支援システム」にて配布します。

【参考書】

授業内において、必要に応じて参考文献等を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、以下の授業への参画状況および期末レポートに基づいて行います。

- ・ 授業への参画と貢献（発言・質問・発表等） 30%
- ・ 毎回のリアクションペーパー 30%
- ・ 期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度は授業担当者の変更に伴い、過去の授業アンケート結果はありません。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料・ワークシート・課題提出等のために、学習支援システム等を活用します。

各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。

学習に使用する機器は、可能であればスマートフォンではなく、PCやタブレットを用意されることを推奨します。

【その他の重要事項】

【講師プロフィール】

日系製造業2社において長年、人事・人材育成分野に従事。人材育成を専門とし、学生・社会人の採用業務にも携わり、その後の育成、キャリア支援、管理職育成、組織づくりまで一貫して関わってきた。授業では、経営学・キャリア理論などの知見を踏まえつつ、企業の現場で実際に起きている事例を紹介しながら、社会や組織の中で働くことの現実とキャリア形成との関係を具体的に伝えていく。みなさんとこれからの時代のキャリアについて一緒に考えていきたい。

【受講者制限】

受講希望者が教室定員を超過する場合は、選抜を行うことがあります。

【授業形態】

講師の都合により、対面の予定から、オンラインに変更になることがあります。変更の場合は、授業及び学習支援システムで通知します。

【Outline (in English)】

Course Outline

This course explores students' future ways of working and living. By understanding social changes and the realities of organizations, students consider their own career development from multiple perspectives. The course supports students in designing their careers strategically and making effective use of their university years.

Learning Objectives

By the end of the course, students will be able to:

Develop attitudes and planning skills necessary for long-term career development.

Describe their future ways of working and living in relation to society and organizations.

Apply their learning to their own career design and take initial action.

Learning Activities Outside of Classroom

Students are expected to spend at least four hours per class on preparation and review. To deepen their understanding, they will read assigned materials and work on preparatory tasks indicated in class or through the learning management system.

Grading Criteria / Policies

Final grades will be based on:

In-class contribution: 30%

Weekly assignments: 30%

Final report: 40%

CAR100LG（キャリア教育 / Career education 100）

キャリアデザイン応用

藤澤 広美

サブタイトル：理論で支えるキャリア

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火3/Tue.3 | キャンパス：多摩

備考（履修条件等）：

その他属性：〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、私たちの「はたらき方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等の組織的活動を含む社会的活動や社会の状況に対する理解を前提に、自分自身のキャリアデザインのあり方や計画的行動について多面的に考察することを目的とします。

この授業の受講を通じて、実践的なキャリアデザインに向けて、残された大学生活の時間を自ら有効にプロデュースしていくための基礎を身につけることも重要なねらいとしています。そのために、キャリアをデザインする上で考慮すべき多様な視点を提示し、それらに対する理解に基づいた戦略的なキャリアデザインを、受講生一人ひとりが実践できるよう支援します。

なお、担当教員の専門性および実務経験を活かし、本授業では学習やキャリアに関する理論を重点的に扱います。キャリア理論を用いて自分自身の経験や将来像を捉え直し、「考える」だけでなく「計画し、行動につなげる」ことを応用的な学びとして位置づけています。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生を歩んでいく皆さんが、自分自身の思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度、構想力、行動様式を身につけることを到達目標とします。特に本授業では、はたらき方・生き方と社会的活動の接点に焦点を当て、キャリアに関する理論を用いて自分自身のキャリアを説明できるようにすることを目指します。

そのうえで、自身のはたらき方・生き方について具体的にイメージし、それを踏まえて、残された大学生活における具体的な行動計画を立てられるようになることを到達目標とします。

最初は小さな一歩で構いません。半年間の学びを通じて、本授業をきっかけに、自分なりの確信をもって行動に移すことができるようになることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-V」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要、進め方、成績評価方法等を説明する。あわせて、「なぜキャリアデザインが必要か」について導入的に整理し、本授業の位置づけを理解する。

2	キャリアをどう捉えるか（1）	理論とは何かを理解し、キャリアに応用可能な理論の基本的な考え方について学ぶ。理論を用いてキャリアを捉える視点を身につける。
3	キャリアをどう捉えるか（2）	キャリア選択や意思決定に関わる理論を踏まえ、自分自身が経験してきた迷いや葛藤をどのように捉え直すことができるかを考察する。
4	キャリアをどう捉えるか（3）	節目とは何かを理解し、偶然や転機を活かす理論を通して、予期せぬ出来事をキャリアの一部として捉える視点について学ぶ。
5	自己理解を深める（1）	興味・価値観・能力といった自己理解の要素について、理論的枠組みを用いて整理する。
6	自己理解を深める（2）	興味・価値観・能力といった自己理解の要素について、代表的なアセスメントを用いて理解を深める。
7	中間振り返り	これまでに扱ったキャリア理論を整理し、それらを用いて自分自身のキャリアを言語化する。中間リフレクションを通じて、学びの意味を振り返る。
8	個人と組織	個人と組織の関係性に関する理論を学び、キャリアが個人の意思だけでなく、組織や制度、他者との関係の中で形成されることを理解する。
9	はたらき方の多様化	正規雇用、非正規雇用、専門職、フリーランスなど、多様なはたらき方の特徴と課題を整理する。
10	キャリアを支える視点	キャリアカウンセリングの基本概念や基本姿勢を学ぶ。傾聴や共感といった視点を通じて、どのように他者の支援に活かしていくか理解を深める。
11	学びとキャリア	キャリアと学習の関係について学ぶ。学習意欲のメカニズムや自己調整学習の方法を理解し、今後の学習や行動にどのようにつなげていくかを考える。
12	ありたい姿を描く	これまでに学んだキャリア理論や社会理解を踏まえ、キャリアビジョンやライフプランを描く。将来の方向性を整理することで、いま自分がすべきことを明確にする。
13	キャリアをデザインする	これまでに学んだキャリア理論や社会理解を踏まえ、自分自身のキャリアデザインを具体化する。残りの大学生活をどのように活用するかを整理し、今後に向けた行動計画を作成する。
14	まとめ・統合する	授業全体の学びを振り返り、自身のキャリアデザインや行動計画を言語化・共有する。他者の考えに触れることで、自分の計画を相対化し、キャリアを継続的に見直していく視点を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回各講義に関連した資料を配布します。資料は「授業支援システム」上にPDFファイルにて配布します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、以下の通りです。

リアクションペーパー（毎回）：40%

・各回のテーマに対する理解度、新たな気づき、自身の考えが記述されているかを評価します。

授業への参画：20%

・グループワークへの積極的な関わりや授業内での発言・質問など、主体的な参加態度を評価します。

期末レポート：40%

・課題の趣旨を踏まえた論理構成や、考察の質（具体性・独自性）を重視して評価します。

なお、指定文字数や提出期限の遵守は必須条件（評価の前提）とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

授業では、レジュメやワークシートの配布、課題提出等に学習支援システムを使用します。

そのため、スマートフォンよりも、PCまたはタブレット端末を使用することを推奨します。

【その他の重要事項】

【講師プロフィール】

HR系ベンチャー企業にてコンサルティング業務に従事後、メーカー系販社にて法人営業を担当。その間、社会人大学院（修士課程）に進学しました。修了後は、大学でキャリアカウンセラーとして学生支援に携わったのち、大学教員となりました。専門はキャリア教育・人材マネジメントです。博士（マネジメント）。「学びとキャリアを科学する」をテーマに、現場での実践と研究の往還を大切にしながら活動しています。

【授業形態】

講師の都合により、対面で実施予定の授業がオンラインに変更となる場合があります。変更がある場合は、授業内および学習支援システムにて事前にお知らせします。

【受講者制限】

受講希望者が教室定員を超過する場合は、選抜を行うことがあります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course focuses on our “ways of working and living.” Building on an understanding of future social activities — including organizational activities within companies — and societal conditions, it aims to encourage multifaceted consideration of one’s own career design approach and planned actions.

A key objective is for students to acquire the foundation needed to effectively manage the time remaining in their university life toward practical career design. To achieve this, we present diverse perspectives to consider when designing a career and support each student in practicing strategic career design based on their understanding of these perspectives.

Leveraging the instructor’s expertise and practical experience, this course emphasizes theories related to learning and careers. It positions the application of career theories to re-examine one’s own experiences and future vision — moving beyond mere “thinking” to “planning and translating into action” — as applied learning.

(Learning Objectives)

Through this course, our goal is for you, as you embark on your long journey through life, to acquire the fundamental attitudes, conceptual skills, and behavioral patterns that will enable you to live as close as possible to the life you envision for yourself. Specifically, this course focuses on the intersection of how you work and live with your social activities. Using career-related theories, we aim to help you develop the ability to articulate your own career path.

Furthermore, the course aims to help you form concrete visions of your own ways of working and living, and based on these, develop specific action plans for the remainder of your university life.

It’s perfectly fine to start with small steps. Over the course of these six months, let this class be the catalyst that empowers you to take action with your own conviction.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be as follows:

Reaction Papers (each session): 40%

・ Evaluated based on understanding of each session’s theme, inclusion of new insights, and expression of personal thoughts.

Class Participation: 20%

・ Evaluated based on proactive involvement in group work, in-class contributions such as speaking up and asking questions, and overall engagement.

Final Report: 40%

・ Evaluation emphasizes logical structure aligned with the assignment’s purpose and the quality of analysis (specificity and originality).

Adherence to the specified word count and submission deadline is a mandatory requirement (a prerequisite for evaluation).

CAR100LG（キャリア教育 / Career education 100）

キャリアデザイン応用

藤澤 広美

サブタイトル：理論で支えるキャリア
開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：火4/Tue.4 | キャンパス：多摩
備考（履修条件等）：
その他属性：〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、私たちの「はたらき方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等の組織的活動を含む社会的活動や社会の状況に対する理解を前提に、自分自身のキャリアデザインのあり方や計画的行動について多面的に考察することを目的とします。

この授業の受講を通じて、実践的なキャリアデザインに向けて、残された大学生活の時間を自ら有効にプロデュースしていくための基礎を身につけることも重要なねらいとしています。そのために、キャリアをデザインする上で考慮すべき多様な視点を提示し、それらに対する理解に基づいた戦略的なキャリアデザインを、受講生一人ひとりが実践できるよう支援します。

なお、担当教員の専門性および実務経験を活かし、本授業では学習やキャリアに関する理論を重点的に扱います。キャリア理論を用いて自分自身の経験や将来像を捉え直し、「考える」だけでなく「計画し、行動につなげる」ことを応用的な学びとして位置づけています。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生を歩んでいく皆さんが、自分自身の思い描く人生にできるだけ近づくようになるための基本的な態度、構想力、行動様式を身につけることを到達目標とします。特に本授業では、はたらき方・生き方と社会的活動の接点に焦点を当て、キャリアに関する理論を用いて自分自身のキャリアを説明できるようにすることを目指します。

そのうえで、自身のはたらき方・生き方について具体的にイメージし、それを踏まえて、残された大学生活における具体的な行動計画を立てられるようになることを到達目標とします。

最初は小さな一歩で構いません。半年間の学びを通じて、本授業をきっかけに、自分なりの確信をもって行動に移すことができるようになることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-V」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要、進め方、成績評価方法等を説明する。あわせて、「なぜキャリアデザインが必要か」について導入的に整理し、本授業の位置づけを理解する。

2	キャリアをどう捉えるか（1）	理論とは何かを理解し、キャリアに応用可能な理論の基本的な考え方について学ぶ。理論を用いてキャリアを捉える視点を身につける。
3	キャリアをどう捉えるか（2）	キャリア選択や意思決定に関わる理論を踏まえ、自分自身が経験してきた迷いや葛藤をどのように捉え直すことができるかを考察する。
4	キャリアをどう捉えるか（3）	節目とは何かを理解し、偶然や転機を活かす理論を通して、予期せぬ出来事をキャリアの一部として捉える視点について学ぶ。
5	自己理解を深める（1）	興味・価値観・能力といった自己理解の要素について、理論的枠組みを用いて整理する。
6	自己理解を深める（2）	興味・価値観・能力といった自己理解の要素について、代表的なアセスメントを用いて理解を深める。
7	中間振り返り	これまでに扱ったキャリア理論を整理し、それらを用いて自分自身のキャリアを言語化する。中間リフレクションを通じて、学びの意味を振り返る。
8	個人と組織	個人と組織の関係性に関する理論を学び、キャリアが個人の意思だけでなく、組織や制度、他者との関係の中で形成されることを理解する。
9	はたらき方の多様化	正規雇用、非正規雇用、専門職、フリーランスなど、多様なはたらき方の特徴と課題を整理する。
10	キャリアを支える視点	キャリアカウンセリングの基本概念や基本姿勢を学ぶ。傾聴や共感といった視点を通じて、どのように他者の支援に活かしていくか理解を深める。
11	学びとキャリア	キャリアと学習の関係について学ぶ。学習意欲のメカニズムや自己調整学習の方法を理解し、今後の学習や行動にどのようにつなげていくかを考える。
12	ありたい姿を描く	これまでに学んだキャリア理論や社会理解を踏まえ、キャリアビジョンやライフプランを描く。将来の方向性を整理することで、いま自分がすべきことを明確にする。
13	キャリアをデザインする	これまでに学んだキャリア理論や社会理解を踏まえ、自分自身のキャリアデザインを具体化する。残りの大学生活をどのように活用するかを整理し、今後に向けた行動計画を作成する。
14	まとめ・統合する	授業全体の学びを振り返り、自身のキャリアデザインや行動計画を言語化・共有する。他者の考えに触れることで、自分の計画を相対化し、キャリアを継続的に見直していく視点を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回各講義に関連した資料を配布します。資料は「授業支援システム」上にPDFファイルにて配布します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、以下の通りです。

リアクションペーパー（毎回）：40%

・各回のテーマに対する理解度、新たな気づき、自身の考えが記述されているかを評価します。

授業への参画：20%

・グループワークへの積極的な関わりや授業内での発言・質問など、主体的な参加態度を評価します。

期末レポート：40%

・課題の趣旨を踏まえた論理構成や、考察の質（具体性・独自性）を重視して評価します。

なお、指定文字数や提出期限の遵守は必須条件（評価の前提）とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

授業では、レジュメやワークシートの配布、課題提出等に学習支援システムを使用します。

そのため、スマートフォンよりも、PCまたはタブレット端末を使用することを推奨します。

【その他の重要事項】

【講師プロフィール】

HR系ベンチャー企業にてコンサルティング業務に従事後、メーカー系販社にて法人営業を担当。その間、社会人大学院（修士課程）に進学しました。修了後は、大学でキャリアカウンセラーとして学生支援に携わったのち、大学教員となりました。専門はキャリア教育・人材マネジメントです。博士（マネジメント）。「学びとキャリアを科学する」をテーマに、現場での実践と研究の往還を大切にしながら活動しています。

【授業形態】

講師の都合により、対面で実施予定の授業がオンラインに変更となる場合があります。変更がある場合は、授業内および学習支援システムにて事前にお知らせします。

【受講者制限】

受講希望者が教室定員を超過する場合は、選抜を行うことがあります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course focuses on our “ways of working and living.” Building on an understanding of future social activities — including organizational activities within companies — and societal conditions, it aims to encourage multifaceted consideration of one’s own career design approach and planned actions.

A key objective is for students to acquire the foundation needed to effectively manage the time remaining in their university life toward practical career design. To achieve this, we present diverse perspectives to consider when designing a career and support each student in practicing strategic career design based on their understanding of these perspectives.

Leveraging the instructor’s expertise and practical experience, this course emphasizes theories related to learning and careers. It positions the application of career theories to re-examine one’s own experiences and future vision — moving beyond mere “thinking” to “planning and translating into action” — as applied learning.

(Learning Objectives)

Through this course, our goal is for you, as you embark on your long journey through life, to acquire the fundamental attitudes, conceptual skills, and behavioral patterns that will enable you to live as close as possible to the life you envision for yourself. Specifically, this course focuses on the intersection of how you work and live with your social activities. Using career-related theories, we aim to help you develop the ability to articulate your own career path.

Furthermore, the course aims to help you form concrete visions of your own ways of working and living, and based on these, develop specific action plans for the remainder of your university life.

It’s perfectly fine to start with small steps. Over the course of these six months, let this class be the catalyst that empowers you to take action with your own conviction.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be as follows:

Reaction Papers (each session): 40%

・ Evaluated based on understanding of each session’s theme, inclusion of new insights, and expression of personal thoughts.

Class Participation: 20%

・ Evaluated based on proactive involvement in group work, in-class contributions such as speaking up and asking questions, and overall engagement.

Final Report: 40%

・ Evaluation emphasizes logical structure aligned with the assignment’s purpose and the quality of analysis (specificity and originality).

Adherence to the specified word count and submission deadline is a mandatory requirement (a prerequisite for evaluation).

CMF100LJ (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100)

カーボンニュートラル推進リーダー育成講座(入門)

三田地 真実

開講時期：オースタムセッション/Autumn Session | 単位数：2
単位
曜日・時限：集中・その他 | キャンパス：市ヶ谷
備考（履修条件等）：
その他属性：〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カーボンニュートラルを達成するために、地球規模で起きている環境・社会問題への理解を深める。授業では、カーボンニュートラルを推進している企業や自治体、本学キャンパスの施設見学など、実際の取り組みを知るためのフィールドワークを行い、多様な現場での実践例に触れて学びを広げる。各回の後半にはグループワークの時間を設け、訪問先に対して学生の視点から、カーボンニュートラル推進に向けた提案を行う。こうした活動を通じて、問題解決の場が必要となる話し合いの技術であるファシリテーションを実践的に学びながら、カーボンニュートラルを推進できるリーダーを育成する。

【到達目標】

1. コンテンツ（学習内容）のゴール：
カーボンニュートラルを達成するために、地球規模の環境・社会問題の構造の理解を深め、身近なところからアクションを起こすことができる。
2. プロセス（学習過程）のゴール：
環境・社会問題を解決していくための話し合いの技術（ファシリテーション）を学び、他の課題解決に対しても応用できる（毎回、ファシリテーションミニ講座を設定）。
3. 最終課題：
法政大学に対し、チームでカーボンニュートラルに関する取組の具体的な提案を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学ディプロマポリシーのうち「法政DP-IV」「法政DP-V」「法政DP-VI」「法政DP-VII」に関連。
大学ディプロマポリシーの詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回の授業の基本的な内容は、下記のとおり。

- ① ゲストスピーカー（CNに取り組んでいる企業、自治体、及び本学教職員）による講義
- ② フィールドワーク（企業及び本学の施設見学等）
- ③ ①②を踏まえたグループワーク

最終回の授業では、法政大学に対してカーボンニュートラルに関する取組の提案をチームでプレゼンテーションする。本学教職員が審査員としての講評を行う。

毎回の授業終了後には各自で記入するリアクションペーパーを課し、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
プレ講座 (40分)	ガイダンス	9月5日(土) 10:30~12:10 (予定) 授業全体のオリエンテーション 目的・進め方・内容等の説明 CNについての紹介動画視聴など
第1回～ 第3回	取組紹介(1) 法政大学の取組(小金井) 研究紹介	9月11日(金) 小金井キャンパス 13:00~17:30(予定) 1) Think Globallyの視点から 澤柿敦伸先生 (本学業務執行理事、社会学部教授) ・診断医としての南極観測隊 ・人新世における南極の異変 ・イノベーションを起こす とき 2) Act Locally(その1) 本学のCN推進の取り組み全体像 岡本吉史先生 (理工学部教授、カーボンニュートラル推進センター副センター長) ・カーボンニュートラル推進センター の活動内容 渡邊雄二郎先生 (生命科学部教授、カーボンニュートラル推進センター運営委員、人材育成チームリーダー、カーボンニュートラル授業運営委員会委員長) ・鉱物によるCO2固定・回収の紹介 ・二酸化炭素濃度の測定の紹介 小金井キャンパスの施設見学 グループワーク
第4回～ 第6回	取組紹介(2) 法政大学の取組(市ヶ谷) 千代田区の取組	9月12日(土) 市ヶ谷キャンパス 13:00~17:30(予定) 1) Act Locally(その2) 組織としての本学のCN推進の取り組み 法政大学施設保全全部 (カーボンニュートラル推進センター脱炭素化推進チーム) ・市ヶ谷キャンパスのバックヤード などの施設見学 2) Act Locally(その3) 千代田区役所 ・市ヶ谷キャンパスの所在地である 千代田区の取り組み紹介 グループワーク
第7回～ 第9回	取組紹介(3) 積水ハウスの取組	9月14日(月) 積水ハウス エコファーストパーク等(茨城県古河市) 10:30~17:00(予定) 積水ハウス ・積水ハウスの取り組み紹介 ・施設見学 グループワーク

- 第10回～ 取組紹介（4）
第11回 東京ガスの取組
- 9月15日（火）
東京ガス 扇島LNG基地（神奈川県横浜市）
13：00～17：00（予定）
東京ガスエンジニアリングソリューションズ
・東京ガスの取り組み紹介
・施設見学
グループワーク
- 第12回～ 取組紹介（5）
第14回 法政大学の取組（多摩）
授業全体のまとめ
- 9月17日（木） 多摩キャンパス
10：30～17：30（予定）
池田寛二先生（名誉教授、元社会学部教授）
鞠子茂先生（社会学部教授）
・多摩キャンパスの森林からカーボン・ニュートラルを考えよう
・多摩キャンパス森林・施設見学グループ発表準備
法政大学への提言（グループ発表）
授業全体の省察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習時間・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。

【参考書】

■カーボンニュートラル関連の参考図書等は以下の通り。（※）は全文ダウンロード可）

野村総合研究所編（2022）カーボンニュートラル、日経文庫
法政大学多摩環境委員会（2014）多摩キャンパス：自然と生物（※）
https://www.hosei.ac.jp/application/files/2615/7137/8082/tama_houkokusyo_2014.pdf

森林立地学会編（2012）森のバランスー植物と土壌の相互作用、東海大学出版
資源エネルギー庁スペシャルコンテンツ（キーワード検索すると関連記事が出てきます）：

<https://www.enecho.meti.go.jp/about/special/johoteikyo/ondankashoene/>

脱炭素ポータル：

https://ondankataisaku.env.go.jp/carbon_neutral/

その他、授業中に適宜配付する。

■ファシリテーション関連の参考図書は以下の通り。（※）は全文ダウンロード可）

Justice, T. & Jamieson, D. W. (2012) The Facilitator's Fieldbook: Step-by-step Guides Checklist and Worksheet (3rd ed.), Harpercollins Leadership.

三田地真実（2009）環境との相互作用から理解する人間行動一応用行動分析学（ABA）の視点から、人間環境論集（法政大学人間環境学会）、10、23-42。（※）

三田地真実（2018）学生の行動を軸に見据えて、「機能するグループワーク」を企画・実施するために一応用行動分析学とファシリテーションの視点から、法政大学教育研究、9、27-39。（※）

https://researchmap.jp/mami_mitachi/published_papers/32140326

三田地真実（2022）対面授業のビデオ記録を活用した省察一経済学大人数授業アクティブ・ラーニング型授業での実践、名古屋高等教育研究、22、245-260。（※）

https://researchmap.jp/mami_mitachi/published_papers/36796477

中野民夫（監修）三田地真実（2013）ファシリテーター行動指南書一意味ある場づくりのために、ナカニシヤ出版

中野民夫・三田地真実（編著）（2016）ファシリテーションで大学が変わる一アクティブ・ラーニングにいのちを吹き込むには、ナカニシヤ出版

■リーダーシップ×行動分析学関連の参考図書は以下の通り。

島宗理（2015）リーダーのための行動分析学入門、日本実業出版社
三田地真実（2009）環境との相互作用から理解する人間行動一応用行動分析学（ABA）の視点から、人間環境論集（法政大学人間環境学会）、10、23-42。（※）

https://researchmap.jp/mami_mitachi/misc/22821962

【成績評価の方法と基準】

- ・各授業回におけるリアクションペーパー 40%
- ・最終プレゼンテーション（法政大学へのカーボンニュートラルに関する取り組みの提案） 20%
- ・最終レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

ポジティブな意見：

「発言の場が多く、様々な意見を聞くことができる点。また、個人の考えにとどまらず、それを表現することによって、新たなアイデアに結びつけることができる点。」

「授業が多摩や小金井の教授からも受けることができ、学びが広がった。」
→これらについては、さらに発展させて、学内教職員に公開できる部分は公開することを検討している。

改善を要する意見：

「リーダー育成系をもう少し授業で取り上げると思っていたので期待していたものとは少し異なっていたから。」

→リーダー育成については、現在取り組める時間が十分ではないことから、今後はその部分についての演習や講義も含めていくことを検討している。

【学生が準備すべき機器他】

- ・自分専用のノートPC（スマートホンは除く）を毎回持参すること。
- ・本授業はグーグルクラスルームを使うので、8月末までに登録を済ませておくこと。（履修登録者にはグーグルクラスルームへの招待を行うので、各自で登録をしてください。）

・事前学習では以下の動画教材を使用する予定である。事前に視聴しておくことが望ましい。「カーボンニュートラルミニ講座：基礎学習編」（デザイン工学部 川久保俊教授（作成当時））

<https://www.youtube.com/watch?v=hJwbUHO7pBs>

【その他の重要事項】

- ・定員（25名程度）を超過した場合は、抽選を行う。
- ・本授業は、オータムセッションの期間中に集中講義の形式で実施する。実施日は、9月11日（金）、12日（土）、14日（月）、15日（火）、および17日（木）の予定。

・第1回授業の前のプレ講座（オンライン）に参加することを必須とする（9月5日（土）午前中を予定）。当日、都合が悪い場合は後日録画視聴参加でも可とする。

その際に、授業の目的、進め方、など授業のガイダンスを行う。また、カーボンニュートラルの基礎として『なぜカーボンニュートラルの実現を目指す必要があるのか』オンデマンドシステム（<https://lms.hosei.ac.jp/rpv/home/default.aspx>）を視聴する。

・9月11日（金）（第1回～第3回）および9月17日（木）（第12回～第14回）の授業回については、本学のカーボンニュートラル推進の取り組みの一つである本科目の授業内容やゲストスピーカーの教員のカーボンニュートラルに関連する研究の取り組みを周知するため、一部内容を学内（学生および教職員）に対して公開する。なお、9月17日（木）（第12回～第14回）に実施する法政大学への提言（グループ発表）についても、公開対象とする。

・本授業では、課題の提出や資料の配布などについてはグーグルクラスルームを使用するので、注意されたい（学習支援システムは使いません）。

・授業に関する質問については、授業の前後、グーグルクラスルーム、メールなどで随時受け付ける。

・フィールドワーク先への交通費、昼食代等は、自己負担となる。

【Outline (in English)】

【Course Description】

This course offers students an opportunity to understand environmental and social issues globally in order to achieve carbon neutrality. Students will participate in several field works, including commercial companies, local governments, and universities that have promoted carbon neutrality. At the end of the course, students are expected to present proposals to Hosei University as a team to enhance their carbon-neutral environment. Students will learn facilitation techniques throughout the course in order to promote group projects.

【Course Objectives】

The course will provide students with the opportunity to learn: Content (Learning Material) Goals:

- ・ To understand the structure of global environmental and social issues to achieve carbon neutrality.
- ・ To take action in daily situations.

Process (Learning Process) Goals:

- ・ How to facilitate group discussions to solve environmental and social problems.
- ・ To apply facilitation skills to other problem-solving situations.

Final Assignment:

As a team, student must present concrete proposals for carbon-neutral initiatives to Hosei University

【Learning Activities Outside of Classroom】

Preparation for the final presentation will occur outside of class hours. The standard time allocated for preview and review for this course is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policies】

Reaction papers in each class session: 40%

Final presentation (proposal for carbon-neutral initiatives at Hosei University): 20%

Final report: 40%

CST300NA（土木工学 / Civil engineering 300）

減災工学

丸山 喜久、矢部 正明、藤村 和也、吉見 雅行、室野 剛隆、山崎 敦広、田中 孝幸、外園 明成、菅原 寛明、麓 博史、井原 和彦、山口 広喜

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模の気候変化とともに、日本では人口減少・高齢化、国土の二極化など社会構造の変容が著しい。ハザードへの暴露率が世界有数の高さにあるわが国において、人々の生命を守り災害による社会システムの損失を最小化するためには、災害リスク評価に基づく減災施策を的確に進めることが喫緊の課題である。地震災害、土砂災害、風水害など自然災害の実態を理解し、国内外で取り組まれる減災の事例と先端技術を学ぶ。

【到達目標】

多様な減災戦略に供する工学体系の学修を通し、技術者として安全・安心で持続可能な国土を形成するために必要な科学知識や素養を修得する。

【修得できる能力】

- | | |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 | 10% |
| (B) 技術者倫理 | 10% |
| (C) 工学基礎学力 | |
| (D) 専門基礎学力 | 20% |
| (E) 専門知識の活用・応用能力 | 30% |
| (F) 総合デザイン能力 | 30% |
| (G) コミュニケーション能力 | |
| (H) 継続的学習能力 | |
| (I) 業務遂行能力 | |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国内外における自然災害の事例と地球環境や社会の変化にともなう災害特質の経年的推移を理解し、災害の発生機構や社会システムに及ぼす影響などを学ぶ。自然災害規模がハザード、暴露率、脆弱性の関数であり、暴露率と脆弱性の最小化が減災工学の目的であることを理解する。前半では地震外力をハザードとする場合の社会インフラへのダメージと様々な技術分野で開発された減災施策を講述する。後半では、気象外力をハザードとする風水害・沿岸災害・土砂災害の国内外事例と減災施策を紹介し、減災を進める上での課題と様々な技術・政策の減災効果について学ぶ。いずれの種類のハザードに関しても、環境と防災の一体化、生態系サービスを利用した防災・減災の重要性を学ぶ。授業の最終段階では減災を実質化する上で必要な事前・事後復興施策、BCP、地域社会のあり方など、減災の社会工学的アプローチを学修する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地震	地震の発生メカニズム：断層・地震
2	地震	地震によるライフライン（ガス、水道）の被害と復旧
3	地震	地震によるライフライン（電力）の被害と復旧
4	地震	地震による道路インフラの被害と復旧
5	地震	地震による道路インフラの被害と復旧

6	地震	地震による鉄道インフラの被害と復旧
7	地震<-防災・減災計画	地震に対する減災施策：リスク管理、地震保険 <-総力戦で挑む防災・減災プロジェクトについて
8	防災・減災	総力戦で挑む防災・減災プロジェクトについて
9	避難計画	水害からの避難について～近年の水災害と水防行政～
10	気候変動と水害	気候変動への対応と流域治水
11	治水事業	荒川における河川整備について
12	防災・環境	治水と環境が調和した多自然川づくり
13	土砂災害	土砂災害対策について
14	内水害	下水道による都市浸水対策について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自学自習に努めること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義資料を配付

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

自然災害の発生メカニズム、社会インフラの被災と減災、気候変動が自然災害に及ぼす影響、防災・減災と環境施策の一体性、持続可能な国土に求められる社会の条件と技術者の使命、などに関する理解度を各回の演習レポート（100%）により総合評価する。100点満点に換算した上、60点以上を合格とする。欠席4回以上の場合には単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

地盤力学及演習（必修）、地盤環境工学（必修）、水理学Ⅰ及演習（必修）、河川環境工学（必修）、ならびに水文気象学、流域水文学、水理学Ⅱを履修していることが望ましい。

オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Along with global climate change, the social structure of Japan is undergoing remarkable changes such as population decline and aging. Japan is one of the countries in the world that are exposed to most severe natural hazards. Therefore, it is an urgent task to properly implement disaster mitigation measures based on disaster risk assessment in order to protect people's lives and minimize the loss of social systems due to disasters. The objective of this program is to understand science of natural disasters such as earthquake disasters, sediment-related disasters, and storms and floods, and to learn about disaster mitigation examples and advanced technologies. (Learning Objectives)

Through the study of engineering systems that contribute to various disaster mitigation strategies, students will acquire the scientific knowledge and skills necessary to develop a safe, secure, and sustainable land as an engineer.

(Learning activities outside of classroom)

Continuously keep on one's self study. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy)

Score is given by evaluating how much students understand mechanism of occurrence of natural disasters, damage and mitigation of social infrastructure, impact of climate change on natural disasters, integration of disaster prevention/mitigation and environmental measures, social conditions required for sustainable national land and the mission of engineers, etc. Comprehensive evaluation is made based on the exercise report (100%). After converting to 100 points, a score of 60 or higher is considered a pass. Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (evaluation D).

CST300NA（土木工学 / Civil engineering 300）

減災工学

丸山 喜久、矢部 正明、藤村 和也、吉見 雅行、室野 剛隆、山崎 敦広、田中 孝幸、外園 明成、菅原 寛明、麓 博史、井原 和彦、山口 広喜

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模の気候変化とともに、日本では人口減少・高齢化、国土の二極化など社会構造の変容が著しい。ハザードへの暴露率が世界有数の高さにあるわが国において、人々の生命を守り災害による社会システムの損失を最小化するためには、災害リスク評価に基づく減災施策を的確に進めることが喫緊の課題である。地震災害、土砂災害、風水害など自然災害の実態を理解し、国内外で取り組まれる減災の事例と先端技術を学ぶ。

【到達目標】

多様な減災戦略に供する工学体系の学修を通し、技術者として安全・安心で持続可能な国土を形成するために必要な科学知識や素養を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国内外における自然災害の事例と地球環境や社会の変化にともなう災害特質の経年の推移を理解し、災害の発生機構や社会システムに及ぼす影響などを学ぶ。自然災害規模がハザード、暴露率、脆弱性の関数であり、暴露率と脆弱性の最小化が減災工学の目的であることを理解する。前半では地震外力をハザードとする場合の社会インフラへのダメージと様々な技術分野で開発された減災施策を講述する。後半では、気象外力をハザードとする風水害・沿岸災害・土砂災害の国内外事例と減災施策を紹介し、減災を進める上での課題と様々な技術・政策の減災効果について学ぶ。いずれの種類のハザードに関しても、環境と防災の一体化、生態系サービスを利用した防災・減災の重要性を学ぶ。授業の最終段階では減災を実質化する上で必要な事前・事後復興施策、BCP、地域社会のあり方など、減災の社会工学的アプローチを学修する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地震	地震に対する減災施策：リスク管理、地震保険
2	地震	地震による道路インフラの被害と復旧
3	地震	地震による道路インフラの被害と復旧
4	地震	地震による鉄道インフラの被害と復旧
5	地震	地震の発生メカニズム：断層・地震
6	地震	地震によるライフライン（ガス、水道）の被害と復旧
7	地震	地震によるライフライン（電力）の被害と復旧
8	防災・減災	総力戦で挑む防災・減災プロジェクトについて
9	避難計画	水害からの避難について～近年の水災害と水防行政～
10	気候変動と水害	気候変動への対応と流域治水
11	治水事業	荒川における河川整備について

12	防災・環境	治水と環境が調和した多自然川づくり
13	土砂災害	土砂災害対策について
14	内水害	下水道による都市浸水対策について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自学自習に努めること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義資料を配付

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

自然災害の発生メカニズム、社会インフラの被災と減災、気候変動が自然災害に及ぼす影響、防災・減災と環境施策の一体性、持続可能な国土に求められる社会の条件と技術者の使命、などに関する理解度を各回の演習レポート（100%）により総合評価する。100点満点に換算した上、60点以上を合格とする。欠席4回以上の場合には単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

地盤力学及演習（必修）、地盤環境工学（必修）、水理学Ⅰ及演習（必修）、河川環境工学（必修）、ならびに水文気象学、流域水文学、水理学Ⅱを履修していることが望ましい。
オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Along with global climate change, the social structure of Japan is undergoing remarkable changes such as population decline and aging. Japan is one of the countries in the world that are exposed to most severe natural hazards. Therefore, it is an urgent task to properly implement disaster mitigation measures based on disaster risk assessment in order to protect people's lives and minimize the loss of social systems due to disasters. The objective of this program is to understand science of natural disasters such as earthquake disasters, sediment-related disasters, and storms and floods, and to learn about disaster mitigation examples and advanced technologies. (Learning Objectives)

Through the study of engineering systems that contribute to various disaster mitigation strategies, students will acquire the scientific knowledge and skills necessary to develop a safe, secure, and sustainable land as an engineer.

(Learning activities outside of classroom)

Continuously keep on one's self study. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy)

Score is given by evaluating how much students understand mechanism of occurrence of natural disasters, damage and mitigation of social infrastructure, impact of climate change on natural disasters, integration of disaster prevention/mitigation and environmental measures, social conditions required for sustainable national land and the mission of engineers, etc. Comprehensive evaluation is made based on the exercise report (100%). After converting to 100 points, a score of 60 or higher is considered a pass. Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (evaluation D).

CST300NA（土木工学 / Civil engineering 300）

減災工学

丸山 喜久、矢部 正明、藤村 和也、吉見 雅行、室野 剛隆、山崎 敦広、田中 孝幸、外園 明成、菅原 寛明、麓 博史、井原 和彦、山口 広喜

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模の気候変化とともに、日本では人口減少・高齢化、国土の二極化など社会構造の変容が著しい。ハザードへの暴露率が世界有数の高さにあるわが国において、人々の生命を守り災害による社会システムの損失を最小化するためには、災害リスク評価に基づく減災施策を的確に進めることが喫緊の課題である。地震災害、土砂災害、風水害など自然災害の実態を理解し、国内外で取り組まれる減災の事例と先端技術を学ぶ。

【到達目標】

多様な減災戦略に供する工学体系の学修を通し、技術者として安全・安心で持続可能な国土を形成するために必要な科学知識や素養を修得する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国内外における自然災害の事例と地球環境や社会の変化にともなう災害特質の経年的推移を理解し、災害の発生機構や社会システムに及ぼす影響などを学ぶ。自然災害規模がハザード、暴露率、脆弱性の関数であり、暴露率と脆弱性の最小化が減災工学の目的であることを理解する。前半では地震外力をハザードとする場合の社会インフラへのダメージと様々な技術分野で開発された減災施策を講述する。後半では、気象外力をハザードとする風水害・沿岸災害・土砂災害の国内外事例と減災施策を紹介し、減災を進める上での課題と様々な技術・政策の減災効果について学ぶ。いずれの種類のハザードに関しても、環境と防災の一体化、生態系サービスを利用した防災・減災の重要性を学ぶ。授業の最終段階では減災を実質化する上で必要な事前・事後復興施策、BCP、地域社会のあり方など、減災の社会工学的アプローチを学修する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地震	地震に対する減災施策：リスク管理、地震保険
2	地震	地震による道路インフラの被害と復旧
3	地震	地震による道路インフラの被害と復旧
4	地震	地震による鉄道インフラの被害と復旧
5	地震	地震の発生メカニズム：断層・地震
6	地震	地震によるライフライン（ガス、水道）の被害と復旧
7	地震	地震によるライフライン（電力）の被害と復旧

8	防災・減災	総力戦で挑む防災・減災プロジェクトについて
9	避難計画	水害からの避難について～近年の水災害と水防行政～
10	気候変動と水害	気候変動への対応と流域治水
11	治水事業	荒川における河川整備について
12	防災・環境	治水と環境が調和した多自然川づくり
13	土砂災害	土砂災害対策について
14	内水害	下水道による都市浸水対策について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自学自習に努めること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義資料を配付

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

自然災害の発生メカニズム、社会インフラの被災と減災、気候変動が自然災害に及ぼす影響、防災・減災と環境施策の一体性、持続可能な国土に求められる社会の条件と技術者の使命、などに関する理解度を各回の演習レポート（100%）により総合評価する。100点満点に換算した上、60点以上を合格とする。欠席4回以上の場合には単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

地盤力学及演習（必修）、地盤環境工学（必修）、水理学Ⅰ及演習（必修）、河川環境工学（必修）、ならびに水文気象学、流域水文学、水理学Ⅱを履修していることが望ましい。

オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Along with global climate change, the social structure of Japan is undergoing remarkable changes such as population decline and aging. Japan is one of the countries in the world that are exposed to most severe natural hazards. Therefore, it is an urgent task to properly implement disaster mitigation measures based on disaster risk assessment in order to protect people's lives and minimize the loss of social systems due to disasters. The objective of this program is to understand science of natural disasters such as earthquake disasters, sediment-related disasters, and storms and floods, and to learn about disaster mitigation examples and advanced technologies. (Learning Objectives)

Through the study of engineering systems that contribute to various disaster mitigation strategies, students will acquire the scientific knowledge and skills necessary to develop a safe, secure, and sustainable land as an engineer. (Learning activities outside of classroom)

Continuously keep on one's self study. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy)

Score is given by evaluating how much students understand mechanism of occurrence of natural disasters, damage and mitigation of social infrastructure, impact of climate change on natural disasters, integration of disaster prevention/mitigation and environmental measures, social conditions required for sustainable national land and the mission of engineers, etc. Comprehensive evaluation is made based on the exercise report (100%). After converting to 100 points, a score of 60 or higher is considered a pass. Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (evaluation D).

POL200GA (政治学 / Politics 200)

平和学

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では主に国際機構に着目して平和学を学ぶ。歴史、思想、組織、制度、文化などを通して平和や暴力について考え、国際社会コースの基幹科目として、各自がより深めたい専門領域を見つけるきっかけとなることを目指す。

【到達目標】

- (1) 消極的平和、積極的平和、文化的平和の概念を使って事例を説明できる。
- (2) 国際機構の特徴と平和との関係を具体的に説明できる。
- (3) 基本的なアカデミックスキルと平和学で取り上げられる方法を理解し、実際に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

■基本方針：対面で実施する。学内業務などでやむを得ない場合はオンデマンド授業を行う場合もある。

■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業後課題：：2回に1回程度課す。基幹科目なのでアカデミックスキルを高

めることを目的とし、200字～800字程度で書いてもらう。提出期限は授業日から3日以内。授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「平和」「平和学」とは何か	「平和」の概念や「平和学」の発展について考える。
2	国際機構誕生前の平和と暴力	17c以降の平和思想をふまえ、「力」による平和の賛否について考える
3	国際連盟の意義と限界	戦争を違法化し制裁によって守らせようとするについて考える
4	国連憲章と自衛の武力	非暴力で戦争のない消極的平和を築くことができないのかを考える
5	2つの平和主義	「正しい戦争」という考え方の変遷と妥当性について考える
6	人道的介入の是非	暴力を止めるために暴力を使うことの是非について考える
7	紛争研究	解決した紛争に着目する
8	紛争解決学	紛争解決に関する学問的蓄積から平和学を学ぶ方法論を習得する。
9	積極的平和と国際開発機構（ユニセフ）	井戸掘りという「平和」的手段が暴力になる構造を考える。
10	積極的平和と国際開発機構（世界銀行）	開発協力が暴力になる構造を考える。
11	異議申し立てとオンブズマン	平和的手段が暴力にならないための仕組みについて考える。
12	文化と平和	「文化的平和」という概念を手がかりに、文化と平和（暴力）のつながりについて考える。
13	紛争と文化外交・平和教育	「何を」から「どのように」への転換と「平和」のつながりについて考える。
14	まとめ（権力と暴力）	「権力」という切り口から13回の授業を振り返り、授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後課題は、法政大学の図書館HPのデータベース等から文献を検索して論じるなど、大学生に必要な調査と思考を促すものである。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

関連する文献を毎回の授業で示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内討論への参加度）20%、授業後課題30%、期末レポート50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・学生から提出された授業後課題の答案に対して、個々人へのフィードバックを求める声があるが、履修者が多いためそれは不可能。また、労力の割に、それを活かそうと考えている学生が多いわけではない。したがって、提出された答案をもとに次の授業の冒頭でフィードバックし、それを各自が自分の答案に当てはめて自己分析してもらっている。自己採点能力も重要な力である。
- ・学習支援システムの「掲示板」を使って常時質問を受け付けているが、ほとんど質問はない。
- ・授業後課題はコロナ禍では毎回出していたが、負担の大きさに鑑みて、現在では学期中に5～6回にしている。受講者からは、大学でのレポートの書き方やデータベースの使い方が身についたと好評である。
- ・学生からは「学びが大きい」「思考が深まる」というフィードバックが多いので、毎回のグループ討議と発表、それに対する教員のコメントを引き続き行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・国際開発協力NGOやNHK記者としての実務経験を有する教員が、直接関わった開発事例や取材経験を挙げながら講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course focuses on international organizations to explore "positive", "negative" and "cultural" peace in the Galtung's terms. It enables students to apply the Galtung's terms for explaining the conflicts and to analyze the functions of international organizations in "peace".

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) explaining the issues or events by using the concept of "positive", "negative", "cultural" peace.
- 2) explaining the functions of international organizations in avoiding certain type of the violence.
- 3) applying the basic academic skills and the analytical methods the peace studies use for actual cases of violence.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

ARSa400GA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 400）

地域協力・統合

大中 一彌

配当年度／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。
授業を紹介する動画を2つ用意しました。ぜひご覧ください：
《なぜ国は買えないのか》 <https://x.gd/aZ8no> ※学内者限定
《西ヨーロッパと自由》 <https://x.gd/6bP6e> ※学外からも閲覧できます。
学内には他にもヨーロッパ関連の科目があります。これらの授業と比較しながら、本授業「地域協力・統合」の特色は、高校までの世界史の知識を確かめながら、思想史や文化史に軸足を置きつつ、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき基礎教養として、「ヨーロッパとは何か」について学ぶ点にあります。過去と現在を往復しながら、とくにヨーロッパと、その外部とされるものの境界（ボーダー）に焦点をあてつつ、認識をほりさげていきます。

【到達目標】

- ①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べるができる。
- ②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ③西ローマ帝国崩壊前後以降、10世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパや、イスラームの拡大を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑤ルネサンス期を特徴づけるユマニズムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革がもたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑥中央集権化やヨーロッパ外における植民地をめぐる争い、「文芸の共和国」の出現など、一連の政治的文化的な変化を背景としつつ、商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。
- ⑦イギリス、アメリカ、フランスや他のヨーロッパ諸国にみられる市民的権利にもとづく思想・制度の発達について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・この科目「地域協力・統合」は、2025年度にひきつづき、2026年度も、リアルタイム・オンラインで実施します。
- ・授業時間（100分）の前半65分程度は、受講者全体へのフィードバック（15-20分）と講義（45-50分）にあてています。
- ・授業時間（100分）の後半35分程度を、グループディスカッションにあてています。
- ・毎回の授業資料はGoogle Classroomをつうじて事前に配布しています。
- ・学習支援システム-Hoppiiを利用し、小テストを受験してもらう場合があります。
- ・基本的にリアルタイム・オンラインですが、授業内容の録画を、受講者の個人情報保護に留意しつつ、受講者のみが視聴できる形で共有する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
4	考古学的定義	ギリシア世界

5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特徴とされるものについて学ぶ
6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世的秩序の形成
11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニズム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16世紀-17世紀のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、チューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争。西ヨーロッパ諸国間の紛争の新大陸やアジアにおける展開
13	「主権」の発動たる戦争、その悲慘を目の当たりにした人々による平和の希求	ジャック・カロ「戦争の悲慘」。クリュセ、コメニウス、ベンラに芽生えた統合の思想
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1. 小テストが宿題として出されます（ネット上で受験）
- 2. グループ・ディスカッションの課題の提出（授業時間内に提出まで至らなかった場合のみ）
- 2. 本学学習基準によると、講義や演習で2単位を得るのに必要な予習・復習の時間は1回につき4時間以上とされているそうです。

【テキスト（教科書）】

教科書を買う必要はありません。Google Classroom上で資料を配布します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- 1. 期末テストは行いません 0%
- 2. 期末レポートは出題しません 0%
- 3. 小テストの受験【インターネット上において授業時間外に受験するため、体育会や就職活動中の学生、所属キャンパスを問わずすべての学生がオンラインで受験できます（※1）】60%
（※1）小テストは授業の復習であり、授業で配る資料をみれば、簡単に答えられるやさしい内容です。
- 4. オンライン授業への参加【リアルタイム・オンライン授業＝月4限のZoomミーティングへの各学生による接続（※2）】20%
（※2）ただし、第1回、第2回、第14回のリアルタイム・オンライン授業（Zoomミーティング）の活動についてのネ、この項目●4.ではなく、●6.における評価対象といたします。
- 5. グループ・ディスカッション&学生間の共働【グループ・ディスカッションにおける意見交換への積極的参加や、グループ・ディスカッションにおける学生間のやりとりのとりまとめ、所定のGoogleフォームを用い、とりまとめた成果物を教員に提出（送信）する、等（※3）】20%
（※3）グループ・ディスカッションは、3～6人程度の学生グループをZoomのブレイクアウト・ルーム機能を用いて毎回新たに作り、複数人の共同作業として行っています。Zoomに接続し、他の学生と共に議論に参加していたことがグループとして提出した成果物に記載されていれば、加点されます。
- 6. その他【1.～5.の合計100%には含めず、その外枠で10%程度まで加算します。】
（ア）運営への協力（協力してくれた方に加点しています；たとえば配布資料の誤字や、WebClassやGoogle Classroom等のLMSの設定の誤りの指摘。授業参加者間の連絡や情報共有に積極的に取り組んでくれたといった形の運営協力が加点の対象）
（イ）第1回、第2回、第14回のリアルタイム・オンライン授業（Zoomミーティング）と関連する活動への参加
（ウ）小テスト以外の提出物（アンケート等）で加点対象とするものが提出された場合

【学生の意見等からの気づき】

- ・ヨーロッパの文化史や政治史、経済史についての学びは、大人の教養として経験しておいたほうが良さそうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
- ・この科目「地域協力・統合」は、高校までの学習内容を確認しながら、大学の学部レベル以上の内容に深めていくという組み立てとすることで参加のハードルを下げ、そうした方（かた）が必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google ClassroomやWebClassを使いますので、必要な機器や情報環境はお持ちであったほうが良いでしょう。

【その他の重要事項】

・わからないことは、気兼ねなく、お問合ください。

- ・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
- ・問い合わせ先や、授業内容のイメージについては、次のリンク先をご覧ください（Word ファイル）<https://x.gd/1W2Mf>

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. In this class, students will examine the question with an emphasis on the history of ideas and culture. Starting with the geographical notion of Europe as a "continent", students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity. She or he will move back and forth between the past and the present, focusing in particular on the ambivalence of the boundaries between Europe and its "others", in order to deepen her or his understanding of the question.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1) Expressing her or his own views about the geographical spread of "Europe".
- 2) Relating the notion of "Europe" to the cultural, political, and philosophical legacies of ancient Greece, Hellenism, and Rome, and making an argument at a level appropriate for an undergraduate student.
- 3) Discussing, at a level appropriate for undergraduate students, the Great Migration of Germanic, Norman, and Slavic peoples and the formation of "Europe", in relation to the history of each country from the time of the collapse of the Western Roman Empire to the 10th century.
- 4) Explaining the relationship between Western Europe in the Middle Ages, which was formed around Catholicism, and Eastern Europe, which was formed around Orthodoxy, and the expansion of Islam, at a level appropriate for undergraduate students.
- 5) Describing, at a level appropriate for undergraduate students, the significance of humanism, which characterized the Renaissance, the impact of the so-called "Age of Discovery" on non-European countries, and the redefinition of the relationship between faith and politics resulting from the Reformation.
- 6) Arguing, both positively and negatively, about the "Eurocentric" consciousness that emerged through the development of commerce under a series of political and cultural changes, including the centralization of power, wars in colonies outside Europe, and the emergence of the "Republic of Letters".
- 7) Illustrating the significance for modern societies of the development of civil rights-based ideas and institutions with historical events in the United Kingdom, the United States, France, and other European countries at a level appropriate for undergraduate students.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

- 1) A simple quiz will be given almost every week as homework. Participation in this quiz is mandatory for all students taking the course. In order to answer this quiz, students need to use the learning support system - Hoppii (on the Internet).
- 2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Based on the following grading methods, students who have achieved at least 60% of the achievement objectives for this class will be considered to have passed the class (C minus or better on a letter grade basis).

1. No final exam will be given. 0%.
2. Attendance will not be taken 0%.
3. Quiz Examination [All students, regardless of their campus affiliation, including athletics and job-seeking students, can take the quiz online because of the use of Hoppii] 61%.
4. Group discussion and collaboration among students [Participation in group discussions, group discussion on Google Classroom, and sending the results to instructors, etc.] 25%.
5. End-of-term report (to be submitted only by those who wish to do so): 14%.

CUA200GA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

国際関係研究IV

宮本 佳和

サブタイトル：家族と結婚の人類学

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：国際関係研究VII

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは「夫婦」「親子」「血縁」「性別役割」などの概念を自明視しがちですが、これらは社会や時代によって多様な形をとってきました。本授業では、文化人類学の理論や民族誌的事例を通して、世界各地の多様な親族体系、婚姻形態、生殖技術、そしてケアのネットワークを概観します。血のつながりとは何か、家族を定義するのは何かという問いを通じ、現代社会における家族の変容（非婚化、共同養育、LGBTQ+の家族形成など）を相対化し、批判的に考察する力を養うことを目的とします。

【到達目標】

- ・文化人類学、とくに家族と結婚に関する基本的な理論や概念を習得する。
- ・ものごとを幅広い視野から捉えることによって得られる他者理解の洞察力に身に付ける。
- ・世界の多様な人間の在り方を学び、結婚・親子・家族とは何かについて相対的な視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
- ・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第2回	家族と親族①	核家族は普遍的か？
第3回	家族と親族②	生物学的父と法的父という考え方
第4回	家族と親族③	親子の絆とは何か
第5回	性と婚姻①	生殖技術と現代社会
第6回	性と婚姻②	LGBTQ+の家族形成と選ばれる家族
第7回	中間テスト	第2回～第6回の内容の理解度テストと解説
第8回	婚姻をめぐる社会関係①	インセストタブーと交換
第9回	婚姻をめぐる社会関係②	体系的な親族組織
第10回	婚姻の諸形態①	一夫多妻、一妻多夫、通い婚
第11回	婚姻の諸形態②	結納、婚資、持参金
第12回	血縁を超えた関係①	擬制的親族関係
第13回	血縁を超えた関係②	ケアと共同性

第14回 期末テストと総括 第8回～第13回の内容の理解度テストと解説、全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で紹介する文化人類学や社会人類学の関連文献を読み、授業の理解を深める。
- ・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト:25%、期末テスト:25%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:50%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムや動画閲覧サービス等を利用します。

【その他の重要事項】

- ・本授業では授業コメント（リアクションペーパー）の提出を課しますが、生成AIツールは使用しないでください。
- ・初回授業において教室定員の都合で着席できなかった学生がいた場合は、当該学生に対してオンデマンドで授業資料を後日提供します。なお、第2回以降は教室を変更する予定です。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。
- ・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は授業内もしくは学習支援システムで周知します。
- ・本学では成績評価におけるSの割合を受講者の20%以内を目安とすることを定めており（ただし少人数授業等を除く）、本授業でもこれに従って評価を行います。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course covers the basics of social and cultural anthropology, which seeks to understand social and cultural diversity around the world. We focus especially on parent-child relationships, kinship, and marriage to understand social relations that connect people in everyday life.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand the contemporary meaning of kinship and social relations from an anthropological perspective.

【Learning Activities Outside of the Classroom】

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours studying the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be based on mid- and final examinations (25% each) and in-class contributions (50%).

SOC200HA（社会学 / Sociology 200）

現代社会論Ⅱ

島袋 海理

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代社会における重要なトピックである、ジェンダー／セクシュアリティに関する問題を扱う。ジェンダー／セクシュアリティの視点は、現代社会における日常生活の出来事からマクロな社会問題まで、幅広い課題を考えるツールとなる。本授業では、ジェンダーのみならずセクシュアリティ（第4回）、また性的マイノリティ（第3-5回）についても紹介する。また、生物学（第6回）や教育社会学（第8-10回）、家族社会学（第13回）など、ジェンダー／セクシュアリティをめぐる問題が多様な学問領域を背景にして成立し、時には学問の垣根を越えて展開されてきたことを紹介する。さらに、ジェンダーの関わる問題は日常生活の様々な場面において現れることを示すために、（学校）教育（第8-9回）、大学（第10回）、労働（第11-12回）、結婚・出産（第13回）といった、多くの人々の人生に関わる問題について、ジェンダー／セクシュアリティの観点から考えていく。

【到達目標】

- ①現代社会をジェンダー／セクシュアリティの観点から捉えることができる
- ②現代社会におけるジェンダー／セクシュアリティ問題の射程の広さや議論・立場の多様さを理解する
- ③ジェンダー／セクシュアリティが関わる問題を自分事として考えることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式（対面またはオンライン）を採用する。

第1回目はオリエンテーションとして、授業の目標と内容、計画等を詳述する。

第2回目以降は、以下のように進める。

- (1)前回の授業のコメントシートの内容を取り上げ、前回の復習を行う（10-20分）
- (2)担当教員から、当該授業回のテーマについてレクチャーを行う（60-70分）
- (3)当該授業の内容に関する小課題を提示し、提出する（20分）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の概要、講義の進め方
第2回	ジェンダーの定義①	<分類>としてのジェンダー、フェミニズム【教科書ははじめに・1章】
第3回	ジェンダーの定義②	インターセックス／性分化疾患、アイデンティティ【教科書2章】
第4回	ジェンダーとセクシュアリティ①	トランスジェンダー、ジェンダー・マイノリティ【教科書3章】
第5回	ジェンダーとセクシュアリティ②	同性愛者・両性愛者、セクシュアル・マイノリティ【教科書4章】
第6回	生物学とジェンダー／セクシュアリティ	性差と性役割、生物学のジェンダー的偏見【教科書5・6章】

第7回	前半のまとめ、中間試験	前半で扱った内容について問う試験と解説
第8回	教育学とジェンダー	進路の性差、学校文化とジェンダー【教科書7章】
第9回	教育学とセクシュアリティ	青少年の性行動、性教育と家族・国家【教科書8章】
第10回	性暴力／ハラスメントと大学	被害者と加害者の視点、セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント【教科書9・10章】
第11回	仕事とジェンダー	「女性優遇」、男女間の賃金格差【教科書11章】
第12回	仕事とセクシュアリティ	性別役割分業、マタニティ・ハラスメント【教科書12章】
第13回	結婚・出産とジェンダー／セクシュアリティ	母性愛神話、リプロダクティブ・ヘルス&ライツ【教科書13章】
第14回	後半のまとめ、期末試験	後半で扱った内容を中心に問う試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、次回授業のテーマが扱われている教科書の章を事前に講読し、授業テーマについて予習することが求められる（1時間）。本講義は教科書の予習を必須としているため、教科書の事前講読がない場合、授業についていけなくなる可能性がある。また、担当教員が指定するテーマやキーワードについて調べたり、近年起こった事件について調べてもらったりすることが求められる（1時間）。復習としては、授業で取り上げた内容についての振り返りが必要である（1時間）。さらに、教科書や授業内で紹介した参考書を講読することを通じて、当該テーマについて考える時間が必要である（1時間）。参考書に関するレポートの提出が成績評価にも含まれる。

【テキスト（教科書）】

加藤秀一『はじめてのジェンダー論 改訂版』有斐閣、2025年 [ISBN: 9784641151413]

※2017年に出ている初版 [ISBN: 9784641150393]ではなく、2025年の改訂版を使用する。

※本講義は予習必須である。受講生は第2回目以降の授業に臨むにあたって、事前に教科書の指定された範囲を講読する必要がある。講義では教科書の内容についても触れるが、教科書を講読したことを前提に発展的な内容を扱うため、予習をしなければ授業についていけなくなる可能性がある。

【参考書】

<新書>

大越愛子『フェミニズム入門』筑摩書房、1996年 [ISBN: 4480056629]

若桑みどり『お姫様とジェンダー：アニメで学ぶ男と女のジェンダー学入門』筑摩書房、2003年 [ISBN: 9784480061157]

荻野美穂『女のからだ：フェミニズム以後』岩波書店、2014年 [ISBN: 9784004314769]

森山至貴『LGBTを読みとく：クィア・スタディーズ入門』筑摩書房、2017年 [ISBN: 9784480069436]

清水晶子『フェミニズムって何ですか？』文藝春秋、2022年 [ISBN: 9784166613618]

周司あきら・高井ゆと里『トランスジェンダー入門』集英社、2023 [ISBN: 9784087212747]

デボラ・キャメロン『はじめてのフェミニズム』筑摩書房、2023年 [ISBN: 9784480684622]

<入門書・教科書>

加藤秀一『知らないと恥ずかしいジェンダー入門』朝日新聞出版、2006年 [ISBN: 9784023303737]

千田有紀・中西祐子・青山薫『ジェンダー論をつかむ』有斐閣、2013年 [ISBN: 9784641177161]

風間孝・河口和也・守如子・赤枝香奈子『教養のためのセクシュアリティ・スタディーズ』法律文化社、2018年 [ISBN: 9784589039705]

石田仁『はじめて学ぶLGBT：基礎からトレンドまで』ナツメ社、2019年 [ISBN: 9784816365829]

新ヶ江章友『クィア・アクティビズム：はじめて学ぶクィア・スタディーズ』花伝社、2022年 [ISBN: 9784763420022]

三橋順子『これからの時代を生き抜くためのジェンダー&セクシュアリティ論入門』辰巳出版、2023年 [ISBN: 9784777829484]

池田緑『ジェンダーの考え方：権力とポジショナリティから考える入門書』青弓社、2024年 [ISBN: 9784787235497]

守如子・前川直哉編著『基礎ゼミ ジェンダー・スタディーズ』世界思想社、2025年[ISBN: 9784790717997]
上掲以外の参考文献については、適宜授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパー・小課題の内容：30%

＊コメントペーパーは、毎回の授業内容に関する小課題が含まれる。
＊①小課題の内容を理解した上で記述できているか、②授業で紹介した基本概念や語句を援用して説明できているか、③自分と身近な問題と関連して記述できているか、という3つの観点から評価する。

レポート課題：20%

＊教科書で紹介されている参考文献、あるいは授業中で紹介される参考文献を講読したうえで、その文献に関するレポートを課す。

＊レポートでは、①授業で学んだ内容と選定した文献の関連、②文献から学んだ重要なポイント、③文献から得られた知識や視点を応用して、現代社会における問題に対する論評、の3つの内容が含まれる必要がある。

筆記試験：中間20%、期末30%

＊概念や語句を問う問題と、論述問題で構成される。

＊①授業で紹介した基本概念や語句の意味を理解しているか、②設問の意図を理解したうえで論述できているか、③ジェンダー／セクシュアリティの観点を援用して論述できているか、という3つの観点から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2回目以降の授業の冒頭にて、前回の授業で提出されたコメントシートへのフィードバックを行い、受講生との対話の機会を確保する。
上掲機会とは別に、受講生から授業に対する肯定的・否定的フィードバックを定期的に求める。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインに接続可能なデバイス（パソコン、スマートフォン、タブレット端末等）：出欠をオンラインで確認するため（ただし、やむを得ない事情に応じて、紙による提出も認める）。

【その他の重要事項】

・本授業では、教科書の予習を求める。授業は教科書を読んでいることを前提に発展的な内容を取り扱うため、読まずに参加した場合、授業についていけなくなる可能性が高い。

・授業ではからかいやいじめ、差別や暴力、性的な描写や話題について扱うことがある。そうした際は事前に告知するが、授業の途中で居心地が悪くなったりいたたまれなくなった場合、また気分が悪くなった場合には、担当教員の許可なしに離席しても構わない。その他、配慮を求める場合は遠慮なく申し出て欲しい。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course will address issues related to gender/sexuality, an important topic in contemporary society. By acquiring a perspective on gender/sexuality, students will acquire the tools to think about a wide range of issues in contemporary society, from everyday life events to macro social problems.

Learning Objectivities: (1) View contemporary society from the perspective of gender/sexuality, (2) understand the wide scope of gender/sexuality issues in contemporary society, and (3) consider issues related to gender/sexuality as one's own personal matter

Learning Activities outside of Classroom: Students are required to read the relevant textbook chapter before class. After class, they are expected to read suggested references and explore articles related to the class theme.

Grading Criteria/Policy: Comment Papers and Short Assignments (30%), Short Report (20%), Written Exams (50%): Midterm (20%) and Final (30%)

SSS300HA（社会・安全システム科学 / Social/Safety system science 300）

災害政策論

川副 早央里

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環17：口

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

災害はどの地域においても、誰にでも起こりえることです。大規模な災害が起こると、地域社会が大きな打撃を受け、急激な地域変容が生じます。そこで暮らしていた人びとは、生命、仕事、財産、家族や友人関係、自然環境などさまざまなものを失う経験をします。災害は平常時の社会のあり方や構造を露わにします。災害時に発生するこうした諸問題を理解するときには、災害前から社会に潜んでいた問題に着目する視点が求められます。

本講義では、地域社会やそこで暮らす人々の視点から災害と地域復興を捉え、いくつかのテーマと実際の事例から、災害政策が形成されてきた背景やプロセス、残された課題について検討し、私たちが生きる社会について改めて考えたいと思います。東日本大震災のほか、一部海外の事例も取り上げます。

【到達目標】

- (1) 災害復興のリアリティに触れ、災害時の社会状況についての想像力を養う。
- (2) 「災害」「復興」の概念を理解し、災害時に生じる諸課題の背後にある社会構造を学ぶ。
- (3) 災害時の政策が形成された背景、経緯、残された課題を理解する。
- (4) 災害を日常の延長にあるものとして捉え、災害という切り口から日常生活や地域社会の在り方を見直す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を基本としますが、できるだけ多くのグループディスカッションを行いたいと考えています。また、さまざまなドキュメント資料や映像資料を活用して、できるだけ被災地域および被災者の置かれた実状に触れ、災害と復興について考えたいと思います。毎回の授業後にリアクションペーパーを提出してもらいます。次の授業の冒頭にその内容を振り返り、問題意識を共有し補足説明も行いながら、災害に関する理解を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的や進め方を確認する。
第2回	災害とは何か	災害とは何かについて、理論的枠組みや概念を解説する。
第3回	避難（1）：緊急避難	災害発生から避難に至る過程と課題を学ぶ。
第4回	避難（2）：広域的長期的避難	長く広域に避難した被災者の生活実態と課題を学ぶ。
第5回	地域コミュニティの変容（1）：分断と喪失	災害後のコミュニティの分断や喪失の実態を学ぶ。
第6回	地域コミュニティの変容（2）：再編と創造	災害後のコミュニティの再編や創造の実態を学ぶ。

第7回	被災地・被災者支援（1）：支援の実際	被災地および被災者の復興における支援の実際と課題を学ぶ。
第8回	被災地・被災者支援（2）：多様な支援	多様な支援の事例を紹介し、被災地・被災者復興に求められる支援について検討する。
第9回	災害とジェンダー・多様性（1）：災害時のジェンダー課題	災害時のジェンダー課題への対応の実際と課題を学ぶ。
第10回	災害とジェンダー・多様性（2）：災害時の多様性配慮	災害時に求められる多様性への配慮について学び、議論する。
第11回	復興とは何か（1）	復興とは何かについて、理論的枠組みや概念を解説する。
第12回	復興とは何か（2）	復興の事例を紹介し、実際の復興状況と課題を検討する。
第13回	授業内試験	授業内試験を行う
第14回	試験の講評と補論	試験に関する講評と授業全体の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・適宜授業のなかで関連する参考文献や資料を紹介するので、事前に学習してから受講すること（60分程度）。
- ・授業中に配布するレジュメと自身のメモ・ノートをもとに復習し、リアクションペーパーの提出により学習内容や自分の考えを整理するとともに、理解できていない部分を確認すること（40分程度）。
- ・各回の授業に関する課題として、授業内で扱った知識や概念を応用させた課題に取り組み、授業内容の理解を深めること（90分程度）

【テキスト（教科書）】

授業で使用する資料は、授業前にWebClassに掲載する。

予習・復習については、配布資料を使って学習するほか、授業内で紹介する参考書や各種情報を参照すること。

【参考書】

大矢根淳ほか（2007）『災害社会学入門（シリーズ災害と社会）』弘文堂。

その他は授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（リアクションペーパーおよび授業への参加度）：60%
 - ・授業内期末試験：40%
- ＊期末試験未受験の場合には成績評価の対象とはなりません。

【学生の意見等からの気づき】

本授業では、履修生の理解度を確認しながら授業を進めていく。具体的には、学生同士のディスカッションやリアクションペーパーの提出を通じて、意見を共有するほか、質問への回答や補足説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用するPDF資料は、事前にWebclass上に掲載します。紙資料は配布しないので、必要に応じてPCやタブレットを持参して受講してください。

【Outline (in English)】

Disasters can strike anywhere and affect anyone. When a large-scale disaster occurs, local communities suffer significant damage and undergo rapid transformation. People living there experience the loss of life, livelihoods, property, family and friends, and the natural environment. Disasters lay bare the nature and structure of society during normal times. Understanding the problems that emerge during disasters requires a perspective that focuses on issues latent within society before the disaster struck. This lecture will examine disasters and regional recovery from the perspective of local communities and their residents. Through several themes and real-world case studies, we will explore the background and processes behind the formation of disaster policies, the challenges that remain, and rethink the society in which we live. In addition to the Great East Japan Earthquake, we will also cover some international examples.

PSY300MA (心理学 / Psychology 300)

産業・組織心理学Ⅱ

今城 志保

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：金1/Fri.1 | 配当年次：2025年度以降入学者：3～4
 2024年度以前入学者：2～4年
 備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
 授業コード：C5110
 科目名：産業・組織心理学Ⅱ
 ＜2024年度以前入学者＞
 授業コード：C5110
 科目名：産業・組織心理学Ⅱ
 ※入学年度によらず同一授業コード・科目名称
 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業・組織心理学Ⅰに続き、産業・組織心理学の主要なトピックスについて学んでいきます。産業・組織心理学Ⅱでは、特にキャリアに関連する領域、ならびに産業・組織心理学と隣接する人材マネジメントにフォーカスをあてます。組織は働き手の思いと雇用側の思いが時には調和し、時には対立するフィールドです。そこではどのようなことが問題となるのか見ていきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の3点です。

- (1) 産業・組織心理学の主要な概念を理解し、それらを用いて組織の諸問題を考えられるようになること
- (2) 組織の様々な取り組みが、個人に対して与える影響について理解できるようになること
- (3) 自らのキャリアを考える上で、学んだ概念を用いることができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行われます。授業の中で、オンラインのアンケートフォームを用いて、概念の確認や自分の考えを深めるために、数項目の質問に回答していただきます。回答内容については、適宜次の授業の中で、フィードバックを行います。また、アンケートフォームでは任意の質問を記入できますので、そこに質問が記入された場合は、翌授業回の冒頭に、全体に対して回答を行います。7回目か8回目の授業で、グループ課題をお知らせします。グループ課題は、原則授業外の時間を使って進めていただきます。最終日に、グループ課題をまとめたレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業オリエンテーション	授業の概要ならびに進め方について紹介します。
第2回	キャリアを理解する①	キャリアに関する主な理論を学びます
第3回	キャリアを理解する②	日本企業のホワイトカラーのこれまでの典型的なキャリアと今後の可能性について考えます
第4回	組織風土を理解する①	組織風土と組織文化について紹介します
第5回	組織風土を理解する②	昨今関心が高まる心理的安全性について紹介します
第6回	ダイバーシティ①	ダイバーシティに関する理論や研究知見を紹介いたします

第7回	ダイバーシティ②	比較文化心理学の知見を用いて、文化の異なる人とともに働くことについて考えます
第8回	ダイバーシティ③	女性のキャリアについて考えます
第9回	ダイバーシティ④	高齢者就労について考えます
第10回	職場の学習・職場以外の学習①	大人の学びについて考えます
第11回	職場の学習・職場以外の学習②	企業における研修や能力開発について、紹介します
第12回	職場の学習・職場以外の学習③	経験学習について考えます
第13回	予備	上記の授業での積み残しや遅れを回収するための時間にあてます
第14回	グループ課題の発表	各グループから口頭で、グループ課題について、報告していただきます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私達のキャリアを取り巻く環境に興味を持ちましょう。キャリアや「働く」こと、「人事管理」「人材マネジメント」に関する新聞記事・雑誌記事等に広く目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません

【参考書】

金井壽宏 働くひとのためのキャリア・デザイン 2002年 PHP新書
 守島基博 人材マネジメント入門 2004年 日経文庫
 外島 裕・田中 堅一郎 産業・組織心理学エッセンシャルズ 2019
 ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業中のアンケートで60％、グループ課題で作成したレポートとその発表の評価を40％とします。なお、グループ課題については、自身と他のメンバーの課題への貢献度合いを申告してもらい、それを加味したうえで、グループ課題の評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【Outline (in English)】

Students will study major topics in industrial/organizational psychology. Psychology II will focus specifically on career-related areas and human resource management.

The three objectives of this class are as follows.

- (1) To understand the main concepts of industrial/organizational psychology and to be able to think about various organizational problems using these concepts.
- (2) To be able to understand the impact of various HR practices on employees.
- (3) To be able to use the concepts learned in considering one's own career.

Take an interest in the environment surrounding our careers. Read widely newspaper and magazine articles on careers, "working," and "human resource management." Standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

The evaluation will be based on a questionnaire given in each class (60%) and a report and presentation on a group assignment (40%). For group assignments, I will ask each student to report the degree of their own and other members' contribution to the assignment, which will be taken into account in the evaluation of the group assignment.

MAN300MA（経営学 / Management 300）

キャリア開発論

高崎 美佐

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：月1/Mon.1 | 配当年次：2025年度以降入学者：3
 ～4 2024年度以前入学者：2～4年
 備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
 授業コード：C5111
 科目名：キャリア開発論
 ＜2024年度以前入学者＞
 授業コード：C5111
 科目名：キャリア開発論
 ※入学年度によらず同一授業コード・科目名称
 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、キャリアに関する理論の基礎を学びつつ、企業側の人材開発（HRD）や人事管理のメカニズムの中で、個人のキャリアがどのように開発・形成されるのかを考えます。「会社に入れば一生安泰」という時代は終わり、「人生100年」となり、働く期間は長期化しています。そういった環境の変化の中で、従来のように組織にキャリアをゆだねるだけでなく、自律的にキャリアを形成していくことが求められるようになってきています。本講義では、個人のキャリアという視点だけでなく、社会や雇用の仕組みとともに学ぶことで、より実態に即したキャリア開発の視点を身に付けることを目指します。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の3点です。

- ①キャリアに関する基礎的な理論や知識の習得し、働くことと関連させて考えられる
- ②個人のキャリア開発においての日本型雇用システムのメリットとデメリットを説明できる
- ③個人のキャリア開発に関する課題を発見し、それをマネジメントし解決する方法がわかる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、ビジネスキャリア開発関連した理論等の概説や講義を中心に進めますが、ディスカッションや発表も取り入れることがあります。授業中にミニレポートを書いていただく等によって出席確認をします。ミニレポートの内容は、授業中などに全体に対してフィードバックすることがあります。使用する資料等は、「学習支援システム」において事前に提供します。授業に出席する際には、事前に目を通し、必要に応じてご自身で準備をお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、オリエンテーション。 キャリア開発と人材開発	講義の進め方と評価方法を理解する。キャリア開発と人材開発の違いを学ぶ。（テキスト第1章）
第2回	キャリア開発に関する理論	主要なキャリア理論を学ぶ。（テキスト第1章）

第3回	日本型雇用と個人のキャリア	日本型雇用の特徴を把握し、個人のキャリア開発への影響を考える。キャリア開発の主体についての考え方を整理する。（テキスト第2・3章）
第4回	キャリア自律	キャリア自律の考え方について学び、支える仕組みについて知る。（テキスト第4章）
第5回	大学から社会への移行	大学までの学びと就職後のキャリア形成について学ぶ
第6回	ライフイベントとキャリア	結婚・出産等の転機と、キャリア継続の課題を整理する（テキスト第8章）
第7回	仕事と生活の両立とキャリア	仕事と生活の両立によってキャリア継続を支える法制度や、企業の具体的な支援策を理解する。（テキスト第9・10章）
第8回	ワーク・ライフ・バランスと働き方改革	ワークキャリアとライフキャリアの調和の問題、働き方改革の現状や課題について考える。（テキスト第7章）
第9回	多様な人材を活かす	多様な人材を活かす、ダイバーシティ経営について学ぶ。（テキスト第5章）
第10回	正社員の多元化とそのキャリア	正社員の働き方の現状、限定正社員等多元化の動向、勤務地政策の現状について学ぶ。（テキスト第9章）
第11回	非正規労働者のキャリア開発	パート、派遣などの非正規労働者のキャリア開発の現状と課題を知る。（テキスト第11章）
第12回	管理職と専門職	組織内での昇進や、専門性を追求するキャリアの存在とその違いを理解する。
第13回	職場の問題への対処	ブラック企業、ハラスメントなど職場の問題への対処について知る（テキスト第12章）
第14回	総括	講義の総括、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。事前にテキスト（教科書）や資料に目を通して授業に臨んでください。また、キャリア開発に関する企業事例やトピックスの収集も行ってください。

【テキスト（教科書）】

教科書は、武石恵美子『キャリア開発論－自律性と多様性に向き合う（第2版）』（中央経済社）です。テキストを参照しながら授業を進めます。

【参考書】

それぞれの授業で取り上げるテーマに関連して、適宜参考文献を紹介します。関心のあるテーマがあれば、是非読んでください。

【成績評価の方法と基準】

評価は、期末試験結果60％と、平常点（授業への主体的な参加、ミニレポート等の提出やその内容）40％で行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】なし

【その他の重要事項】

各回の内容は、進捗状況などに応じて、変更・調整する可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is intended that students understand how a personal business carrier is developed under the structural change of the economic society and the employment system. Students will learn how the circumstances surrounding careers are changing amid changes in the economy and society. This course covers such topics as career self-reliance, the diversity management, and work/life balance.

【Learning Objectives】 The learning objectives for this course are as follows:

- ① Acquire fundamental theories and knowledge about careers and be able to relate them to working life
- ② Explain the advantages and disadvantages of the Japanese employment system in the context of individual career development
- ③ Identify challenges in individual career development and understand methods to manage and resolve them

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process

Term-end examination(60%) and in-class contribution(40%).

MAN200MA（経営学 / Management 200）

就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合-

上西 充子、梅崎 修

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火4/Tue.4 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5298

科目名：就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合-

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5298

科目名：就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合-

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、連合（日本労働組合総連合会）と教育文化協会が主催する寄付講座です。毎回、職場の最前線で活躍するユニオン(労働組合) リーダーをゲスト講師としてお招きし、働くことに伴う様々な課題や課題解決のための労働組合の活動などについて、働く側の目線で事例を交えながら講義していただき、受講者からの質疑により理解を深めます。

講義は、働く意味を見つけること、働く環境や労働条件をより良くすること、職場の仲間を作っていくことなど、具体的な企業情報や業界情報を交えながら行います。変動する職場環境の中で、働く人たちのキャリアデザインも揺らいでいます。その中で働く人々はどのような困難を抱え、労働組合はどのような役割を果たしているのでしょうか。様々な立場にある労働組合関係者のお話を聞きながら、一緒に考えていきます。

学生の間に、働く現場のリアルで最新の情報を聞けるのはとても貴重な機会です。

【到達目標】

働く現場の変化や、安心して働く上での問題について、深く理解している。
企業や業界の実務知識や労働法制、社会的支援などの知識を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、ゲスト講師に自らの経験に基づいて講義していただき、その後質疑応答を行います。質疑にあたっては、適宜、グループワークを取り入れる予定です。

授業の進め方やレポートに関する説明は第1回目の授業で行いますので、受講を考えている学生は、第1回目授業を必ず受講してください。

ゲスト講師からは、労働組合の活動について説明していただくだけでなく、様々な業界や企業の最新の情報についても講義してもらいます。学生からの主体的な参加により理解が深まりますので、積極的に質問などをしてください。なお、ゲスト講師との調整により、計画に変更が生じる可能性がありますので、定期的に学習支援システムで予定を確認してください。

授業で使用する資料等は、学習支援システムにおいて、受講登録者に当該授業の前に提供します。資料内容を確認し、資料を準備して授業を受講してください。各回の授業では質問の時間を多めに確保しますので、積極的に質問をおこなってください。そのことが、皆さんの疑問や問題意識に対するフィードバックとなり、また、毎回のゲスト講師の方の論点の深掘りにも寄与することとなります。なお、若手組合員とのグループディスカッションも可能な範囲で組み込む予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	【オリエンテーション】 労働組合とは何か	担当教員から授業の導入を行い、「労働組合とは何か」を理解する
第2回	【開講の辞】 連合寄付講座で法政大学の皆さんに学んでほしいこと 【課題提起】 「働くこと」について考える～労働組合の役割と意義～	【開講の辞】 連合寄付講座の開講の趣旨を伝えることで、本講座を通じて学んでほしいことは何かを理解してもらう。 【課題提起】 「働くこと」について考えてもらうとともに、労働者を取り巻く現状と課題を明確化する。また、労働組合の役割や意義について学び、労働組合がめざす社会のイメージを掴んでもらう。 (2025年度ゲストは教育文化協会)
第3回	【ケーススタディ①】 労働時間の短縮に向けた取り組み	働く者が健康で安心して暮らすために、労働組合はどのように取り組んでいるのか。長時間労働の是正や休暇取得の促進など、労働時間の短縮に向けた取り組み事例を聴き、理解してもらう。近年導入の進んでいるテレワークに関する事例にも触れてもらう。(2025年度ゲストは生保労連)
第4回	【ケーススタディ②】 公務労働の現状と公共サービスの役割	「安定した職場」と言われる公務員の働き方の現状はどうなっているのか。公務職場の現状・課題と良質な公共サービス（新しい公共）の実現に向けた公務労組の取り組み事例を聴き、理解してもらう。(2025年度ゲストは伊藤ハム米久労働組合)
第5回	【ケーススタディ③】 非正規雇用労働者の組織化と処遇改善に向けた取り組み	なぜ、非正規雇用労働者の組織化や処遇改善が必要なのか。企業別労組における非正規雇用労働者の労働組合加入および正規雇用労働者との処遇格差は正に向けた取り組み事例を聴き、考えてもらう。 (2025年度ゲストは自治労)
第6回	【ケーススタディ④】 デジタル化の進展に伴う課題と労働組合の役割	AI技術やDXの進展に伴う働き者への影響と、それに対して労働組合ではどのような対応が行われているのかを聞き、デジタル化が進展する中で働くということについて考えてもらう。 (2025年度ゲストはKDDI労働組合)
第7回	【ケーススタディ⑤】 男女がともに働きやすい職場づくりに向けた取り組み	男女がともに生き活きと働き続けるための課題や具体策とは何か。職場の環境改善や当該課題の解決に取り組む労働組合役員から話を聴き、考えてもらう。 (2025年度ゲストは全労金)

第8回	【ケーススタディ⑥】 雇用と生活を守る取り組み	技術革新やグローバル化が進む中、労働組合はどのように働く者の雇用と生活を守るのか。サブライヤーを多く抱える中小企業労組が働く者の労働条件改善に向けてどのような取り組みを実施しているのか、事例を聞き、理解してもらう。 またJAMで働く若手職員とのグループディスカッションを通じて、現場の実態について理解を深める。(2025年度ゲストはJAM。若手職員を含めたグループディスカッションあり)。
第9回	【課題への対応①】 いま働く現場で何が起きているのか ～労働相談からみた若者雇用の現状～	若者に関わる労働相談事例等からいま職場で起きている問題を身近なものとして捉えてもらうとともに、それらの解決に向けた労働組合の役割とワークルールの重要性について理解してもらう。(2025年度ゲストは連合総合組織局)
第10回	【課題への対応②】 働諸条件の維持・向上に向けた取り組み	労働組合は、働く者の労働条件の維持・向上に向けて、どのように取り組んでいるのか。なかでも代表的な取り組みとして挙げられる「春闘」は、なぜ同時期に全国一斉に行うのか。連合の取り組みを聞き、学生に理解してもらう。(2025年度ゲストは連合 労働条件・中小地域対策局)
第11回	【課題への対応③】 あらゆるハラスメントの根絶に向けた労働組合の取り組み	セクハラ・パワハラをはじめとするあらゆるハラスメントは人権をも脅かす重大な問題であり、誰もがいきいきと働き続けられる社会の実現に向けてはあらゆるハラスメントの根絶が必要不可欠である。あらゆるハラスメントの根絶に向けて労働組合がどのような取り組みを実施しているのか、連合もしくは産別の取り組みを聞き、その重要性を理解してもらう。(2025年度ゲストは連合 ジェンダー平等・多様性推進局)
第12回	【課題への対応④】 国際労働運動の役割 ～グローバリゼーションへの対応～	進行するグローバリゼーションに労働組合はどのように対応しているのか。国際労働機関の役割や、多国籍企業問題に対する取り組み、国内だけでは解決できない課題に対する労働組合の国際的な役割・取り組みについて考えてもらう。(2025年度ゲストはITUC)
第13回	【修了講義】 連合運動の現在と未来 ～これから社会へ出る皆さんへ～	すべての働く者が安心して働くことができる社会の実現に向けて、連合・労働組合は何をすべきか。連合の課題認識を聴いて、これからの社会や働き方、連合運動の役割について具体的に考えてもらう。(2025年度ゲストは連合事務局)
第14回	【論点整理】 「働くということ」と労働組合	担当教員が、ケーススタディー「働くということ」と労働組合の役割の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回授業時に全14回の講義概要を配布します。それをもとに、会社、業界、労働組合について下調べをしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業内で随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（コメント内容含む）が50％、レポートが50％。
毎回の授業への積極的な参加を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

労働用語、組合関連用語も随時説明していきます。

【その他の重要事項】

授業の予定はゲスト講師との調整により、テーマ内容の変更や順番の入れ替え等が発生する可能性があります。大きな変更は予定していませんが、最初の授業で詳細な予定を提示しますのでご了承ください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class is a donation course sponsored by the Union (Japan Trade Union Confederation) and the Education and Culture Association.

Each time, we invite labor union officials who are active on the front lines of the workplace as guest lecturers to give lectures on the activities of the labor union with examples.

Lectures will be given with company information and industry information, such as finding the meaning of work, improving the working environment and working conditions, and making colleagues in the workplace.

In the changing work environment, the career design of workers is also shaking. What difficulties do the people working in it have, and what role does the union play? We will think together while listening to the stories of labor union officials from various positions.

【Learning Objectives】

Students are expected to understand deeply the changes in the workplace and the issues involved in working in a safe and secure environment.

They are also expected to acquire practical knowledge of companies and industries, labor laws, and social support.

【Learning activities outside of classroom】

A total of 14 lecture outlines will be distributed at the time of the first class. Use it to do some preliminary research on companies, industries, and trade unions.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

In-class contributions (including comments): 50%

Term-end report: 50%.

CAR300MA（キャリア教育 / Career education 300）

就業応用力養成 I

鈴木 美伸

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：3～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5299

科目名：就業応用力養成 I

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5299

科目名：就業応用力養成 I

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学後期は社会へのトランジション（移行）期であり、大学で修得すべき必須の知見（アカデミックスキル）を確認し、社会への応用力に発展させる時期です。

この授業では、様々な産業の企業事例のビデオ教材、社会人ゲストの講話、ビジネス事例・統計等を題材に、社会課題の発見とそれに取り組むための実践知の理解・修得・発揮を目指します。

企業や社会人から持ち込まれたキャリアではなく、どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、それが『大学生のキャリア』であり、それこそが社会でも立派に通用する、就業応用力の養成です。

※「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。

つまり、就職力は就業応用力の一部（発揮）ともいえます。

【到達目標】

修得すべき7つのチカラ

1. 社会常識・ビジネスマナー・コンプライアンス
⇒組織を効率よく運営参画するスキル
⇒社会規範となる倫理観
2. 他者を説得できるロジカルシンキング
⇒データの収集（質問票調査）を行う定量調査スキル
⇒フィールドワークによる定性調査スキル
⇒定量・定性データの分析技術による論理的な提案作成力
3. 他者を動かすコミュニケーション力
⇒共感・質問・提言する個別対人スキル
⇒カウンセリング・コーチング・コンサルティング
4. 組織を動かすコミュニケーション力
⇒社会人（企業）に対して説得的な提言（プレゼンテーション力）
⇒チームビルディングとイノベーション（ファシリテーション力）
5. 組織を活性化するリーダーシップ
⇒モチベーション・マネジメント
⇒4つの状況対応型リーダーシップ
6. 社会で未知の道を拓くチカラ
⇒キャリアモデルの発見（文献調査、フィールドワーク等）
⇒自分自身の20代のキャリアプランの作成
7. 社会を生き抜くための実践知
⇒暗黙知（体験）を形式知（言語）化するメタ認知能力
⇒メタ認知を社会の中で発揮するベタ認知能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。

PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。

履修人数によりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（レポート&プレゼンテーション）を行います。

公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。

授業では毎回提出のリアクションペーパーを、次回授業でフィードバックします。

※受講者の学習進捗状況とゲスト講師の都合で、授業順が変更になることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大学とは何か 大学で学ぶべきアカデミックスキルの理解 大学を使い倒す	大学の歴史と構造 ・各学部のアイデンティティ ・就業力とは ・学生と企業の認識差 ・社会で求められる力
第2回	大学と企業のミスマッチ研究 社会の求める人材とは メタ認知とパラ認知の理解	グループディスカッション ・データの見方 ・討議の手法 ・ブレインストーミング
第3回	ロジカルシンキング・ライティング・プレゼンテーション 企業採用選考を論理的に解析し、対処するためには	論理的な文章 ・作文と論文の違い ・ビジネス文書作成 ・エントリーシート解析
第4回	旅行業界事例研究 新入社員の課題と魅力 上司を動かす力とは	・ビジネスマナー ・報連相の重要点 ・トラブル対処力 ・顧客満足向上とは
第5回	ビジネス事例研究－1 半導体業界 世界を制した経営者	起業家精神 ・ベンチャー企業 ・株主重視経営 ・MBA
第6回	ビジネス事例研究－2 化学製品業界 世界企業と渡り合うには	大企業経営 ・グローバル企業経営 ・提案力の構造 ・世界で通用する力
第7回	社会人ケーススタディ－1 就社・就職・就場の時代 ホテル、出版業界 全ての経験をキャリアにするには	働き方の進化 ・大学と仕事の関係 ・企業と個人の関係 ・コンサルティング
第8回	食品関連業界事例研究 世界に通用するBtoB技術 知られざる世界の優良企業	企業進化論 ・百年企業 ・最先端技術力 ・ビジネスプレゼンテーション
第9回	文房具旅行用品業界事例研究 モノづくりの魅力 企業提案ワーク ショップ	中小企業経営 ・大企業との差別化 ・商品企画力 ・プレゼンテーション
第10回	プロジェクトベースラーニング（PBL）－1 企業からの課題提示	・市場調査 ・新商品開発（マーケティング） ・チーム別ワークショップ

第11回	社会人ケーススタディー2 20代のキャリア形成 副業・兼業・越境学習 コンサルティング業界とは	新しい就労形態 ・パラレルキャリア ・進路の意志決定 ・大学生活とビジネスの接続
第12回	プロジェクトベースラーニング（PB L）- 2 課題討議	授業協力企業からの課題 ・ビジネスマナー ・ヒアリングスキル ・課題発見力
第13回	金融業界事例研究 地方創生事業の実践 六次産業への挑戦	金融機関の底力 ・起業家行動の支援 ・全国ネットワークの活用 ・中小企業診断士の力
第14回	プロジェクトベースラーニング（PB L）- 3 課題発表	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。
＊事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。

但、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

- ・「大学とは何か」吉見俊哉（岩波新書）
- ・「論文・レポートの基本」石黒圭、日本実業出版社
- ・「大学生のためのレポート・論文の書き方」石井一成、ナツメ社
- ・「スマホ脳」アンデシュ・ハンセン（新潮新書）

【成績評価の方法と基準】

成績配点

- ・受講態度（発言数・発言内容）⇒ 30点
- ・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー）⇒ 30点
- ・授業期間中レポート⇒ 20点
- ・期末レポート⇒ 20点

総合評点が60点以上を合格とします。

（欠席が3回以上の者は成績評価対象外）

＊遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。

特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートへの書き方にも役立ったとのことです。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、学習支援システムを活用します。

レポート&プレゼンがあるので、ワードとパワーポイントは必須スキルです。

PCは大学貸出のもので大丈夫です。

【その他の重要事項】

法政大学のテーマである「実践知育成授業」を目指します。

＊ゲスト招聘者・企業は、先方の都合により変更になる場合があります。

＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

▼実務経験のある教員による授業

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The university latter period is a transition (shift) period to society and is the time to recognize the indispensable knowledge which should be acquired at a university (academic skills) and make application ability to society develop.

(Learning Objectives)

I aim at learning and a show of video teaching materials of various industrial enterprise cases, a talk of a member of society guest and practical wisdom to work on discovery and that of a social problem by using a business case and the statistics, etc. as a base material at this session.

(Learning Activities Outside of Classroom)

・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.

・ It is effective if you have a background in statistics and social research.

* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.

However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Grade score

- ・ Attendance attitude (number of remarks / content of remarks / contribution in group work) ⇒ 30 points
- ・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points
- ・ Report during class period ⇒ 20 points
- ・ Term-end report ⇒ 20 points

A passing score of 60 or higher is considered as a pass.

(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)

* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

CAR300MA（キャリア教育 / Career education 300）

就業応用力養成Ⅱ

鈴木 美伸

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：3～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5300

科目名：就業応用力養成Ⅱ

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5300

科目名：就業応用力養成Ⅱ

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：＜他＞＜優＞＜実＞＜未＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学びの集大成として「自由を生き抜く実践知」の発揮に取り組めます。

未知の社会課題を理解・分析し、提言する力を身につけます。同時にこれからの社会に必要な新しい働き方とライフスタイルを学びます。

アカデミックスキルの実践として、社会課題（特に人口少子化社会における社会変動への対処、大学が求められる変革能力）を抽出して具体的な提言を行います。

＊「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。

つまり、就職力は就業応用力の一部もしくは発揮といえます。

【到達目標】

どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、を就業応用力として考え、具体的に以下の8つの力を修得します。

1. 事実をベースに語る提言力（事実と意見を峻別する）
2. 3つの分析手法力（時間・空間・実験分析）
3. 知恵の生成プロセスを経た改革力（データから情報へ）
4. 問題解決の視点力（What? Why? How?）
5. 構造分析の要素考察力
6. マクロとミクロの視点を統合力（定量と定性調査力）
7. 一次情報に触れる取材力（但、百聞一見を盲信しない）
8. 上記のスキルを統合・応用する力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行います。

PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。

履修人数によりますが、グループワークを中心に、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション&レポート）を行います。

公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。

授業では毎回提出のリアクションペーパーを、次回授業でフィードバックします。

＊受講者の学習進捗状況とゲスト講師の都合で、授業順が変更になることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	アカデミックスキル 大学生で学べきチカラ 大学を使い倒すために	8つのアカデミックスキルの具体例と演習 ・大学生の就職活動をアカデミックスキルで分析する
第2回	社会で通用する高度なコミュニケーションスキル 共感・質問・提案	応談スキル ・カウンセリング ・コーチング ・コンサルティング
第3回	法政大学と実践知 自由を生き抜くとはどういう意味か？ 組織を動かすには（ビデオ教材使用）	実践知の学問別理解 ・哲学的理解 ・心理学的理解 ・経営学的理解
第4回	ライフスタイル研究－1 就社・就職・就場の時代 企業特殊能力から起業家へ	社会人講話と質疑応答 ・20代、30代、40代のキャリア形成 ・質問力 ・ファシリテーション力
第5回	21世紀の生き方へ ライフスタイル研究－2 パラレルキャリア 社会人の能力開発力 社会を楽しく生き抜くために	副業・兼業の現在 ・ワークライフバランス ・フリーランスの生き方 ・大学生の兼業とは
第6回	情報分析力グループワーク マスコミ情報の分析理解 ロジカルシンキング 情報に惑わされないために	新聞記事の分析 ・防衛費の分析 ・交通事故判例 ・サンクコストの理解
第7回	課題レポート&プレゼンテーション－1 学部固有の知見とは 法政と各学部のアイデンティティ	構造化レポートの書き方 ・因果律型エッセイ ・プレゼンテーションの構造 ・質疑応答手法
第8回	ライフスタイル研究－3 社会課題解決のキャリアモデル 夢を形にして社会課題に取り組んだ人々	実践知偉人伝 ・官僚のケース ・社会企業家のケース ・世界に誇れる日本人
第9回	マーケティングスキルによる構造分析 グローバルビジネス企画 語学力と提案力（ビデオ教材）	市場調査と企画力 ・定量定性調査の注意点 ・ブランド商品の販売例 ・卒論への応用
第10回	プロジェクトベースラーニング（PBL）－1 広告代理店の事例 大学をプロデュースするには	社会人講話 ・広告業界の現状 ・傾聴スキル ・課題発見力
第11回	プロジェクトベースラーニング（PBL）－2 学生目線が採用担当者を変える	社会人講話 ・企業人事部の課題 ・採用市場と戦略の分析 ・学生視点の問題提起
第12回	人生の3つのカーブ 文献・統計・フィールドワークのデータ	世代別の課題 ・J字カーブ（20代） ・M字カーブ（30代） ・X字カーブ（40代）

第13回	課題レポート&プレゼンテーション-2 法政大学の実践知とは	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評
第14回	授業総括 課題発表ふりかえり	アカデミックスキル確認 ・受講生講評・プレゼンテーション力 ・課題確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
- ・統計学や社会調査の素養があると有効です。

※春学期「就業応用力養成Ⅰ」の履修が望ましいですが、事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。

但し、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

- ・「大学とは何か」吉見俊哉（岩波新書）
- ・「リーダーシップの心理学」國分康孝、講談社新書
- ・「性格スキル」鶴光太郎 祥伝社新書
- ・「成功するプレゼンテーション」箱田忠明、日本経済新聞社
- ・「ファシリテーターの道具箱」森時彦、ダイヤモンド社
- ・「スマホ脳」アンデシュ・ハンセン（新潮新書）

【成績評価の方法と基準】

成績配点

- ・受講態度（発言数・発言内容）⇒30点
- ・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー）⇒30点
- ・グループワークでの貢献度⇒20点
- ・期末レポート⇒20点

総合評点が60点以上を合格とします。

（欠席が3回以上の者は成績評価対象外）

※遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。

特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートへの書き方にも役立つとのことでした。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、学習支援システムを活用します。

レポート&プレゼンがあるので、ワード、パワーポイントは必須スキルです。

大学用意のPCを理由すれば結構です。

【その他の重要事項】

法政大学のテーマである「実践知育成授業」を目指します。

※ゲスト招聘者・企業は、先方の都合により変更になる場合があります。

※全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

▼実務経験のある教員による授業

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

"Practical Wisdom for Freedom" Hosei University advocates which survives freedom is mastered at this session.

Everyone understands a social problem and learns new how to work and lifestyle necessary to future society through the practice which is analyzed and proposed.

(Learning Objectives)

I pick a social problem (the transformation ability from which handle to social change and a university in population low birthrate society are asked in particular) out and propose specifically as practice of an academic skills.

(Learning Activities Outside of Classroom)

・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.

・ It is effective if you have a background in statistics and social research.

* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.

However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Grade score

・ Attendance attitude (number of remarks / content of remarks) ⇒ 30 points

・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points

・ Contribution in group work ⇒ 20 points

・ Term-end report ⇒ 20 points

A passing score of 60 or higher is considered as a pass.

(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)

* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

食品科学

三浦 豊

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々が生きていくうえで不可欠である食品について、化学的・生物学的側面から学習することで、生命にとって食品とは如何なるものであるかを理解する。また講義で得られた知識をもとに学生諸君の食生活を見直し、健康な生活を送るための指針とすることを目標とする。さらに食品を取り巻く法的、社会的、産業的な動向についても理解を深めることを目標とする。

【到達目標】

日常摂取している食品がどのような成分から構成されており、我々の健康維持とどのように関わっているか、という点に関して理解し、考える機会を持てるようになることが目標である。具体的には、我々は何のために食品を摂取するのか、食品はどのような成分から構成されているのか、食品成分はどのような化学的性質を有しているのか、食品成分が生体にどのような影響を及ぼすのか、を理解し、食品と生体とのかわりを総合的に理解することも目標とする。また最終的には講義で学習した内容を日々の食生活に生かしていけるようになってもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義の前半では食品に含まれる成分について、その分類、化学構造、生物機能を順次学習する。食品中には栄養素と非栄養素が含まれているため、5大栄養素と非栄養素について順次解説を行う。中間テストを挟み、講義後半では、食品と健康との関わりについて学習する。具体的には食品と病気（メタボリックシンドローム、糖尿病、癌）との関連を学習する。講義は配布するプリントに基づき実施する。課題等の提出やそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。さらに最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説を行い、最終試験に向けた学習の指針も解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要を解説し、食品と生命の関わりについてオーバービューすると同時に最新のトピックスを紹介する。
第2回	食品成分の化学1	食品成分中の糖質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第3回	食品成分の化学2	食品成分中のアミノ酸、ペプチド、タンパク質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第4回	食品成分の化学3	食品成分中の脂質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第5回	食品成分の化学4	食品成分中のミネラルと水溶性ビタミンについて化学的な側面と生物機能を講義する。
第6回	食品成分の化学5	食品成分中の脂溶性ビタミンと非栄養素について化学的な側面と生物機能を講義する。
第7回	食品成分の生物学1	食品成分の消化・吸収について講義する。
第8回	食品成分の生物学2	食品成分の代謝とその調節機構について講義する。
第9回	中間テスト	前半の講義内容に関して中間テストを行う。
第10回	食情報について	食品と健康の関係を食品が含有する食情報という観点から講義する。
第11回	食品とメタボリックシンドローム	メタボリックシンドロームと食品の関わりについて講義する。
第12回	食品と糖尿病	糖尿病と食品の関わりについて講義する。
第13回	食品と癌	癌と食品の関わりを講義する。
第14回	これからの食品科学	個人の体質に合った食習慣や食品を利用した先制医療など食品科学の将来を論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】特に予習を行う必要はないが、講義で学習したことの復習を行い、質問等があれば、翌週の講義時に聞くこと。また食品という日常生活に関連するものを対象とする講義であるため、毎日の食生活に学習した内容をフィードバックすることを常に意識してもらいたい。

【テキスト（教科書）】

講義はパワーポイントを用いて行うが、講義資料は学習支援システムを介して配布する。

【参考書】

「食品の科学」上野川修一、田之倉優編、東京化学同人
「健康栄養学」－健康科学としての栄養生理化学－ 小田裕昭、加藤久典、関泰一郎編、共立出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（10%）、中間テスト（30%）、期末テスト（60%）とする。中間テスト、期末テストともに講義内容の理解度を判定する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が多岐にわたり、情報量が多くなる傾向があるため、大事な個所には時間を十分に掛けるなど、講義のメリハリをよりはっきりとつけるように努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

目標にも記載しましたが、食品は毎日摂取する身近なものであると同時に皆の生命を支える根幹です。講義内容をよく理解し、自らの食生活を見直すきっかけとなることを期待します。

【Outline (in English)】

Food is well known to be important for our life. In this lecture, the chemical and biological properties of foods are lectured. From this lecture, students will be able to get some knowledge for living better and healthy. The legal, social and industrial aspects of food development and food industry will be also lectured.

For this lecture, a work outside of class is not needed particularly, but the content of the lecture may be familiar for you and your daily life. So, the knowledge you will get in the lecture may be anticipated to be applicable for your healthy life.

For grading, your attitude in the class (10%), midterm test (30%), and final test (60%) will be evaluated. Both the midterm test and the final test will assess the level of understanding of the lecture content.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）	
金融論 A	
武田 浩一	
開講時期：春学期授業/Spring	単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、初めて大学で金融を学ぶ人が、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立つかを学ぶことを通じて、まず金融に興味を持ち、さらには現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを身につけることです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

今年度の本講義は、対面講義形式で行います。

この講義では、日本や海外の金融が近年ダイナミックに変化を遂げて、少し前にあたかも金融の世界の常識であるかのようにいわれていた知識の多くが陳腐化して必ずしも実態にそぐわなくなりつつあることを念頭において、今動いている金融の実態に即したup-to-dateな金融論の基礎を紹介することに力を入れます。また、初めて金融を学ぶ人でも講義内容を理解できるように、金融を理解する上で不可欠となる専門的な用語や概念を初めて使うときには、それらの意味をできるだけ平易な言葉や図を使って解説するようにします。講義のフィードバックは、授業の際や学習支援システム経由で行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の方法や内容に関する説明
第2回	イントロダクション ：金融とは	金融とは何か
第3回	直接金融と間接金融	直接金融と間接金融の違い
第4回	銀行の決済機能と信用創造機能	銀行の決済機能と信用創造機能の意味
第5回	日本の金融システム ①	日本の金融システムの特徴と銀行について
第6回	日本の金融システム ②	協同組織金融機関と証券会社について
第7回	日本の金融システム ③	保険会社とその他の金融機関について
第8回	資金循環と金融構造	マクロ的な資金循環から見た日本の金融の特徴
第9回	貨幣の意義と機能	貨幣の本質的な機能と通貨制度について
第10回	日本の決済システム	決済システムの仕組みについて
第11回	貨幣需要	人々はなぜ貨幣を保有するのか
第12回	流動性のわなと貨幣供給	流動性のわなとマネーストックについて
第13回	企業の資金調達	企業の資金調達について
第14回	公的金融	日本における公的金融の役割について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、講義ノートや教科書を復習して、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

経済学入門や企業と経済・基礎、現代経済学などで学ぶ経済学の基礎知識があれば、金融論の理解はより深まります。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣、2011年刊）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

主に学期末試験によって成績を評価します（80%）。学期末試験は教室での対面形式（参照不可）で行う予定です。

授業への参加状況や学習の進捗状況を平常点として成績評価に加味します（20%）。学習の進捗状況を確認するために、講義内容の理解度を確認する課題を学期中に提出します。

【学生の意見等からの気づき】

関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】

受講生への閲覧用資料の配布や課題の提示、フィードバックなどに学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This is a course on the economics of money, banking, and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）	
金融論 A	
高橋 秀朋	
開講時期：春学期授業/Spring	単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、金融初学者を対象として、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを習得し、金銭の貸借やそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを経済学的な視点から理解することが目的である。また、実際のデータなどを利用して、金融における諸問題を考察できるような力の基礎を身につけてもらう。

【到達目標】

本講義の目標は、金融システムにおける諸問題を経済学的観点から理解できるようになるために、その基礎となる貨幣の時間価値の概念、価値評価の概念、リスクの概念を理解し、身につけてもらうことにある。具体的な数値例を用いて、各概念を説明できるようにすることが最終目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、オンデマンド形式で実施される。基本的には、学習資料を提示し、その資料に基づいて各自で学習をし、演習回では課題に回答、提出するという学習サイクルで実施する。また、EXCELを利用したセミナー形式の演習もあわせて行う。学生の解答を確認し、誤答が多かった箇所については解説動画をアップロードするなどしてフィードバックを行う。本講義では、金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するための基本的なフレームワークを身につけてもらう。そのため、講義ではEXCELを利用し講義中に身につけた知識が実際に適用可能であることを示していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	金融取引	金融取引における経済主体
2	金融の役割	異時点間、異状態間の所得移転
3	貨幣の時間価値1	将来価値、現在価値
4	貨幣の時間価値2	株価、債券価格の計算への応用
5	貨幣の時間価値3	株価、債券価格の計算への応用
6	債券管理	金利リスク
7	リスク評価1	2状態モデルによるリスク評価
8	リスク評価2	複数状態モデルと分散化
9	リスク評価3	複製戦略によるオプション評価
10	リスク評価4	状態価格によるオプション評価
11	演習1	小テスト（将来のCFが確実な証券の価格評価）
12	演習2	小テスト（将来のCFが不確実な証券の価格評価）
13	演習3	EXCELの関数を利用した将来価値、現在価値の計算
14	演習4	リスク資産の収益率の記述統計量（EXCEL利用）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードしておくので、講義前に目を通して予習しておくこと（週2時間）。また、講義後に取り扱った計算例を復習するとともに、日本経済新聞、ロイター、F T等に掲載された市場の価格情報を通じて学習した内容がどのように活用されているのかを実感すること（週2時間）。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

F. Mishkin『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 13th Edition』（Pearson Education, 2021）

※当該テキストのPart 2が学習の対象

【成績評価の方法と基準】

評価は期末試験80%、3～4回の演習における課題の評価20%として行う。提出課題の基本点は各回5～7%相当であるが、特に優秀な課題に関しては追加で加点を行う。当該加点を含めて100%を超えた場合は超過分を切り捨てる。講義で取り扱う計算例、問題演習を理解していれば高い評価が得られるように作成する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容の復習を効率的に行うために、小テストや演習の解説はオンデマンド形式のコンテンツとしてWebClassにアップロードしておく。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to the theories and the methods in finance such as future/present value, risk, and state price. This course also shows what role each economic entity plays and how important their roles are. Through this course, students are expected to obtain abilities to consider economic/financial issues and problems in the real world from the academic perspective. Before each class meeting, students are expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be evaluated according to the in-class assignments (20%) and term-end exam (80%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
金融論 B
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、初めて大学で金融を学ぶ人が、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立つかを学ぶことを通じて、まず金融に興味を持ち、さらには現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを身につけることです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

今年度の本講義は、対面講義形式で行います。

この講義では、金融市場の動向や金融取引の仕組み、貸出市場とメインバンク、新しい金融環境下での金融監督・規制などについて主に解説します。金融取引は、近年の急速な金融技術革新の進展に伴って国境や伝統的な業態の枠を越えて行われるようになっており、従来からの業態や規制の体系に依拠した枠組みでは的確にその鳥瞰図を描くことが困難になりつつありますが、この講義では、金融の基本的な機能に立ち返って金融システムについて議論することによって、金融市場はどのように機能し、そこで市場参加者はどのように行動しているのか、また市場の変化に金融監督・規制がどのように対応しようとしているのか、などのテーマについて新しい視点から俯瞰してゆきたいと考えています。

講義のフィードバックは、授業の際や学習支援システム経由で行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容や方法の説明
第2回	金融市場と金融取引	金融市場とは何か
第3回	金融市場	短期金融市場について
第4回	債券市場と株式市場	長期金融市場について
第5回	外国為替市場	外国為替市場について
第6回	金融派生商品市場	金融派生商品市場について
第7回	資産証券化	資産証券化とは何か
第8回	貸出市場とメインバンク	銀行貸出市場の特徴と日本のメインバンクについて
第9回	金融システムと中央銀行	金融システムにおける中央銀行の役割
第10回	金融システムの安定性と監督・規制①	金融システムの安定性とブルードレンス政策について
第11回	金融システムの安定性と監督・規制②	自己資本比率規制とセーフティーネットについて
第12回	アメリカの金融システム	アメリカの金融システムの特徴について
第13回	金融と情報の非対称性	金融と情報の非対称性について

第14回 ヨーロッパの金融システム ヨーロッパの経済通貨統合について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、講義ノートや教科書を復習して、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

経済学入門や企業と経済・基礎、現代経済学などで学ぶ経済学の基礎知識があれば、金融論の理解はより深まります。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣、2011年刊）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

主に学期末試験によって成績を評価します（80%）。学期末試験は教室での対面形式（参照不可）で行う予定です。

授業への参加状況や学習の進捗状況を平常点として成績評価に加味します（20%）。学習の進捗状況を確認するために、講義内容の理解度を確認する課題を学期中に提出します。

【学生の意見等からの気づき】

関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】

受講生への閲覧用資料の配布や課題の提示、フィードバックなどに学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This is a course on the economics of money, banking, and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
金融論 B
高橋 秀朋
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを一通り学習した者を対象として、金融システムの役割や現実の金融における諸問題を分析する力を身につけることにある。身近で起きている金銭のやり取りやそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを、金融論Aの知識を発展させ、情報の経済学を利用して分析する。

【到達目標】

本講義の目標は、金融論Aで学習したフレームワークを基礎に、いくつかのミクロ経済学のフレームワークを付加し、金融市場、金融仲介機関の機能、金融規制、銀行規制などを理解することにある。最終的な目標は、具体的な数値例を用いて、金融取引における情報の非対称性や契約の不完備性に関わる諸問題を説明できるようになることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、オンデマンド形式で実施される。基本的には、学習資料を提示し、その資料に基づいて各自で学習をし、演習回では課題に回答、提出するという学習サイクルで実施する。学生の解答を確認し、誤答が多かった箇所については解説動画をアップロードするなどしてフィードバックを行う。金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するためのフレームワークを身につけてもらい、知識が実際に適用可能であることを示していく。金融論Bではミクロ経済学に基礎をおいた経済学のフレームワークを利用して、金融に関する経済現象の分析を行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	金融論Aの復習	金融の機能
2	リスクと資産評価	債券、株式の評価
3	情報の非対称性1	逆選択問題
4	情報の非対称性2	モラルハザード
5	情報の非対称性3	自己選択、インセンティブメカニズム
6	契約の不完備性	不完備契約における諸問題
7	金融市場と仲介機関	金融市場概観
8	金融市場への応用1	証券の発行市場
9	金融市場への応用2	証券の流通市場
10	金融仲介機能への応用	情報の非対称性と金融仲介機関
11	演習1	小テスト（2状態モデルとリスク）
12	演習2	小テスト（逆選択）
13	演習3	小テスト（モラルハザード）
14	演習4	小テスト（契約の不完備性）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードしておくので、講義前に目を通して予習しておくこと（週2時間）。また、情報の経済学に基づく金融論は、実際の経済における金融に関わる事象をモデルによって説明しようと試みているため、講義で学習する知識だけでなく、日本経済新聞、ロイター、F T等の経済情報に目を通してその内容を実感すること（週2時間）。

【テキスト（教科書）】

村瀬英彰『新エコノミクス 金融論 第2版』（日本評論社、2016年）

【参考書】

F. Mishkin『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 13th Edition』（Pearson Education, 2021）

※当該テキストのPart 3 およびPart 4が対象。

【成績評価の方法と基準】

評価は期末試験80%、4回の演習における課題の評価20%として行う。提出課題の基本点は各回5%相当であるが、特に優秀な課題に関しては追加で加点を行う。当該加点を含めて100%を超えた場合は超過分を切り捨てる。講義で取り扱う計算例、問題演習を理解していれば高い評価が得られるように作成する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容の復習を効率的に行うために、小テストや演習の解説はオンデマンド形式のコンテンツとしてWebClassにアップロードしておく。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to introduce more sophisticated concepts and frameworks than those students learn in Monetary and Finance A (Kin-yuron A). Students are expected to acquire ability to analyze real financial activities with knowledge related to information economics. In this lecture, employing the information theory and fundamental knowledge of Finance, we apply the theories to analysis of the real world. The goal of this course is to obtain abilities to apply economic tools to the real world. Before each class meeting, students are expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the in-class assignments (20%) and term-end exam (80%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）	
現代ファイナンス入門A	
湯前 祥二	
開講時期：春学期授業/Spring	単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します。ファイナンスでは、リターンとリスクという2つのキーワードを中心に据えて、資産運用にまつわる具体的な問題を扱います。

【到達目標】

株式会社について理解し、株式の理論価格を計算することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち、賢い選択をする」ための道具です。日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で、ポイントは無駄（無駄な手数料、無駄なリスク）を省くことです。

春学期は、株式の理論価格を題材にして、リターンを中心に学びます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ファイナンス	ファイナンスを学ぶ理由
第2回	株式の価格付けの流れ	配当割引モデルに至る流れ
第3回	事業循環	材料仕入れ、製造、販売、決算
第4回	財務諸表・事業計画	損益計算書、貸借対照表、改善ポイント
第5回	財務諸表分析	有価証券報告書
第6回	収益性の分析	資本利益率
第7回	安定性の分析	株主資本比率
第8回	デュボン・システム	株価と財務比率
第9回	株価の分解	EPSとPER
第10回	配当利回り	株価とDPS
第11回	キャッシュフロー	将来価値と現在価値
第12回	配当割引モデル	株式投資のキャッシュフロー
第13回	株主資本の増加と配当の成長	サステイナブル成長率
第14回	株価と配当政策	配当性向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

井手正介、高橋文郎（2001）、証券投資入門、日本経済新聞社。

井手正介、高橋文郎（2005）、証券分析入門、日本経済新聞社。

井出正介（2008）、株式投資入門、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline (in English)】

This course is a primer on finance.

It deals with specific issues concerning asset management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）	
現代ファイナンス入門B	
湯前 祥二	
開講時期：秋学期授業/Fall	単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します。ファイナンスでは、リターンとリスクという2つのキーワードを中心に据えて、資産運用にまつわる具体的な問題を扱います。

【到達目標】

リターンとリスクについて理解し、両者を計算で求め、投資判断に用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ファイナンスや金融工学は『『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち、賢い選択をする』ための道具です。日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で、ポイントは無駄（無駄な手数料、無駄なリスク）を省くことです。

秋学期はリスクを扱います。リスク管理に必要な、リスク指標の計算方法や、リスク分散を学びます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	投資信託の仕組み	投資信託の種類
第2回	インデックス運用	市場ポートフォリオ
第3回	アクティブ運用	成功の条件
第4回	複利	最初の数字の賭け、割り算距離
第5回	複利計算の頻度	半年複利、連続複利
第6回	確定利付証券	元本、クーポン
第7回	金利期間構造	期間構造仮説
第8回	リスク管理	金融工学の機能
第9回	分布	離散型と連続型
第10回	リスク指標	プロジェクト選択の基準
第11回	標準偏差と VaR	正規分布
第12回	リスク分散	プロジェクトの組み合わせ
第13回	ポートフォリオのリスク	株式投資のリスク分散
第14回	モンテカルロ法	金融派生商品

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見ておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

井手正介、高橋文郎（2001）、証券投資入門、日本経済新聞社

井手正介、高橋文郎（2005）、証券分析入門、日本経済新聞社

井出正介（2008）、株式投資入門、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline (in English)】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning asset management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

POL200CA（政治学 / Politics 200）
国際関係論 A
富永 靖敬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に安全保障をめぐる国家間関係を対象とし、特に戦争の原因・メカニズムを近年の研究動向を踏まえて多面的に学習する。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際関係を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

1. 国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2. 国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、コンテンツ（動画）配信を中心としたオンディマンド授業とする。本講義では、講義資料・講義動画での授業を基本としたうえで、適宜授業内容の理解度を確認するための小テスト、オフィスアワーでの質疑応答を行うことで授業内容の理解を促す。講義動画、講義資料は学習支援システム（また Google Driveでのファイル共有）を通じて配信し、小テストは学習支援システムのテスト機能を用いる。また、教員との質疑応答はZoomを用いて行う。講義動画は1本60分前後を基本とする。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	国際関係論の射程	本授業の狙い、授業の概要
第2回	国際システムの構造	主権国家とは、主権国家システム
第3回	伝統的国際関係論の視点 I	リアリズム:国家のパワーゲーム、古典的リアリズム、ネオリアリズム
第4回	伝統的国際関係論の視点 II	勢力均衡と同盟論
第5回	伝統的国際関係論の視点 III	リベラリズム:協力と平和の可能性、国際制度と国際協調
第6回	伝統的国際関係論の視点 IV	構成主義：社会的な意味とアイデンティティ
第7回	理論間の対立	「イズム」の限界
第8回	交渉理論に基づく戦争論	戦争はなぜ起こるのか？、事例：イラク戦争
第9回	交渉理論I	情報の非対称性
第10回	交渉理論II	コミットメント問題
第11回	国内政治と戦争	なぜ国内要因が重要なのか
第12回	リーダーと戦争	評判(reputation)と信頼(credibility)、リーダーの個人的性質、結集効果
第13回	今学期のまとめ	春学期の振り返り
第14回	期末試験（オンライン）	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業前に指定されたテキストを読むことが求められる。また、授業後には、授業で用いたスライドに基づいて復習をすることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

多湖淳(2020)『戦争とは何か 国際政治学の挑戦』中央公論新社（中央公論新書 2574）。定価880円（本体 800円） ISBN978-4-12-102574-6。

【参考書】

【特に推薦するのは以下の三冊】

1. Kydd, Andrew H. (2015). International Relations Theory: the Game-Theoretic Approach. Cambridge: Cambridge University Press.
2. クリストファー・ブラットマン（神月謙一訳）(2023)『戦争と交渉の経済学—人はなぜ戦うのか—』草思社。定価 3,740 円（本体 3,400 円）ISBN978-4-7942-2662-4
3. Spaniel, William (2023). Formal Models of Crisis Bargaining: Applications in the Politics of Conflict. Cambridge: Cambridge University Press.

【その他】

草野大希・小川裕子・藤田泰昌（編）(2023)『国際関係論入門』ミネルヴァ書房。定価3,520円（本体 3,200円）ISBN978-4-623-09577-3
砂原庸介・稗田健志・多湖淳（2015）『政治学の第一歩（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価 2,052円（本体 1,900円）ISBN 978-4-641-15025-6
鈴木基史・岡田章（2013）『国際紛争と協調のゲーム』有斐閣。定価2,808円（本体 2,600円）ISBN 978-4-641-14904-5
浅古泰史（2018）『ゲーム理論で考える政治学 フォーマルモデル入門』有斐閣。定価2,860円（本体 2,600円）ISBN978-4-641-14928-1
村田晃嗣・塚塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将（2015）『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣。定価 2,376円（本体 2,200円）ISBN 978-4-641-17722-2
山本吉宣・河野勝（2005）『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価3,024円（本体 2,800）ISBN 978-4-8188-1720-3

【成績評価の方法と基準】

【成績評価の方法】

本授業の評価は、小テスト（30%）と期末試験（70%）で行う。小テスト、期末試験ともに「学習支援システム」を通じてオンラインで実施する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業で使用する資料の配布、ならびに学期中のテストは、「学習支援システム」を通じて実施する。資料のダウンロードおよびテストの実施のために、デバイス（PCなど）とオンライン環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

以下に生成AI使用のルールを明示します。

【ルールの目的】

本授業では、学生の皆さんが自らの思考力・分析力・表現力を養うことを重要な学習目的としています。生成AI（ChatGPTなど）の技術をリサーチや情報探索の一助として活用すること自体は否定しませんが、論述やレポートの文章自体をAI任せにしまうと、本来の学習効果が損なわれるおそれがあります。そこで、生成AIの利用に関しては、以下のルールを設けます。

【生成AIはあくまでリサーチの補助】

- ・許容される行為例
 - ・キーワード・用語の検索
 - ・史実や統計データの有無を確認（※出典元が明確である場合に限る）
 - ・参考文献のヒント探し（※実際には一次情報・正式な文献を自分で確認すること）
- ・禁止される行為例
 - ・AIに要約や文章を生成させ、そのまま引用・転用すること
 - ・AIから得た引用元不明の「事実」を裏付け確認せずに用いること
 - ・「文章構成への直接的寄与」となるような内容（段落まとめ、序論や結論のドラフトなど）の作成をAIに委ねること

【AIが作成した文章の使用禁止】

- ・論述・レポート
 - ・AIが作成した文章を、一部でもそのままあるいは表面的な改変（接続語の入れ替えや文末の書き換え程度）をして使用することは禁止します。
 - ・これはコピーに準ずる行為とみなし、学問的誠実性に反する行為と判断します。
 - ・引用・参考資料
 - ・AIを「著者」として引用することは認めません。AIは二次的・三次的情報を推測的に生成する仕組みであり、正確性や一次性を保証しません。
 - ・AIが提示した文献・統計を活用したい場合は、必ず元の一次資料を学生自身で確認し、その一次資料を引用してください。
- 【チェッカーによる検証と不正行為の判断】
- ・AIチェッカーの活用

- ・提出された論述・レポートに対し、複数のAI生成検知ツールを用いてチェックを行います。
- ・AI生成の可能性が高いと検知された場合、さらに内容の精査や学生へのヒアリングを行う場合があります。
- ・不正が疑われる場合
 - ・学生本人に口頭での追加説明や質疑応答を求めることがあります。そこでも十分な説明が得られない場合、剽窃・不正行為と見なされる可能性があります。
 - ・不正行為と認定された場合は、大学の規定に基づき成績評価の取消や該当授業の単位不認定などの処分が下されることがあります。

【適切なAI利用のすすめ】

- ・AIはあくまで“補助”です
 - ・上記のようなルールを設けても、「AIを一切使わない」という意味ではありません。実際には、キーワード検索や概要把握、論点の整理など、学習者が合理的にAIを使う方法があります。ただし、最終的な文章構成・論理展開・結論は必ず自分自身で組み立てることを徹底してください。
- ・情報の真偽は自分で確認する
 - ・国際関係論・国際政治の分野は情勢が流動的かつ複雑で、AIの提示する情報が誤りや不十分である場合も少なくありません。どのようなツールを使うにせよ、最終的な情報の検証責任は学習者自身にあります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This is an introductory course that intends to provide students with basic knowledge which is essential to understand the nature of current international relations. This course pays particular attention to security issues exploring causes and consequences of war.

【Learning objectives】

1. To acquire knowledge of theoretical conceptions of international politics
2. To acquire the ability to explain current issues of international politics logically and with evidence

【Learning activities outside of classroom】

Before each class: To read the assigned part of the textbook (2 hours)

After each class: To review the slide (2 hours)

【Grading Criteria/Policy】

Quizzes (30%): Online (Via Learning Support System of Hosei University)

Term-end exam (70%): Online (Via Learning Support System of Hosei University)

POL200CA（政治学 / Politics 200）	
国際関係論 B	
富永 靖敬	
開講時期：秋学期授業/Fall	単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に安全保障問題について幅広く学習する。国際関係論Aでは、主権国家システム、国内・国際制度、リーダーの性質など、国際政治現象一般を分析する際に必要となる諸モデルを紹介したが、国際関係論Bでは、国家間戦争、内戦やテロリズムといった国家間・国家内で発生する戦争、あるいは越境的な国際犯罪を対象とする。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際問題を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

1. 国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2. 国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、コンテンツ（動画）配信を中心としたオンディマンド授業とする。本講義では、講義資料・講義動画での授業を基本としたうえで、適宜授業内容の理解度を確認するための小テスト、オフィスアワーでの質疑応答を行うことで授業内容の理解を促す。講義動画、講義資料は学習支援システム（またGoogle Driveでのファイル共有）を通じて配信し、小テストは学習支援システムのテスト機能を用いる。また、教員との質疑応答はZoomを用いて行う。講義動画は1本60分前後を基本とする。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	導入	前学期の復習、本授業の概要
第2回	核兵器と軍備管理・抑止論	国際危機外交、安全保障のジレンマ、シグナリング、評判、抑止論とその効果
第3回	テロリズム・非国家主体の暴力	テロリズムの定義、原因、対策
第4回	内戦・国内紛争の国際化	内戦の原因論（民族、貪欲と不満）、交渉モデル
第5回	紛争解決：平和への道筋	交渉、仲介、調停など紛争解決の理論と実践
第6回	事例分析	スリランカ内戦・コロンビア内戦・ミャンマー内戦など
第7回	制度と規範：国際社会の秩序形成	国際制度と国際規範が国家の行動をどのように制約し、協力を促進するのか
第8回	国際規範と人権	国際人権規範の発展と課題
第9回	気候変動と国際協力（地球規模の課題への対応）	気候変動が国際社会に与える影響を分析し、気候変動問題への国際的な取り組みを検討する
第10回	サイバーセキュリティと国際関係	新たな脅威の出現、サイバー空間における国家間の競争と協力
第11回	貧困と開発	資源の呪い、国連の持続可能な開発

第12回	貧困と開発の制度的説明	富の独占と政治体制，selectorate theory
第13回	学期のまとめ	秋学期の振り返り
第14回	期末試験（オンライン）	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業前に指定されたテキストを読むことが求められる。また、授業後には、授業で用いたスライドに基づいて復習をすることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

多湖淳 (2020) 『戦争とは何か 国際政治学の挑戦』中央公論新社。定価 880 円（本体 800 円）ISBN978-4-12-102574-6

【参考書】

Kydd, Andrew H. (2015). International Relations Theory: the Game-Theoretic Approach. Cambridge: Cambridge University Press.

草野大希・小川裕子・藤田泰昌（編）(2023) 『国際関係論入門』ミネルヴァ書房。定価 3,520 円（本体 3,200 円）ISBN978-4-623-09577-3

クリストファー・ブラットマン（神月謙一訳）(2023) 『戦争と交渉の経済学—人はなぜ戦うのか—』草思社。定価 3,740 円（本体 3,400 円）ISBN978-4-7942-2662-4

砂原庸介・稗田健志・多湖淳（2015）『政治学の第一歩（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN 978-4-641-15025-6

鈴木基史・岡田章（2013）『国際紛争と協調のゲーム』有斐閣。定価 2,808 円（本体 2,600 円）ISBN 978-4-641-14904-5

浅古泰史（2018）『ゲーム理論で考える政治学 フォーマルモデル入門』有斐閣。定価 2,860 円（本体 2,600 円）ISBN978-4-641-14928-1

村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将（2015）『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣。定価 2,376 円（本体 2,200 円）ISBN 978-4-641-17722-2

山本吉宣・河野勝（2005）『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価 3,024 円（本体 2,800 円）ISBN 978-4-8188-1720-3

東大作（2020）『内戦と和平 現代戦争をどう終わらせるか』中央公論新社。定価 968 円（本体 880 円）ISBN978-4-12-102576-0

【成績評価の方法と基準】

【成績評価の方法】本授業の評価は、小テスト（30%）と期末テスト（70%）で行う。テストは、「学習支援システム」を通じてオンラインで実施する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業で使用する資料の配布、ならびに学期中のテストは、「学習支援システム」を通じて実施する。資料のダウンロードおよびテストの実施のために、デバイス（PCなど）とオンライン環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

以下に生成AI使用のルールを明示します。

【ルールの目的】

本授業では、学生の皆さんが自らの思考力・分析力・表現力を養うことを重要な学習目的としています。生成AI（ChatGPTなど）の技術をリサーチや情報探索の一助として活用すること自体は否定しませんが、論述やレポートの文章自体をAI任せにしまうと、本来の学習効果が損なわれるおそれがあります。そこで、生成AIの利用に関しては、以下のルールを設けます。

【生成AIはあくまでリサーチの補助】

- ・許容される行為例
 - ・キーワード・用語の検索
 - ・史実や統計データの有無を確認（※出典元が明確である場合に限り）
 - ・参考文献のヒント探し（※実際には一次情報・正式な文献を自分で確認すること）
- ・禁止される行為例
 - ・AIに要約や文章を生成させ、そのまま引用・転用すること
 - ・AIから得た引用元不明の「事実」を裏付け確認せずに用いること
 - ・「文章構成への直接的寄与」となるような内容（段落まとめ、序論や結論のドラフトなど）の作成をAIに委ねること

【AIが作成した文章の使用禁止】

- ・論述・レポート
 - ・AIが作成した文章を、一部でもそのままあるいは表面的な改変（接統語の入れ替えや文末の書き換え程度）をして使用することは禁止します。
 - ・これはコピーに準ずる行為とみなし、学問的誠実性に反する行為と判断します。
- ・引用・参考資料
 - ・AIを「著者」として引用することは認めません。AIは二次的・三次的情報を推測的に生成する仕組みであり、正確性や一次性を保証しません。

・AIが提示した文献・統計を活用したい場合は、必ず元の一次資料を学生自身で確認し、その一次資料を引用してください。

【チェッカーによる検証と不正行為の判断】

・AIチェッカーの活用

・提出された論述・レポートに対し、複数のAI生成検知ツールを用いてチェックを行います。

・AI生成の可能性が高いと検知された場合、さらに内容の精査や学生へのヒアリングを行う場合があります。

・不正が疑われる場合

・学生本人に口頭での追加説明や質疑応答を求めることがあります。そこでも十分な説明が得られない場合、剽窃・不正行為と見なされる可能性があります。

・不正行為と認定された場合は、大学の規定に基づき成績評価の取消や該当授業の単位不認定などの処分が下されることがあります。

【適切なAI利用のすすめ】

・AIはあくまで“補助”です

・上記のようなルールを設けても、「AIを一切使わない」という意味ではありません。実際には、キーワード検索や概要把握、論点の整理など、学習者が合理的にAIを使う方法はあります。ただし、最終的な文章構成・論理展開・結論は必ず自分自身で組み立てることを徹底してください。

・情報の真偽は自分で確認する

・国際関係論・国際政治の分野は情勢が流動的かつ複雑で、AIの提示する情報が誤りや不十分である場合も少なくありません。どのようなツールを使うにせよ、最終的な情報の検証責任は学習者自身にあります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course intends to provide students with essential knowledge to understand international relations. This course focuses on not just traditional security issues such as nuclear deterrence and balance of power but also non-traditional security issues such as civil war and terrorism.

【Learning objectives】

1. To acquire knowledge of the essential conceptions of international relations
2. To acquire the ability to explain the phenomenon of international relations logically and with evidence

【Learning activities outside of classroom】

Before each class: To read the assigned part of the textbook (2 hours)

After each class: To review the slide (2 hours)

【Grading Criteria/Policy】

Quizzes (30%): Online (Via Learning Support System of Hosei University)

Term-end exam (70%): Online (Via Learning Support System of Hosei University)

SES300CA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 300）
地球環境論A
山崎 友紀
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球環境の多様性・法則性・相互関連性を理解するために、身の回りの自然環境から、地球または宇宙規模での環境について学びます。様々な人間の経済活動と地球環境との相互関係について理解を深めるため、環境保全、資源、エネルギー、生物多様性など多面的な学習を展開します。

【到達目標】

諸資料を活用し、地球規模で生じている諸現象を考察し、広い視野で解決策を見出そうとする見識と判断力を身に付ける。さらに、自発的に地球規模での問題に気づき、的確な情報によって批判できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を主体とするが、VTR鑑賞や演習（クイズ）も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に復習課題を課し、授業や課題に関する質問にはメールおよびオフィスアワーで対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要説明と希望アンケート。環境の定義、環境学の全体像を紹介
2	自然科学の基礎	環境学を学ぶために最低限必要な項目
3	太陽系と地球システム	地球システムを天文学的に考察する。宇宙、地球の歴史、太陽からの影響
4	地球環境を“みる”	地球環境の計測・探査方法
5	地球内部のしくみ	地球の形成や地下深部の構造
6	地球の大気と水	地球大気の大循環と、それによる気象変化
7	地球の水循環	地球規模の水循環
8	これまでの復習のための演習	参考となるビデオ観察、グラフや計算を用いた演習
9	地球の物質循環	地球規模で起きている、炭素循環、窒素循環、リンの循環
10	生物と生態系	地球における生物の役割と生態系
11	生物の歴史	生物の進化と歴史の物質循環における役割
12	生命、遺伝子に関する学習	VTRなどによる遺伝子の役割紹介
13	生物多様性	環境における生物多様性の重要性和意義
14	授業内試験	これまでの学習の理解度を筆記試験でチェックする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料や課題は学習支援システムで配布する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

1 『地球環境学入門 第3版』山崎友紀（講談社サイエンティフィク）2800円

【参考書】

1 『環境・エネルギー・健康 20講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
2 『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』Jay H. Withgott &Matthew Laposata, Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】

試験（60%）、提出課題と授業への取組の総合点（40%）とし、合計の60%以上得点できた場合に単位を認める。ただし授業欠席回数が50%を上回る者には単位を与えない。

【学生の意見等からの気づき】

理系科目を多く学んでこなかった学生さんにも親しめる内容とする。

【その他の重要事項】

学生は授業中にPC、スマートフォン、タブレットを使用しないこと。「実務経験のある教員による授業」として、教員はSRI Internationalにて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。

本授業については、今後のオンデマンド授業化を踏まえ、授業を撮影する場合があります。撮影は教室後方等からとし、受講生の顔が映り込まないように配慮します。

【Outline (in English)】

In order to understand the mechanisms of the global environment, you will learn diversity, interrelationships and rules of the environment on our planet. Based on the natural history of the formation of the Earth, you will learn how human activities work for the environment.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

Grading criteria is Assignments(60%), Class Contribution(20%), and

Report or Quiz contribution(20%).

SES300CA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 300）
地球環境論B
山崎 友紀
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模での環境保全の概念と基礎事項、環境問題の現状と対策などについて理解を深める。様々なエネルギー問題、廃棄物問題、環境保全などについて、正しい情報とともに課題と解決策を見出す力を養う。

【到達目標】

自然環境と人間の調和を支える良識ある公民の資質として、地球規模の広い視野で解決策を見出そうとする見識と総合的な判断力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を主体とするが、VTR鑑賞や演習も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に授業内課題および復習課題を課す。授業や課題に関する質問にはメールおよびオフィスアワーで対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・地球の人口	講義内容、計画、評価方法の紹介。環境とは何か、エコとは何か。地球が直面する課題を知る。
2	地球上の資源	化石燃料、非化石燃料、鉱物資源などの特徴を知る
3	資源とエネルギー	発電技術、資源・エネルギーに関する諸問題を議論する
4	原子力の利用と問題点	核エネルギーと発電のしくみ、原発問題
5	放射線の性質と利用	放射線の性質、生体への影響、利用方法について
6	再生可能エネルギー	太陽光、風力、水力、バイオマスなどのエネルギー
7	地球大気の変異	温室効果、温暖化を正しく学ぶ。大気汚染、オゾン層破壊、異常気象のメカニズム
8	地球規模の水問題	河川、湖沼、海域の水質問題と、異常気象の関係
9	水質汚濁と土壌汚染	地球規模の飲料水確保、下水処理、水質と土壌の関係
10	食品と環境	食品汚染、食品ロス、農業問題、毒とは何か
11	化学物質と環境	化学物質の影響。環境アセスメントと環境分析
12	廃棄物・廃プラスチックと環境	地球規模での廃棄物問題、海洋プラスチック問題
13	環境と経済	経済活動と環境のかかわり、ビジネスと環境。
14	授業内試験	理解度を筆記試験で評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報道ニュースなどの環境関連事項に注意し、目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1)『地球環境学入門 第3版』 山崎友紀（講談社サイエンティフィク）2800円

【参考書】

1)『環境・エネルギー・健康 20講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
2)『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』Jay H. Withgott &Matthew Laposata, Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】

試験（60%）、提出課題と授業への貢献度（40%）とし、合計の60%以上得点できた場合に単位を認める。ただし授業欠席回数が50%を上回る者には単位を与えない。

【学生の意見等からの気づき】

理系科目の苦手な学生も理解できるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

授業の予習復習の際に学習支援システムが使える環境。

【その他の重要事項】

学生は授業中にPC、タブレット、スマートフォンを使用しないこと。「実務経験のある教員による授業」として、教員はSRI Internationalにて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。

【Outline (in English)】

The current situation of environmental problems are already very complicated. You will learn the relationship between human activities and environmental problems. The main theme of this semester is to discuss how we can conquer problems, such as climate change, disasters, exhaustion of resources, and so on.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

Grading criteria is Assignments(60%), Class Contribution(20%), and

Report or Quiz contribution(20%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

国際協力論

佐野 竜平

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代福祉に関連したインクルーシブな国際協力・開発の理論および実践の基礎を学ぶ。

【到達目標】

学生が将来何らかの形で国際社会に関わることを前提に、現代福祉とインクルーシブ開発に関する基礎知識とスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現代福祉と国際協力について、インプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせ実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム(Web Class)等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第2回	SDGsと現代福祉①	SDGsと国際社会に関する学び①
第3回	SDGsと現代福祉②	SDGsと国際社会に関する学び②
第4回	SDGsと現代福祉③	SDGsと国際社会に関する学び③
第5回	国際機関と国際協力	国連による現代福祉に関する学び
第6回	日本政府と国際協力①	日本政府による国際協力に関する学び①
第7回	国際協力の現場から①	海外の現場から実際に学ぶ①
第8回	日本政府と国際協力②	日本政府による国際協力に関する学び②
第9回	NGO/民間企業と国際協力①	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践①
第10回	NGO/民間企業と国際協力②	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践②
第11回	NGO/民間企業と国際協力③	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践③
第12回	国際協力の現場から②	海外の現場から実際に学ぶ②
第13回	課題発表	課題発表と質疑応答
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。本講義の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

【参考書】

外務省 開発協力白書。必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム(Web Class)によるリアクションペーパーの提出（平常点）：50%

課題提出：50%（課題ファイル40%、発表10%）

【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】

講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野 / Expertise】

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】

【Course Outline】 This course introduces fundamental theories, best practices, and significant findings in international cooperation and development within the developing world, with a specific focus on inclusive development.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students are expected to acquire a foundational understanding of international cooperation within the framework of social policy and administration.

【Learning Activities Outside of Classroom】 Students are expected to dedicate two hours to preparatory study and two hours to review for each session (four hours total) to ensure a thorough understanding of the course material.

【Grading Criteria/Policy】 The final grade will be determined based on the following:

Reaction papers: 50%

Reports and presentations: 50%

MAN300JB（経営学 / Management 300）

NPO論

渡真利 紘一

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6155」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「NPO/非営利組織」は単に行政サービスを補完する組織ではなく、新しい未知なる価値を生み出し、市民社会を創造する主体であることを理解し、その実践のための方法を学びます。併せて、NPOの成立した歴史的背景やその社会的役割をはじめ、運営上の課題や他の主体（ボランティア、行政、民間企業（CSR）、助成財団など）との関係から、今後の社会のあり方を考えていきます。

【到達目標】

- ・NPOの社会的意義を理解し、実践の方法について具体的にイメージすることができる
 - ・自らの関心分野のNPO活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究を通じ、社会との主体的な関わり方を学ぶ
- NPOを論じる過程で、受講者自らが、自分らしく在ること／他者に対して寛容であること／仲間を持つこと／社会と本音で向き合うこと等の重要性を認識する機会につながればと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、NPOに関する基本的な内容（歴史的背景や社会的意義、運営方法や他の社会資源との関係等）について、映像資料や参考書等を交えて紹介します。後半は、NPO活動実践者から実践を聞き、体験的に実践を把握できる機会をつくります。授業形態は講義を主とします。受講者各々が授業を通じて感じたことや考えたことを言葉にし、共有するなかでの学びも大切にします。各回の授業計画の変更が生じる場合があります。変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション /NPOのイメージ	NPOのイメージや昨今の社会情勢を共有し、本講義の目的や目標、進め方を受講生と決定する。
第2回	NPOの活動分野と関心分野	映像資料等を活用しながら、NPOの活動分野について知るとともに各々の関心分野について話し合う。
第3回	NPOの歴史的背景	非営利活動の歴史的背景やNPO法設立経緯等から、NPOの文脈を辿る。
第4回	NPOの社会的意義	行政や企業等との比較を通じ、NPOの社会的意義について考察する。
第5回	NPOの組織運営	NPO組織の立ち上げや運営方法について基本的な内容を理解する。
第6回	NPOと他の主体との関係	他の主体（ボランティア、行政、民間企業（CSR）、助成財団など）との関係について把握する。

第7回	中間課題の共有	中間課題で調べたり考えたことを共有し、お互いの観点から学ぶ。
第8回	実践から考えるシリーズ「資金調達する」	クラウドファンディングや会費による基金創設、助成金申請など、NPOの多様な財源確保策を取り上げ、各手段の特徴や資金調達の際に配慮すべきことについて考察する。
第9回	実践から考えるシリーズ「協力関係をつくる」	協力関係をつくる理論や具体例を取り上げ、協力関係をつくる方法について考察する。
第10回	NPOの活動事例紹介	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第11回	NPOの活動事例紹介	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第12回	期末課題に向けた準備1	グループ又は個人で期末課題の準備を行う。
第13回	期末課題に向けた準備2	グループ又は個人で期末課題の準備を行う。
第14回	最終講義「これからの市民社会とわたしたち」	授業の振り返りやまとめを行うとともに、これからの社会を生きる私たちにとって大切な観点とは何か、検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の振り返りの時間を大切にしてください。
また、授業で気になったキーワードや考え方について本やネット、ニュースや映画等から更なる情報をインプットしたり、学んだ内容を周囲に話す等、言葉によるアウトプットを心がけ、自らの「観」を養っていくことを期待します。
授業で紹介したNPOの主催するイベント等へ参加したり、NPO活動へボランティアや取材等を通じて主体的に関わることを推奨します。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

（１）平常点（出席・リアクション）50点、（２）中間課題（NPO活動計画書）10点、（３）期末課題（準備の過程、レポート）40点。
平常点については、授業ごとに授業中の発言又はリアクションペーパーによって評価・採点します。
なお、成績評価の観点の例は以下のとおりです。

- ・NPOを論じることで社会の捉え方がどのくらい多様になったか
- ・受講者自らの関心分野の活動や研究テーマにどのくらい主体的に理解を深める関わりができたか
- ・クラスメイトが関心分野への理解を深めることにどのくらい協力して取り組めたか

（注）授業を欠席する場合は事前に連絡してください。

（注）実習や就職活動、部活動や健康上の理由などで授業への出席があまりできない人は、出来るだけ早く教員に知らせてください。

【学生の意見等からの気づき】

- ・受講者同士がお互いの観点を尊重して学びを深める環境をつくります。
- ・授業内容の理解の手助けとなる書籍や映像、記事等を紹介します。
- ・NPO活動の企画立案を具体的に検討する内容や実践からNPO活動を考察する内容の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料の閲覧や調べ物をする際に使用するため、パソコン又はスマートフォンを持参してください。

【その他の重要事項】

授業計画の内容は、社会情勢や授業の展開によって、変更があり得ることを申し添えます。

【Outline (in English)】

NPO/Non Profit Organization is not just organizations to cover government services, but it provides new values and creates civil societies proactively.

Throughout the class, we understand methods of cooperation with NPOs and the future of our society learning historical background of its establishment, its social roles, operational challenges and relations of other social resources such as volunteers, public administrations, CSRs and grant making foundations.

The goals of this course are to “To understand Social significance of Non Profit Organization”.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Being yourself.
- Being tolerant of others.
- Facing society in earnest.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、Short reports : 10%、in class contribution: 50%

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

災害支援論

青木 信夫、正谷 絵美

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

災害が発生した後に余儀なくされる避難生活や生活再建などへの支援の在り方また、災害発生後の支援を効果的に行うために必要な事前の備えなどについて総合的に学び実践するための知識や技術を習得して、年々繰り返され巨大化する自然災害の被災者に必要な支援とは何か、支援のあるべき姿を探究していく。

【到達目標】

被災者に必要とされる支援や支援の方法について知り、実践的な支援のあり方について理解を深める。
・我が国における災害支援の体制を知り、日常生活でどのような備えが必要であるか考える。
・一方的な支援だけでなくお互いに支援し合えるコミュニティの形成と共助を通して人々が地域を支えて行くことの大切さを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義のほかに、グループ討議や図上演習を実施することで学生自身が考え、災害をイメージして支援のあり方について気づかせる。また、被災者と交わる支援のあり方として、体験型の授業を取り入れる。レポート等の提出、フィードバックはメールあるいは「学習支援システム」を通じて行い、最終授業では13回までの各講義内容のまとめやレポート等の講評、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	①授業のオリエンテーション ②ワークショップ	・授業の概要や目的及び進め方、理解すべき点や評価方法等について知る。 ・災害支援のあり方について、グループ討議を行い被災者が本当に必要とする支援のあり方について知る。
2	体験学習 ・震動体験（起震車） ・煙避難体験（煙体験ハウス） ・初期消火（訓練用消火器）	・東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の実際の地震観測データを基に3次元で再現された震動を体験する。 ・人体に無害な煙を充填させたテント内に入り、火災時における煙の怖さと避難方法などを体験する。 ・初期消火の必要性を学び、消火器の操作手順を体験する。
3	防災講話 ・地域防災（自助、共助、公助）	・地域防災を、「自助」「共助」「公助」の視点から考え、平常時及び発災時の行動について考える。
4	ロープワーク ・結びの基本 ・水難救助と引上げ救助	・日常生活では勿論のこと、災害発生時には人命救助や避難生活にも役立つロープの結び方の基本を体験する。

5	災害の種類と災害心理	・地震、津波、水害、火災など各災害の原因、特徴、対策と共に逃げ遅れの原因となる災害心理について学ぶ。
6	図上演習DIG	・災害発生後に行う、「避難行動要支援者」への支援のあり方と事前に必要な体制づくりについて考える。
7	心肺蘇生法 ・胸骨圧迫／AED操作 応急手当 ・止血法・災害時の手当	・救命の重要性を理解する。 ・心肺蘇生に必要な胸骨圧迫とAED操作を体験し、実施手順を知る。 ・災害時の傷病者に対して身の回りにあるものを利用して一時的に施す手当の方法を知る。
8	災害ボランティアセンター実施訓練	・災害ボランティアセンターの仕組みを理解し、運営に必要な技術を実施訓練により習得する。
9	避難計画、避難行動	・避難計画や避難行動のあり方について知り、避難に必要な支援とはなにかを考える。
10	避難所HUG	・避難所の開設、運営を模範的に体験することにより、避難所で起こる様々な問題にどう対応するかまた、避難所で生活する被災者への支援をどのようにするかについて考える。
11	国の支援対策	・災害が発生した時に自衛隊、海上保安庁がどのように行動するのか、その仕組みと実体験について学ぶ。
12	国の支援構造	・災害時、有事の際、国がどのように行動し、どのように支援するかその構造を学ぶ。
13	クロスロード	・災害発生後に行う支援のあり方について出された質問にYESまたはNOで答え、自分ならどのように対応するかを考える。
14	①授業のまとめ ②春学期定期試験	・各授業の要点をまとめ、レポート等の講評、質疑応答、ディスカッションを通して災害支援を掘り下げる。 ・本授業を終えた後の理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

災害支援に関する学問は、「災害支援学」などのように決められた枠組みの中だけに存在するのではなく、日常生活の中にこそ多くのヒントが潜在していることから、自身が日常生活を送る中で防災や減災とどう取り組んで行くべきか考えることが大切であり、人と交わることで多くの気づきを得ることができるので積極的に情報を得て人と共有するようにする。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。
授業時に参考となる資料を配布する。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期定期試験50%、平常点40%、レポート10%
演習や体験型授業を行うので継続的な出席を求める。単位取得の前提条件となる出席回数については、オリエンテーション時（初回授業）に明示する。

【学生の意見等からの気づき】

授業では、講師陣の防災啓発活動の現場や被災地での活動体験を基に、学生が災害の当事者として支援のあり方を自ら考え理解できるような内容に心がける。

【Outline (in English)】

[Course outline] Knowledge of how to provide comprehensive support for evacuation and rebuilding of life after a disaster occurs, as well as the necessary preparation for effective support after a disaster occurs. They will acquire skills and explore what kind of support is needed for victims of natural disasters that are repeated and huge every year.

[Learning Objectives] Learn about the support and support methods needed by disaster victims and deepen their understanding of practical support.

—Learn about the disaster support system in Japan and think about what kind of preparations are necessary in daily life.

—Learn the importance of people supporting the community not only through one-sided support but also through the formation and mutual assistance of communities that can support each other.

[Learning activities outside of classroom] The study of disaster relief does not exist only within a fixed framework such as "disaster support studies", but because many hints are latent in daily life, oneself has a lot of hints in daily life. It is important to think about how to tackle disaster prevention and mitigation while sending a message, and since you can get a lot of awareness by interacting with people, actively obtain information and share it with people. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy] Fall semester regular exam 50%, normal score 40%, report 10%

Since we will hold exercises and hands-on lessons, we request continuous attendance. The number of attendances, which is a prerequisite for earning credits, will be clearly stated at the time of orientation (first class).

MAN300JB（経営学 / Management 300）

NPO論（SSI）

渡真利 紘一

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：SSI 生向け科目。SSI 生以外は授業コード「N1155」を選択すること。

その他属性：〈実〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「NPO/非営利組織」は単に行政サービスを補完する組織ではなく、新しい未知なる価値を生み出し、市民社会を創造する主体であることを理解し、その実践のための方法を学びます。併せて、NPOの成立した歴史的背景やその社会的役割をはじめ、運営上の課題や他の主体（ボランティア、行政、民間企業（CSR）、助成財団など）との関係から、今後の社会のあり方を考えていきます。

【到達目標】

- ・NPOの社会的意義を理解し、実践の方法について具体的にイメージすることができる
 - ・自らの関心分野のNPO活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究を通じ、社会との主体的な関わり方を学ぶ
- NPOを論じる過程で、受講者自らが、自分らしく在ること／他者に対して寛容であること／仲間を持つこと／社会と本音で向き合うこと等の重要性を認識する機会につながればと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、NPOに関する基本的な内容（歴史的背景や社会的意義、運営方法や他の社会資源との関係等）について、映像資料や参考書等を交えて紹介します。後半は、NPO活動実践者から実践を聞き、体験的に実践を把握できる機会をつくります。授業形態は講義を主とします。受講者各々が授業を通じて感じたことや考えたことを言葉にし、共有するなかでの学びも大切にします。各回の授業計画の変更が生じる場合があります。変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション /NPOのイメージ	NPOのイメージや昨今の社会情勢を共有し、本講義の目的や目標、進め方を受講生と決定する。
第2回	NPOの活動分野と関心分野	映像資料等を活用しながら、NPOの活動分野について知るとともに各々の関心分野について話し合う。
第3回	NPOの歴史的背景	非営利な活動の歴史的背景やNPO法設立経緯等から、NPOの文脈を辿る。
第4回	NPOの社会的意義	行政や企業等との比較を通じ、NPOの社会的意義について考察する。
第5回	NPOの組織運営	NPO組織の立ち上げや運営方法について基本的な内容を理解する。
第6回	NPOと他の主体との関係	他の主体（ボランティア、行政、民間企業（CSR）、助成財団など）との関係について把握する。

第7回	中間課題の共有	中間課題で調べたり考えたことを共有し、お互いの観点から学ぶ。
第8回	実践から考えるシリーズ「資金調達する」	クラウドファンディングや会費による基金創設、助成金申請など、NPOの多様な財源確保策を取り上げ、各手段の特徴や資金調達の際に配慮すべきことについて考察する。
第9回	実践から考えるシリーズ「協力関係をつくる」	協力関係をつくる理論や具体例を取り上げ、協力関係をつくる方法について考察する。
第10回	NPOの活動事例紹介	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第11回	NPOの活動事例紹介	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第12回	期末課題に向けた準備1	グループ又は個人で期末課題の準備を行う。
第13回	期末課題に向けた準備2	グループ又は個人で期末課題の準備を行う。
第14回	最終講義「これからの市民社会とわたしたち」	授業の振り返りやまとめを行うとともに、これからの社会を生きる私たちにとって大切な観点とは何か、検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の振り返りの時間を大切にしてください。
また、授業で気になったキーワードや考え方について本やネット、ニュースや映画等から更なる情報をインプットしたり、学んだ内容を周囲に話す等、言葉によるアウトプットを心がけ、自らの「観」を養っていくことを期待します。
授業で紹介したNPOの主催するイベント等へ参加したり、NPO活動へボランティアや取材等を通じて主体的に関わることを推奨します。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

（1）平常点（出席・リアクション）50点、（2）中間課題（NPO活動計画書）10点、（3）期末課題（準備の過程、レポート）40点。平常点については、授業ごとに授業中の発言又はリアクションペーパーによって評価・採点します。

なお、成績評価の観点の例は以下のとおりです。

- ・NPOを論じることで社会の捉え方がどのくらい多様になったか
- ・受講者自らの関心分野の活動や研究テーマにどのくらい主体的に理解を深める関わりができたか
- ・クラスメイトが関心分野への理解を深めることにどのくらい協力して取り組めたか

（注）授業を欠席する場合は事前に連絡してください。

（注）実習や就職活動、部活動や健康上の理由などで授業への出席があまりできない人は、出来るだけ早く教員に知らせてください。

【学生の意見等からの気づき】

- ・受講者同士がお互いの観点を尊重して学びを深める環境をつくります。
- ・授業内容の理解の手助けとなる書籍や映像、記事等を紹介します。
- ・NPO活動の企画立案を具体的に検討する内容や実践からNPO活動を考察する内容の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料の閲覧や調べ物をする際に使用するため、パソコン又はスマートフォンを持参してください。

【その他の重要事項】

授業計画の内容は、社会情勢や授業の展開によって、変更があり得ることを申し添えます。

【Outline (in English)】

NPO/Non Profit Organization is not just organizations to cover government services, but it provides new values and creates civil societies proactively.

Throughout the class, we understand methods of cooperation with NPOs and the future of our society learning historical background of its establishment, its social roles, operational challenges and relations of other social resources such as volunteers, public administrations, CSRs and grant making foundations.

The goals of this course are to “To understand Social significance of Non Profit Organization”.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Being yourself.
- Being tolerant of others.
- Facing society in earnest.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、Short reports : 10%、in class contribution: 50%

ECN200LA（経済学 / Economics 200）

経済学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

山本 英子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水1/Wed.1
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、歴史の中で経済学がどのように生成されてきたかということに焦点を当てながら、経済学的思考を学んでいきます。春学期のこの経済学LAでは、西洋の思想の源流となる古代ギリシャから19世紀までの経済思想と、そこから徐々に導き出された理論を理解できるように進めます。例えば18世紀のアダム・スミスが何を批判し何を主張していたのか、そこに至るまでにどのような思想的な変遷があったのか、など、歴史上の主要な学者たちが継承してきた議論のプロセスを時系列に追体験していくことによって、経済学の役割や意義を考えられるようになることをめざします。

【到達目標】

社会が発展する歴史的过程の中で経済思想や理論が生成されてきたこと理解することによって経済的思考を習得し、経済活動に対して各自で考えて判断できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

履修者の理解の定着のため、授業内容に関するリアクションペーパーを毎回提出してもらい、次の授業時に前回の授業で提出されたリアクションペーパーの優れていた点や問題点等を示して、全体に対してフィードバックを行います。履修者は授業の要点を配布資料にしっかり書き込みながら授業に臨み、授業内容の理解に努めましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・歴史的視点から見る経済学についての解説
第2回	重商主義に至るまでの経済思想	・古代ギリシャの議論：アリストテレス ・中世の経済思想：アキナス ・イングランドの重商主義：マン、ペティ、ロック
第3回	重商主義とその影響	・フランスの重商主義：コルベール ・三大バブル
第4回	18世紀の商業社会と重農主義	・自由主義の芽生え：マンデヴィル ・商業社会論と啓蒙：ヒューム ・重農主義：ケネー
第5回	18世紀の古典派経済学（1）	・A・スミス『道徳感情論』から『国富論』へ
第6回	18世紀の古典派経済学（2）	・A・スミス『国富論』①分業、価値論、見えざる手、資本蓄積
第7回	18世紀の古典派経済学（3）	A・スミス『国富論』②重商主義批判、貿易、自由主義、植民地問題

第8回	19世紀初頭の諸学説	・ベンサム：功利主義 ・マルサス：人口論
第9回	19世紀の古典派経済学	・リカード：投下労働価値説、差額地代論、比較優位 ・J.S.ミル：生産分配峻別論、賃金基金説、質的功利主義
第10回	第一次産業革命の影響	・社会主義思想の萌芽 ・オウエン、リスト
第11回	マルクスの経済学	・弁証法的唯物論、剰余価値と搾取
第12回	第二次産業革命の影響	・大衆消費社会 ・ヴェーバー：資本主義観、マルクス批判
第13回	新古典派経済学	・限界革命：ジェヴォンズ、メンガー、ワルラス
第14回	黎明期から19世紀までの総括	・春学期に学んだ内容についての授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業で配布する資料をテキストとします。
欠席者のために毎回授業後に学習支援システムにも掲載します。

【参考書】

必要に応じて授業で提示します。

【成績評価の方法と基準】

第2回から第13回のリアクションペーパーでの理解度（3%×12回：36%）と、第14回の授業内試験の得点（64%）によって評価します。第14回に行う授業内試験は「第2回から第13回の配布資料のみ持込可」で行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により特にありません。

【その他の重要事項】

経済学LAが前編、経済学Bが後編となっているので、通年での履修が望ましいですが、一方だけの受講も可能です。

【Outline (in English)】

This course focuses on how economics emerged throughout history while studying economic thinking. In the spring semester, students will progress through economic thought from ancient Greece — the source of Western ideas — through the 19th century, gaining an understanding of the theories gradually derived from it.

The goal of this course is to acquire economic thinking by understanding how economic ideas and theories have been generated within historical processes.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be determined based on short reports (36%) and on in-class exam (64%).

ECN200LA（経済学 / Economics 200）

経済学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

山本 英子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水1/Wed.1

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、歴史の中で経済学がどのように洗練されてきたかということに焦点を当てながら、経済学的思考を学んでいきます。秋学期のこの経済学L Bでは、春学期の内容に続く19世紀後半から今日に至る経済政策の推移と関連させながら、ミクロ・マクロ経済学理論の基礎を学修します。例えば20世紀のJ・M・ケインズが何を批判して彼の経済学が生まれ大きく支持されたのか、それがその後どのような主張と対峙したのか、など、主要な学者たちの理論の背景、影響、そして転換を、激動の歴史的事象とともに時系列に追体験していくことによって、経済学のダイナミズムを実感できるようになることをめざします。

【到達目標】

経済学の基礎的知識とその発展のプロセスを理解することによって、経済学的思考を習得し、現実の経済活動や経済政策に対して各自で考えて判断できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

履修者の理解の定着のため、授業内容に関するリアクションペーパーを毎回提出してもらい、次の授業時に前回の授業で提出されたリアクションペーパーの優れていた点や問題点等を示して、全体に対してフィードバックを行います。履修者は授業の要点を配布資料にしっかり書き込みながら授業に臨み、授業内容の理解に努めましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・19世紀～20世紀の経済学的展望
第2回	新古典派経済学	・マーシャル ・20世紀諸初頭の諸学派 ・厚生経済学：ピグー
第3回	ミクロ経済学（1）	消費者行動
第4回	ミクロ経済学（2）	生産者行動
第5回	ミクロ経済学（3）	最適な資源配分
第6回	マクロ経済学（1）	国民所得と国内総生産
第7回	マクロ経済学（2）	財政政策
第8回	マクロ経済学（3）	金融政策
第9回	ケインズの経済学（1）	古典派経済学批判、雇用理論、有効需要
第10回	ケインズの経済学（2）	乗数理論、資本理論、利子理論、IS-LM分析
第11回	新古典派総合	・2つの経済成長理論の対立
第12回	資本主義観の変容	・シュンペーター：新結合、創造的破壊、管理資本主義

第13回	新自由主義の経済学と21世紀の経済状況	・ハイエク：社会主義経済計算論争、自生的秩序 ・フリードマン：マネタリズム、新自由主義
第14回	19世紀～20世紀の経済学の総括	・秋学期に学んだ内容についての授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業で配布する資料をテキストとします。
欠席者のために毎回授業後に学習支援システムにも掲載します。

【参考書】

必要に応じて授業で提示します。

【成績評価の方法と基準】

第2回から第13回のリアクションペーパーでの理解度（3%×12回：36%）と、第14回の授業内試験の得点（64%）によって評価します。第14回に行う授業内試験は「第2回から第13回の配布資料のみ持込可」で行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により特にありません。

【その他の重要事項】

経済学LAが前編、経済学Bが後編となっているので、通年での履修が望ましいですが、一方だけの受講も可能です。

【Outline (in English)】

This course focuses on how economics has developed throughout history while studying economic thinking. In the fall semester, students will learn the basic theories of microeconomics and macroeconomics, linking them to the evolution of economic policy from the late 19th century to the present day.

The goal of this course is to acquire economic thinking by understanding how economic ideas and theories have been generated within historical processes.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be determined based on short reports (36%) and on in-class exam (64%).

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システムを通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4	筋力アップ運動	トレーニング機器や自重による運動を行う(講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ネットスポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、パラスポーツのボッチャを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンをを行う(講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える(講義)。

8	卓球	ネットスポーツとして卓球のダブルスを行う(講義と実習)。
9	バスケットボール	バスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	フットサルを行う(講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策(講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiやwebclassにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。

使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】

問い合わせ教員連絡先：kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】 In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.

【到達目標（Learning Objectives）】

- (1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
- (2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
- (3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
- (4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
- (5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.

It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Assignments (reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システムを通して告知する。体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4	筋力アップ運動	トレーニング機器や自重による運動を行う(講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ニュースポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、またパラスポーツとしてボッチャを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンをを行う(講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える(講義)。

8	卓球	ネットスポーツとして卓球を行う(講義と実習)。
9	バスケットボール	ゴール型スポーツとしてバスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	ゴール型スポーツとしてフットサルを行う(講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策(講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題(リアクションペーパー、小テスト、レポートなど)60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。

教場の使用状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】

問い合わせ 教員連絡先: kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【授業の概要(Course outline)】 In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.

【到達目標(Learning Objectives)】

- (1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
- (2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
- (3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
- (4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
- (5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】
Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class. 【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Assignments

(reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制（20～30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の科学技術の発展により、スポーツ科学および健康科学も多くの進化を遂げている。それにより、運動を効果的、効率的、そして安全に実施する方法や自身の健康を管理するための方法が数多く提唱されている。この授業は運動・スポーツ、特にラケットスポーツ、ニュースポーツを通してスポーツ科学に触れると共に、生涯にわたって身体的・精神的・社会的な健康を維持・増進に資する健康科学について理解を深め、実践する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業はグループワークおよび講義、実習から構成され、様々な実技科目を通じて、スポーツ科学および健康科学について学ぶ。評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともに実習への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク ドッジビー	グループワーク「他己紹介」を通じたアイスブレイク。（グループワークおよび実習）
3	スポーツ科学・健康科学とは バドミントン	競技スポーツの場面から日常生活まで、スポーツ科学と健康科学の活用事例について学ぶ（講義および実習）
4	運動の心理的効果 バドミントン	運動の心理的効果について、気分調査尺度を用いて検証する。（講義及び実習）
5	運動の身体的効果 バドミントン	運動の身体的効果について学ぶ（講義及び実習）

6	技術を高める効果的な練習法：注意の焦点 バスケットボール(+派生バスケ)	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法として注意の焦点を学ぶ。（講義および実習）
7	技術を高める効果的な練習法：フィードバック法 ネオテニス	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法としてフィードバック法を学ぶ（講義および実習）
8	技術を高める効果的な練習法：運動イメージ ネオテニス	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法として運動イメージを学ぶ（講義および実習）
9	技術を高める効果的な練習法：ブロック・ランダム法 卓球	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法としてブロック・ランダム法を学ぶ（講義および実習）
10	技術を高める効果的な練習法：観察学習法 卓球	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法として観察学習法を学ぶ（講義および実習）
11	効果的な練習方法の探索 卓球	グループワークを通じて、効果的に運動を学習するための方法について探索する（講義及びグループワーク）
12	効果的な練習方法の実践 ビックルボール	「効果的な運動学習法の探索」での結果を踏まえて、効果的に運動を学習するための方法を実践する（講義および実習）
13	Tea(お茶)とスポーツユニホック	Tea(お茶)は時に、人の歴史を大きく動かしてきた。お茶を巡る歴史とその健康効果を学ぶ（講義および実習）
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき各2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ科学および生涯スポーツについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツや健康関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60%、課題・レポート40%の配分として総合評価します。

授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくない。

ただし、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。

3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。

4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

5. 指定感染症による欠席の場合、出席可能となった授業時にその旨について、担当教員に報告してください。なお、病気・怪我による欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. 各スポーツ種目の未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。
5. 授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】

With the development of science and technology in recent years, sports science and health science have also undergone many advances. Effective, efficient, and safe methods of exercising and managing one's health have been proposed.

The purpose of this course is to expose students to the latest sports science through exercise and sports and to deepen their understanding and practice of the latest health science that contributes to maintaining and improving physical, mental, and social health throughout life.

Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on two points.

- (1) Participation in class activities and class attitude: 60%.
- (2) Report on the lecture: 40%.

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）	
スポーツ科学B	2017年度以降入学者
佐藤 優希	
開講時期：秋学期授業/Fall	曜日・時限：木2/Thu.2
単位数：2単位	
定員制(20～30)	
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の科学技術の発展により、スポーツ科学および健康科学も多くの進化を遂げている。それにより、運動を効果的、効率的、そして安全に実施する方法や自身の健康を管理するための方法が数多く提唱されている。この授業は運動・スポーツ、特にラケットスポーツ、ニュースポーツを通してスポーツ科学に触れると共に、生涯にわたって身体的・精神的・社会的な健康を維持・増進に資する健康科学について理解を深め、実践する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業はグループワークおよび講義、実習から構成され、様々な実技種目を通じて、スポーツ科学および健康科学について学ぶ。評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともに実習への取り組みに対する動機づけを図る。（講義）
2	アイスブレイク ドッジビー	グループワークを通じたアイスブレイク。実技種目はドッジビーを用いる（グループワークおよび実習）
3	スポーツ科学・健康科学とは バドミントン	競技スポーツの場面から日常生活まで、スポーツ科学と健康科学の活用事例について学ぶ（講義および実習）
4	プレッシャーとスポーツ：実践 バスケットボール(+ 派生バスケ)	スポーツの場面ではしばしば緊張が高まる場面でのプレーが求められる。バスケットボールのフリースローを通じて、プレッシャーが心身に及ぼす影響について検証する（講義及び実習）

5	プレッシャーとスポーツ：基礎理論 バドミントン	「プレッシャーとスポーツ：実践」での結果を踏まえてプレッシャーが心身に及ぼす影響について学ぶ（講義及び実習）
6	プレッシャーとスポーツ：あがりへの対処 バドミントン	「プレッシャーとスポーツ」での結果と基礎理論を踏まえて、プレッシャーがかかる場面でも実力発揮をするための方法とあがりへの対処法を学ぶ（講義および実習）
7	スポーツの価値 卓球	これまでに五輪スポーツから地域レベルでのレクリエーションスポーツまで数多のスポーツ種目が生み出されてきた。既存のスポーツ種目を概観すると共にスポーツの本質的価値を学ぶ（講義および実習）
8	Tea(お茶)とスポーツ 卓球	Tea(お茶)は時に、人の歴史を大きく動かしてきた。お茶を巡る歴史とその健康効果を学ぶ（講義および実習）
9	運動の功と罪 卓球	運動による健康効果についてはよく知られている。一方で、運動が心身に及ぼす負の影響についてはあまり知られていない。運動の功と罪について学ぶ（講義および実習）
10	ニュースポーツと地域活性 ネオテニス	ニュースポーツがどのように地域活性に役立っているか、また地域の取り組みについて具体的事例を挙げながら紹介し、生涯スポーツに対する理解を深める（講義および実習）
11	スポーツ栄養 ネオテニス	食の欧米化と多様化により、様々な健康リスクが増加した。近年、危惧されている超加工食品の摂取と健康リスクの関連について学ぶ（講義および実習）
12	睡眠の効果 ピククルボール	睡眠は健康に大きな影響を及ぼす。睡眠の効果について学ぶ（講義および実習）
13	スポーツとコーピング ユニホック	社会生活を営む中で、様々な心理的ストレスを受ける。ストレスに対処する方法を学ぶ（講義および実習）
14	総括・試験	総括およびレポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき各2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ科学および生涯スポーツについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツや健康関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60%、課題・レポート40%の配分として総合評価します。授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくない。ただし、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 指定感染症による欠席の場合、出席可能となった授業時にその旨について、担当教員に報告してください。なお、病気・怪我による欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. 各スポーツ種目の未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。
ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。
5. 授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】

With the development of science and technology in recent years, sports science and health science have also undergone many advances. Effective, efficient, and safe methods of exercising and managing one's health have been proposed.

The purpose of this course is to expose students to the latest sports science through exercise and sports and to deepen their understanding and practice of the latest health science that contributes to maintaining and improving physical, mental, and social health throughout life.

Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on two points.

- (1) Participation in class activities and class attitude: 60%.
- (2) Report on the lecture: 40%.

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

魚住 智広

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。主にラケット競技を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生も十分に受講可能です。

【到達目標】

1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 日常生活におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を期限内に提出してください。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	(講義) スケジュール、成績評価、受講上の注意点
第2回	バドミントン①	ルール
第3回	バドミントン②	道具操作
第4回	バドミントン③	基礎動作
第5回	消費とスポーツ	(講義) 余暇、記号、物語
第6回	教育とスポーツ	(講義) 「効果」の誤認、規格化、体罰
第7回	卓球①	道具操作、ルール
第8回	卓球②	基礎動作、サーブ
第9回	ピックルボール①	道具操作、ルール
第10回	ピックルボール②	基礎動作
第11回	トレーニング①	器具の使用法
第12回	トレーニング②	基礎動作
第13回	社会階層とスポーツ	(講義) 社会移動、ハビトゥス、再生産
第14回	科学とスポーツ	(講義) 必然性、客観性、合理性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受講期間中は、授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介しますので、復習時間に精読してください。

【テキスト（教科書）】

特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

【参考書】

授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】

1. 実技授業の目標達成度(68%)、講義授業後に提出する課題(8%×4=32%)の総合評価とします。
2. 講義授業後の課題がすべて未提出の場合は単位を取得できません(講義授業後の課題を1つ以上提出することを単位取得の条件とします)。
3. 出席回数が授業実施回数の2/3(10回出席)に満たない場合は単位を取得できません。
4. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
 - ・課題の内容を理解したものであるか
 - ・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
 - ・レポートの体裁をなしたものであるか
 - ・適切な引用がなされているか(盗用・剽窃などの不正行為をしていないか)

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートより「適度な運動だけでなく、座学もあり、スポーツを歴史的観点で捉えることのできるいい授業であった」「身体を動かす機会が大学生になってほとんどなくなっていたため、健康のためにも体を動かすことが出来てよかった」「能力差もカバーするような内容にいただいたのでよかった」等の回答がありました。本授業は、スポーツに関する人文社会科学の最新の研究動向を踏まえ、授業内容を随時更新します。また、戸籍上の性別に基づくグループ分けを行わず、誰もが安心・安全に授業を受講できることをなによりも重視します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて課題提出を行います。課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】

本授業は定員制授業です。

- ①受講を希望する学生は、第1回目の授業の前々日23:59までに、学習支援システム上で希望する授業を「仮登録」してください。
 - ②仮登録者数が定員数を超え、選抜が必要と判断された場合は、第1回目の授業の前日に選抜を実施します。
 - ③第1回授業の前日23:59までに、学習支援システム上で受講許可者を発表します。
- また受講生が定員に満たない場合、追加で補充を行います。希望する学生は、授業を実施している教場に直接来てください。補充の実施の有無および結果は学習支援システム上で通知します。

【Outline (in English)】

Outline and objectives:

This course aims to help students acquire the knowledge and skills necessary to engage in physical activity with others through structured exercise. The course mainly emphasizes the value of recreation in daily life, with racket sports as the primary activity. While various types of exercise and equipment are used, the physical intensity is moderate, making the course suitable even for students without prior exercise habits.

Goal:

By the end of the course, students should be able to:

1. Understand safe exercise practices through physical activity.
2. Develop skills to engage in physical activity with others according to individual ability.
3. Recognize changes in their physical condition while participating in sports.
4. Understand the significance and challenges of recreation in daily life

Work to be done outside of class:

The standard preparation and review time for each class is two hours. During the course period, students are expected to gather relevant information based on the class content, connecting it to their own daily lives. Any readings introduced will be expected to be completed as part of your review time.

Grading criteria:

1. Final grades will be based on the achievement of course goals (68%) and the completion and quality of assigned tasks (8%×4=32%).

2. If students submit none of the assignments, they will not receive credit.
3. Students must attend at least two-thirds of the total number of classes (i.e., at least 10 sessions) to receive course credit.
4. All assignments will be evaluated based on the following criteria:
 - Whether the student demonstrates an understanding of the assignment topic.
 - Whether the assignment appropriately reflects the course content.
 - Whether the assignment meets the format requirements of an academic report.
 - Whether sources are properly cited (i.e., no plagiarism or other forms of academic misconduct).

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

魚住 智広

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。主にラケット競技を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生も十分に受講可能です。

【到達目標】

1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 日常生活におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を期限内に提出してください。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	（講義）スケジュール、成績評価、受講上の注意点
第2回	バドミントン①	ルール
第3回	バドミントン②	道具操作
第4回	バドミントン③	基礎動作
第5回	地域の生活とスポーツ	（講義）開発、観光のまなざし、ジェントリフィケーション
第6回	メガスポーツイベント	（講義）レガシー、ショック・ドクトリン、ナショナリズム
第7回	卓球①	道具操作、ルール
第8回	卓球②	基礎動作、サーブ
第9回	ピククルボール①	道具操作、ルール
第10回	ピククルボール②	基礎動作
第11回	トレーニング①	器具の使用法
第12回	トレーニング②	基礎動作
第13回	障害とスポーツ	（講義）感動ポルノ、社会モデル、インペアメント
第14回	差別とスポーツ	（講義）歪められたカテゴリー、構造的差別、アクティビズム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受講期間中は、授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介しますので、復習時間に精読してください。

【テキスト（教科書）】

特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

【参考書】

授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】

1. 実技授業の目標達成度（68%）、講義授業後に提出する課題（8%×4=32%）の総合評価とします。
2. 講義授業後の課題がすべて未提出の場合は単位を取得できません（講義授業後の課題を1つ以上提出することを単位取得の条件とします）。
3. 出席回数が授業実施回数の2/3（10回出席）に満たない場合は単位を取得できません。
4. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
 - ・課題の内容を理解したものであるか
 - ・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
 - ・レポートの体裁をなしたものであるか
 - ・適切な引用がなされているか（盗用・剽窃などの不正行為をしていないか）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートより「適度な運動だけでなく、座学もあり、スポーツを歴史的観点で捉えることができるいい授業であった」「身体を動かす機会が大学生になってほとんどなくなっていたため、健康のためにも体を動かすことが出来てよかった」「能力差もカバーするような内容にしていたのでよかった」等の回答がありました。本授業は、スポーツに関する人文社会科学の最新の研究動向を踏まえ、授業内容を随時更新します。また、戸籍上の性別に基づくグループ分けを行わず、誰もが安心・安全に授業を受講できることをなによりも重視します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて課題提出を行います。課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】

本授業は定員制授業です。

- ①受講を希望する学生は、第1回目の授業の前々日23:59までに、学習支援システム上で希望する授業を「仮登録」してください。
 - ②仮登録者数が定員数を超え、選抜が必要と判断された場合は、第1回目の授業の前日に選抜を実施します。
 - ③第1回授業の前日23:59までに、学習支援システム上で受講許可者を発表します。
- また受講生が定員に満たない場合、追加で補充を行います。希望する学生は、授業を実施している教場に直接来てください。補充の実施の有無および結果は学習支援システム上で通知します。

【Outline (in English)】

Outline and objectives:

This course aims to help students acquire the knowledge and skills necessary to engage in physical activity with others through structured exercise. The course mainly emphasizes the value of recreation in daily life, with racket sports as the primary activity. While various types of exercise and equipment are used, the physical intensity is moderate, making the course suitable even for students without prior exercise habits.

Goal:

By the end of the course, students should be able to:

1. Understand safe exercise practices through physical activity.
2. Develop skills to engage in physical activity with others according to individual ability.
3. Recognize changes in their physical condition while participating in sports.
4. Understand the significance and challenges of recreation in daily life

Work to be done outside of class:

The standard preparation and review time for each class is two hours. During the course period, students are expected to gather relevant information based on the class content, connecting it to their own daily lives. Any readings introduced will be expected to be completed as part of your review time.

Grading criteria:

1. Final grades will be based on the achievement of course goals (68%) and the completion and quality of assigned tasks ($8\% \times 4 = 32\%$).
2. If students submit none of the assignments, they will not receive credit.
3. Students must attend at least two-thirds of the total number of classes (i.e., at least 10 sessions) to receive course credit.
4. All assignments will be evaluated based on the following criteria:
 - Whether the student demonstrates an understanding of the assignment topic.
 - Whether the assignment appropriately reflects the course content.
 - Whether the assignment meets the format requirements of an academic report.
 - Whether sources are properly cited (i.e., no plagiarism or other forms of academic misconduct).

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）		
スポーツ科学A		2017年度以降入学者
朝比奈 茂		
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：月3/Mon.3		
単位数：2単位		
定員制(20～30)		
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
近年の研究により、身体活動が健康の維持や疾病予防に及ぼす影響が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度に関する解釈は人によって異なり、運動の利点と欠点についても十分に認識されていないのが現状である。		
本講義では、日常的に取り組みやすい運動である「ウォーキング」と「ヨーガ」に焦点を当て、それらが健康促進や疾病予防にどのような影響を及ぼすのかを考察する。また、実践を交えながら、効果的な運動方法について具体的に解説する。		
【到達目標】		
1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。		
2. スポーツウォーキングについて説明できる。		
3. スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。		
4. スポーツウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。		
5. ヨーガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。		
6. ヨーガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べるができる。		
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。		
8. Meditation（瞑想）について概説し、実践することができる。		
9. スポーツ傷害について説明できる。		
10. ウォーキングおよびヨーガが自律神経におよぼす影響について説明できる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1		
【主な授業方法】		
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment		
【授業の進め方と方法】		
本講義は対面授業を基本として実施する。		
・ 授業に使用するレジュメは全て学習支援システムを通じて配布し、レジュメに沿って授業を進める。		
・ 毎回の授業のはじめに前回の授業内容を振り返ることで内容を深める。		
・ 授業のテーマに沿って周囲の学生と意見交換を行うことで自分の意見を確認する。		
・ 質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
あり / Yes		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス （対面）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。体格・身体組成の測定を行う。
2	体力測定 （講義および実習）	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	身体運動と健康 （講義）	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。 運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	ヨーガの哲学とアーサナー （講義および実習）	ヨーガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。
5	ヨーガの起源とアーサナー （講義および実習）	ヨーガの起源について概説し、アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
6	ヨーガと呼吸 （講義および実習）	ヨーガの呼吸法を身に付ける。呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
7	スポーツウォーキングの概要 （講義および実習）	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを説明する。スポーツウォーキングが健康に及ぼす影響やその役割を理解し実践する。
8	スポーツウォーキングと基本技術 （講義および実習）	歩行姿勢や膝の伸ばし、適正なストライドを意識しながら、バランスを取る技術、慣性を損なわずに推進力を高める技術、さらに重心を上下左右にぶれさせないための技術を理解し実践する。
9	スポーツウォーキングの基本姿勢 （講義および実習）	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクスの特徴と正確な歩行を理解し実践する。
10	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果 （講義および実習）	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。走り型にならないように注意する。
11	スポーツウォーキングと健康 （講義および実習）	スポーツウォーキングが生活習慣病の改善に果たす役割やその効果について説明する。また姿勢と速度を意識しながら実践する。
12	ヨーガと Meditation （瞑想） （講義および実習）	Meditation について概説し、ヨーガを実践することで Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨーガと健康 （講義および実習）	ヨーガが生活習慣病の改善に及ぼす役割や効果について説明する。また、基本ポーズを組み合わせ、連続した一連のヨーガとして実践する。
14	まとめ （講義：課題の提示）	スポーツウォーキング及びヨーガを実践した結果、心身にどのような変化が生じたかについて、ディスカッションを通じて総合的に振り返る。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
実習を行うにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に参加すること。		
毎回の講義で使用するレジュメ及び資料を参考に必ず予習・復習をすること。		
レジュメ及び資料は学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし授業に持参すること。		
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて授業中に伝達する。なお本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。		
【テキスト（教科書）】		
特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。		

【参考書】

佐保田鶴治．ヨーガ根本経典．平河出版社，1986
 佐保田鶴治．ヨーガ根本経典（続）．平河出版社，1986

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%
- 2) 期末レポート 20%
- 3) 授業への参画状況 20%

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
 ・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためDもしくはE評価とする。
 この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
 授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
 配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

授業に関する質問や相談は、授業中または授業の前後に受け付ける。
 それ以外については、随時メールにて対応する。
 オフィスアワーとして毎週月曜日の 16 時 50 分～18 時 30 分までの 100 分を設ける。
 オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールで連絡を取ること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

【Learning Objectives】

1. To be able to understand the significance of "walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.

【Learning activities outside of classroom】

Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

- 1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.
- 2) Final report: 20%.
- 3) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.

If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be "D" or "E".

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）		
スポーツ科学B		2017年度以降入学者
朝比奈 茂		
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：月3/Mon.3		
単位数：2単位		
定員制(20～30)		
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
近年の研究により、身体活動が健康の維持や疾病予防に及ぼす影響が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度に関する解釈は人によって異なり、運動の利点と欠点についても十分に認識されていないのが現状である。		
本講義では、日常的に取り組みやすい運動である「ウォーキング」と「ヨーガ」に焦点を当て、それらが健康促進や疾病予防にどのような影響を及ぼすのかを考察する。また、実践を交えながら、効果的な運動方法について具体的に解説する。		
【到達目標】		
1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。		
2. スポーツウォーキングについて説明できる。		
3. スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。		
4. スポーツウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。		
5. ヨーガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。		
6. ヨーガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べるができる。		
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。		
8. Meditation（瞑想）について概説し、実践することができる。		
9. スポーツ傷害について説明できる。		
10. ウォーキングおよびヨーガが自律神経におよぼす影響について説明できる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1		
【主な授業方法】		
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment		
【授業の進め方と方法】		
本講義は対面授業を基本として実施する。		
・授業に使用するレジュメは全て学習支援システムを通じて配布し、レジュメに沿って授業を進める。		
・毎回の授業のはじめに前回の授業内容を振り返ることで内容を深める。		
・授業のテーマに沿って周囲の学生と意見交換を行うことで自分の意見を確認する。		
・質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
あり / Yes		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス（対面）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。体格・身体組成の測定を行う。
2	体力測定（講義および実習）	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	身体運動と健康（講義）	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	ヨーガの哲学とアーサナー（講義および実習）	ヨーガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。
5	ヨーガの起源とアーサナー（講義および実習）	ヨーガの起源について概説し、アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
6	ヨーガと呼吸（講義および実習）	ヨーガの呼吸法を身に付ける。呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
7	スポーツウォーキングの概要（講義および実習）	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを説明する。スポーツウォーキングが健康に及ぼす影響やその役割を理解し実践する。
8	スポーツウォーキングと基本技術（講義および実習）	歩行姿勢や膝の伸ばし、適正なストライドを意識しながら、バランスを取る技術、慣性を損なわずに推進力を高める技術、さらに重心を上下左右にぶれさせないための技術を理解し実践する。
9	スポーツウォーキングの基本姿勢（講義および実習）	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクスの特徴と正確な歩行を理解し実践する。
10	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果（講義および実習）	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。走り型にならないように注意する。
11	スポーツウォーキングと健康（講義および実習）	スポーツウォーキングが生活習慣病の改善に果たす役割やその効果について説明する。また姿勢と速度を意識しながら実践する。
12	ヨーガと Meditation（瞑想）（講義および実習）	Meditation について概説し、ヨーガを実践することで Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨーガと健康（講義および実習）	ヨーガが生活習慣病の改善に及ぼす役割や効果について説明する。また、基本ポーズを組み合わせ、連続した一連のヨーガとして実践する。
14	まとめ（講義：課題の提示）	スポーツウォーキング及びヨーガを実践した結果、心身にどのような変化が生じたかについて、ディスカッションを通じて総合的に振り返る。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
実習を行うにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に参加すること。毎回の講義で使用するレジュメ及び資料を参考に必ず予習・復習をすること。レジュメ及び資料は学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし授業に持参すること。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて授業中に伝達する。なお本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。		
【テキスト（教科書）】		
特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。		

【参考書】

佐保田鶴治．ヨーガ根本経典．平河出版社，1986
 佐保田鶴治．ヨーガ根本経典（続）．平河出版社，1986

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%
- 2) 期末レポート 20%
- 3) 授業への参画状況 20%

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
 ・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためDもしくはE評価とする。
 この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
 授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
 配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

授業に関する質問や相談は、授業中または授業の前後に受け付ける。
 それ以外については、随時メールにて対応する。
 オフィスアワーとして毎週月曜日の 16 時 50 分～18 時 30 分までの 100 分を設ける。
 オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールで連絡を取ること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

【Learning Objectives】

1. To be able to understand the significance of "walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.

【Learning activities outside of classroom】

Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

- 1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.
- 2) Final report: 20%.
- 3) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.

If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be "D" or "E".

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）	
スポーツ科学A	2017年度以降入学者
佐藤 優希	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木1/Thu.1	
単位数：2単位	
定員制(20～30)	
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、バドミントンに関する内容だけでなく、スポーツ全般に共通するスポーツ科学的な内容（スポーツ心理、栄養、トレーニング等）も含めて授業を進める。

評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	ラケットとシャトルを使った遊び、シャトルコンタクトについて学ぶ（グループワークおよび実習）
3	ラケットの操作	基本的なストロークを学ぶための下準備としてラケットの握り方を学ぶ（講義及び実習）
4	コート内での身体操作	バドミントンコート内での移動法やステップ、脚の入れ替えを学ぶ（講義及び実習）
5	基本ストロークの学習	ドライブ、ハイクリア&ヘアピン、ドロップ&ロビング、ブッシュ&レシーブ、スマッシュ&レシーブについて学ぶ（講義及び実習）

6	バドミントンの歴史を知る	バドミントンの歴史やルールの変遷について学ぶ（講義および実習）
7	バドミントンの科学的な理解	バイオメカニクスおよび運動生理学の視点からバドミントンを科学的に学ぶ（講義および実習）
8	応用技術	オールショート・オールロングを通じて基本ストロークおよびコート内での移動法を実践する（講義および実習）
9	コンディショニングを学ぶ	心身の調子を整える（コンディショニング）ための方法をスポーツ心理、栄養、トレーニングの観点から学ぶ（講義）
10	シングルス	シングルのルールと動き方を学ぶ（講義及び実習）
11	ダブルス	ダブルスのルールとフォーメーションを学ぶ（講義および実習）
12	ダブルスの戦術	トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴナルを学ぶ（講義および実習）
13	トリプルス	トリプルのルールとフォーメーションを学ぶ（講義及び実習）
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間以上です。実習を行うにあたり、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のバドミントン関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60%、課題・レポート40%の配分として総合評価します。

授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくない。ただし、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 指定感染症による欠席の場合、出席可能となった授業時にその旨について、担当教員に報告してください。なお、病気・怪我による欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. バドミントンの未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】

- 1.原則として対面授業を実施する予定です。学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
- 2.授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
- 3.授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
- 4.上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。
- 5.授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.

Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on two points.

(1) Participation in class activities and class attitude: 60%.

(2) Report on the lecture: 40%.

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）	
スポーツ科学B	2017年度以降入学者
佐藤 優希	
開講時期：秋学期授業/Fall	曜日・時限：木1/Thu.1
単位数：2単位	
定員制（20～30）	
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、バドミントンに関する内容だけでなく、スポーツ全般に共通するスポーツ科学的な内容（スポーツ心理、栄養、トレーニング等）も含めて授業を進める。

評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	ラケットとシャトルを使った遊び、シャトルコンタクトについて学ぶ（グループワークおよび実習）
3	ラケットの操作	基本的なストロークを学ぶための下準備としてラケットの握り方を学ぶ（講義及び実習）
4	コート内での身体操作	バドミントンコート内での移動法やステップ、脚の入れ替えを学ぶ（講義及び実習）
5	基本ストロークの学習	ドライブ、ハイクリア&ヘアピン、ドロップ&ロビング、ブッシュ&レシーブ、スマッシュ&レシーブについて学ぶ（講義及び実習）

6	バドミントンの歴史を知る	バドミントンの歴史やルールの変遷について学ぶ（講義および実習）
7	バドミントンの科学的な理解	バイオメカニクスおよび運動生理学の視点からバドミントンを科学的に学ぶ（講義および実習）
8	応用技術	オールショート・オールロングを通じて基本ストロークおよびコート内での移動法を実践する（講義および実習）
9	コンディショニングを学ぶ	心身の調子を整える（コンディショニング）ための方法をスポーツ心理、栄養、トレーニングの観点から学ぶ（講義）
10	シングルス	シングルのルールと動き方を学ぶ（講義及び実習）
11	ダブルス	ダブルスのルールとフォーメーションを学ぶ（講義および実習）
12	ダブルスの戦術	トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴナルを学ぶ（講義および実習）
13	トリプルス	トリプルのルールとフォーメーションを学ぶ（講義及び実習）
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間以上です。実習を行うにあたり、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のバドミントン関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60%、課題・レポート40%の配分として総合評価します。

授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくない。

ただし、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。

4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

5. 指定感染症による欠席の場合、出席可能となった授業時にその旨について、担当教員に報告してください。なお、病気・怪我による欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. バドミントンの未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】

- 1.原則として対面授業を実施する予定です。学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
- 2.授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
- 3.授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
- 4.上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。
- 5.授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.

Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on two points.

(1) Participation in class activities and class attitude: 60%.

(2) Report on the lecture: 40%.

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

吉田 康伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、バレーボールに関する動向（歴史）やルール、各技術の正しいやり方などの知識について、実習および講義を通して理解を深めていく。

【到達目標】

- ①ルールや技術など、バレーボールに関する基礎的な知識を知る。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ること、協調性を育む。
- ③基本技術を取得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習では、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合を展開できるように、基本となるパスやスパイクなど個人技術の習得を進めながら、チームを編成して試合を行っていく。併せてルールや各技術の正しい方法、試合の組み立て方などについても理解を深めていく。

なお、本授業は2年生以上を対象としており、A・B連続の受講が望ましい。また未経験の場合でも、積極的に受講してくれる学生の参加を期待する。

授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第2回	受講者決定、バレーボールのルールについて（講義）	バレーボールのルールについて資料を配布し説明する。
第3回	基本技術・パスの技術習得（実習&講義）	パスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第4回	基本技術・サーブの技術習得（実習&講義）	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第5回	基本技術・スパイクの技術習得（実習&講義）	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第6回	ゲームの組み立て方（実習&講義）	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。
第7回	フォーメーションについて（実習&講義）	コート上の位置取りや実際の動き方など、フォーメーションについて理解する。

第8回	集団的技術・各ポジションの役割（実習&講義）	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第9回	集団的技術（三段攻撃の使用）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（三段攻撃を用いる）を立ててゲームを行う。
第10回	集団的技術（レシーブのフォーメーション重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（レシーブのフォーメーション）を立ててゲームを行う。
第11回	集団的技術（サーブ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（サーブ）を立ててゲームを行う。
第12回	集団的技術（チームコミュニケーション重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（チームコミュニケーション）を立ててゲームを行う。
第13回	集団的技術（総合）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（総合的に）を立ててゲームを行う。
第14回	授業総括と筆記試験	授業の総括を行った後、筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、基本的なルールや技術に必要な要点等、各自で行った内容を理解しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（60％）を主な基準として、筆記試験（40％）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえるよう努める。

【その他の重要事項】

- ・対象者は2年生から4年生で公開科目を受講可能な学生とする。
- ・バレーボール現SVリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. In addition, we will deepen our understanding of practical knowledge and lectures on knowledge of volleyball history, rules, correct methods of each technology and so on.

【Learning Objectives】

- 1.Learn basic knowledge about volleyball, such as rules and techniques.
- 2.Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
- 3.You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
- 4.Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.

【Learning activities outside of classroom】

Understand what you have done, such as the basic rules and the main points required for the technique. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/policy】

The participation status in the class is evaluated as 60%, and the written test is evaluated as 40%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

吉田 康伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

定員制（20～30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、インドアバレーとビーチ（アウトドア）バレーとの違いなど、バレーボール全般についての理解を深める。

【到達目標】

- ①インドアバレーとビーチバレーとの特性の違いを理解する。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることが目的とする。

実習では、春学期Aで習得した技術や知識を基に、チーム編成を行って試合を中心に授業を進める。またビーチバレーやバレーボールに必要なトレーニングなども紹介し、より一層の知識習得と理解の深化を目指す。

なお、本授業（スポーツ科学B）は2年生以上を対象としており、スポーツ科学Aを受講した学生の連続受講が望ましい。

また授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス及びビーチバレーのルールについて（講義）	授業のガイダンスを行い、ビーチバレーの歴史やルールについて資料を配布し説明する。
第2回	基本的な動きとボールに慣れる（実習&講義）	スポーツ科学Bからの受講者のために各技術の基本を説明する。
第3回	基本技術の復習（実習&講義）	スポーツ科学Aで行った基本技術を復習する。
第4回	基本技術、集団技術の復習（実習&講義）	スポーツ科学Aで行った基本的技術や集団技術を復習する。
第5回	各技術の応用（実習&講義）	各技術の基本を元に応用技術を理解、習得する。
第6回	集団的技術・基礎（実習&講義）	スポーツ科学Aとは違うチーム分けをし、チームごとにポジションを決定させてゲームを行う。
第7回	集団的技術（サーブ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（サーブ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第8回	集団的技術（レセプション戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（レセプション）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。

第9回	集団的技術（トスアップ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（トスアップ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第10回	集団的技術（ディグ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（ディグ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第11回	集団的技術（スパイク戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（スパイク）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第12回	集団的技術（ブロック戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（ブロック）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第13回	集団的技術（総合的）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（総合的に）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第14回	授業総括とレポート作成、提出	授業の総括を行った後、レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、インドアバレーとビーチバレーとの違い等を理解し、試合観戦やテレビ放送を通してバレーボール全般についての理解を深める努力を求める。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（70%）を主な基準として、授業内でのレポート（30%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえるよう努める。

【その他の重要事項】

- ・対象者は2年生から4年生で公開科目を受講可能な学生とする。
- ・バレーボール現SVリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. Also, deepen the understanding of the entire volleyball, such difference between indoor volleyball and beach volleyball.

【Learning Objectives】

- 1.Understand the differences between the characteristics of indoor volleyball and beach volleyball.
- 2.Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
- 3.You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
- 4.Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.

【Learning activities outside of classroom】

Investigate the difference between indoor volleyball and beach volleyball and the physical fitness factors required for competition. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/policy】

The participation status in the class is evaluated as 70%, and the report is evaluated as 30%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）	
スポーツ科学A	2017年度以降入学者
中澤 史	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：金3/Fri.3
単位数：2単位	
定員制(20～30)	
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの基礎的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【到達目標】

1. トレーニングの基礎的な理論と方法を習得する。
2. 目標達成に寄与する独自のトレーニングプログラムを考案し、実践する。
3. トレーニング効果を促進する栄養、サプリメントなどに関する知識を習得する。
4. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本授業の主な流れは次の通りである。①授業の初期では、安全講習、トレーニングの理論の学習、トレーニング目標の設定等に取り組む。②各授業では、トレーニング効果を促進する栄養、サプリメント等について学習した後、トレーニング実習に取り組み、トレーニング内容を記録するとともに、授業から得た知識や気づき等をリアクションペーパーにまとめる。③最終授業では、各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの成果をレポートにまとめる。最終授業時にリアクションペーパー等の課題に関する講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定等を行う（講義）
2	トレーニングの理論と実習1	安全講習及び各種機器の使用方法を学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
3	トレーニングの理論と実習2	体組成の測定及びトレーニング目標を設定した後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
4	グループワーク1	描画法を用いたグループワークに取り組む（講義）
5	グループワーク2	グループワークを通して「他者からみた私」を知る（講義）
6	トレーニングの理論を学ぶ	トレーニングの理論と実践方法を学ぶ（講義）

7	トレーニングの理論と実習3	サプリメントとその摂取方法について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
8	トレーニングの理論と実習4	栄養不足が招く悪影響について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
9	トレーニングの理論と実習5	スポーツ現場での栄養指導について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
10	トレーニングの理論と実習6	栄養摂取のポイントについて学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
11	トレーニングの理論と実習7	アミノ酸の役割について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
12	トレーニングの理論と実習8	脂質の役割について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
13	トレーニングの理論と実習9	糖質の役割について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
14	総括、トレーニングの理論と実習10	体組成とトレーニング記録を測定した後、レポートの作成に取り組む（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次の学習活動への取り組みを推奨します。

1. 計画的なトレーニングを実践する。
2. 食事と睡眠時間を記録する。
3. トレーニング、栄養、睡眠に関する資料を読む。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

1. ①授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパーが80%、②課題・レポートが20%の配分として総合評価します。
2. 本授業ではトレーニング記録の測定・収集・分析等を行う性質上、やむを得ない理由がない限り、全回出席を原則とします。やむを得ない理由による欠席とは、インフルエンザ等の感染症や冠婚葬祭等による欠席を指します。やむを得ない理由によって欠席した場合、証明書類（診断書等の欠席理由を明記した資料）を提出してください。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
4. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。課題・レポートでは、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
5. 授業内容の説明や受講者の決定等を実施するため、必ず初回授業から出席してください。また、授業とは無関係な行為（携帯電話の使用、私語、食事等）は禁止します。

【学生の意見等からの気づき】

多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

1. トレーニングに適した服装と室内用シューズを準備してください。トレーニングウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 学習支援システムに接続可能で、課題を作成・提出することができる機器を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に受講者（30名程度）を決定します。本授業の受講希望者は必ず初回授業に参加してください。
2. 授業目標の達成にはトレーニングの継続が不可欠となるため、スポーツ科学A・Bの通年履修が理想的です。
3. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館5階の予定です。
4. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、オンライン授業等に変更される場合があるため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
5. 授業計画は受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students learn the basic theory and methods of physical training that contribute to the achievement of own goals, such as performance enhancement, body makeup, dieting, and health maintenance and improvement, and devise their own training program. Students will also understand that training activities that contribute to physical health can also be a means of contributing to psychological and social health.

【Learning Objectives】

- 1.to learn the basic theory and methods of training.
- 2.to devise and implement original training program that contributes to the achievement of own goals.
- 3.to acquire knowledge of nutrition and supplements to promote the effects of training.
- 4.to understand that training is a means of contributing not only to physical health but also to psychological and social health.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.

- 1.to practice systematic training.
- 2.to record your meals and sleeping hours.
- 3.to read material on training, nutrition and sleep.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

- 1.Participation in class and submission of reaction papers and other materials : 80%.
- 2.Report assignments : 20%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの実践的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【到達目標】

1. 実践的なトレーニングの理論と方法を習得する。
2. 目標達成に資する効果的且つ実践的なトレーニングプログラムを考案し、実践する。
3. トレーニング効果を促進するリカバリー、栄養摂取、睡眠の方法などに関する知識を習得する。
4. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本授業の主な流れは次の通りである。①授業の初期では、トレーニングの理論に関する学習やトレーニング目標の設定等に取り組む。②各授業では、トレーニング効果を促進するリカバリーの手法、睡眠、栄養、減量のポイント等について学習した後、トレーニング実習に取り組み、その内容を記録するとともに、授業から得た知識や気づき等をリアクションペーパーにまとめる。③最終授業では、各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの成果をレポートにまとめる。最終授業時にリアクションペーパー等の課題に関する講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明及び受講者の決定を行う（講義）
2	トレーニングの理論と実習1	安全講習及び各種機器の使用方法を学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
3	トレーニングの理論と実習2	体組成の測定及びトレーニング目標を設定した後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
4	トレーニングに関する教養教育1	スポーツ傷害に関する予備知識を習得する（講義）
5	トレーニングに関する教養教育2	トレーニング効果を高める予備知識を習得する（講義）
6	トレーニングに関する教養教育3	栄養、発汗、睡眠に関する予備知識を習得する（講義）

7	トレーニングの理論と実習3	睡眠の質について学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
8	トレーニングの理論と実習4	睡眠時間と就寝法について学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
9	トレーニングの理論と実習5	リカバリーとトレーニングの関係について学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
10	トレーニングの理論と実習6	生体リズムと体内時計について学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
11	トレーニングの理論と実習7	最終目標から逆算した栄養戦略について学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
12	トレーニングの理論と実習8	減量のポイントについて学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
13	トレーニングの理論と実習9	増量のポイントについて学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
14	総括、トレーニングの理論と実習10	体組成とトレーニング記録を測定した後、レポートの作成に取り組む（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次の学習活動への取り組みを推奨します。

1. 計画的なトレーニングを実践する。
2. 食事と睡眠時間を記録する。
3. トレーニング、栄養、睡眠に関する資料を読む。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

1. ①授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパーが80%、②課題・レポートが20%の配分として総合評価します。
2. 本授業ではトレーニング記録の測定・収集・分析等を行う性質上、やむを得ない理由がない限り、全回出席を原則とします。やむを得ない理由による欠席とは、インフルエンザ等の感染症や冠婚葬祭等による欠席を指します。やむを得ない理由によって欠席した場合、証明書類（診断書等の欠席理由を明記した資料）を提出してください。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
4. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。課題・レポートでは、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
5. 授業内容の説明や受講者の決定等を実施するため、必ず初回授業から出席してください。また、授業とは無関係な行為（携帯電話の使用、私語、食事等）は禁止します。

【学生の意見等からの気づき】

新規の人間関係の構築を目的とした体験型学習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

1. トレーニングに適した服装と室内用シューズを準備してください。トレーニングウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 学習支援システムに接続可能で、課題を作成・提出することができる機器を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に受講者（30名程度）を決定するため、本授業の受講希望者は必ず初回授業に参加してください。なお、授業目標の達成にはトレーニングの継続が不可欠となるため、スポーツ科学Bの履修者は春学期からの継続履修の学生を優先的に採用し、秋学期については春学期からの欠員分のみを採用します。
2. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館地下にあるトレーニングセンターの予定です。
3. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、オンライン授業等に変更される場合があるため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
4. 授業計画は受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will acquire practical theories and methods of physical training that contribute to achieving individual goals such as performance enhancement, body sculpting, weight loss, and health maintenance and improvement, and will design their own training programs. Students will also understand that training activities that contribute to physical health can also be a means of contributing to psychological and social health.

【Learning Objectives】

1. to acquire practical training theory and methods
2. to devise and implement effective and practical training program that contribute to the achievement of own goals.
3. to acquire knowledge of recovery, nutrition and sleep methods that promote the effects of training.
4. to understand that training is a means of contributing not only to physical health, but also to psychological and social health.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.

1. to practice systematic training.
2. to record your meals and sleeping hours.
3. to read material on training, nutrition and sleep.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

1. Participation in class and submission of reaction papers and other materials : 80%.
2. Report assignments : 20%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

魚住 智広

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。主にラケット競技を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生も十分に受講可能です。

【到達目標】

1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 日常生活におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を期限内に提出してください。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	（講義）スケジュール、成績評価、受講上の注意点
第2回	バドミントン①	ルール
第3回	バドミントン②	道具操作
第4回	バドミントン③	基礎動作
第5回	卓球①	道具操作、ルール
第6回	卓球②	基礎動作、サーブ
第7回	ピククルボール①	道具操作、ルール
第8回	ピククルボール②	基礎動作
第9回	消費とスポーツ	（講義）余暇、記号、物語
第10回	教育とスポーツ	（講義）「効果」の誤認、規格化、体罰
第11回	社会階層とスポーツ	（講義）社会移動、ハビトゥス、再生産
第12回	ピククルボール③	戦術、ポジショニング
第13回	卓球③	ダブルスの動き方
第14回	科学とスポーツ	（講義）必然性、客観性、合理性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受講期間中は、授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介しますので、復習時間に精読してください。

【テキスト（教科書）】

特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

【参考書】

授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】

1. 実技授業の目標達成度（68%）、講義授業後に提出する課題（8%×4=32%）の総合評価とします。
2. 講義授業後の課題がすべて未提出の場合は単位を取得できません（講義授業後の課題を1つ以上提出することを単位取得の条件とします）。
3. 出席回数が授業実施回数の2/3（10回出席）に満たない場合は単位を取得できません。
4. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
 - ・課題の内容を理解したものであるか
 - ・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
 - ・レポートの体裁をなしたものであるか
 - ・適切な引用がなされているか（盗用・剽窃などの不正行為をしていないか）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートより「適度な運動だけでなく、座学もあり、スポーツを歴史的観点で捉えることのできるいい授業であった」「身体を動かす機会が大学生になってほとんどなくなっていたため、健康のためにも体を動かすことが出来てよかった」「能力差もカバーするような内容にいただいたのでよかった」等の回答がありました。本授業は、スポーツに関する人文社会科学の最新の研究動向を踏まえ、授業内容を随時更新します。また、戸籍上の性別に基づくグループ分けを行わず、誰もが安心・安全に授業を受講できることをなによりも重視します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて課題提出を行います。課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】

本授業は定員制授業です。

- ①受講を希望する学生は、第1回目の授業の前々日23:59までに、学習支援システム上で希望する授業を「仮登録」してください。
 - ②仮登録者数が定員数を超え、選抜が必要と判断された場合は、第1回目の授業の前日に選抜を実施します。
 - ③第1回授業の前日23:59までに、学習支援システム上で受講許可者を発表します。
- また受講生が定員に満たない場合、追加で補充を行います。希望する学生は、授業を実施している教場に直接来てください。補充の実施の有無および結果は学習支援システム上で通知します。

【Outline (in English)】

Outline and objectives:

This course aims to help students acquire the knowledge and skills necessary to engage in physical activity with others through structured exercise. The course mainly emphasizes the value of recreation in daily life, with racket sports as the primary activity. While various types of exercise and equipment are used, the physical intensity is moderate, making the course suitable even for students without prior exercise habits.

Goal:

By the end of the course, students should be able to:

1. Understand safe exercise practices through physical activity.
2. Develop skills to engage in physical activity with others according to individual ability.
3. Recognize changes in their physical condition while participating in sports.
4. Understand the significance and challenges of recreation in daily life

Work to be done outside of class:

The standard preparation and review time for each class is two hours. During the course period, students are expected to gather relevant information based on the class content, connecting it to their own daily lives. Any readings introduced will be expected to be completed as part of your review time.

Grading criteria:

1. Final grades will be based on the achievement of course goals (68%) and the completion and quality of assigned tasks (8%×4=32%).

2. If students submit none of the assignments, they will not receive credit.
3. Students must attend at least two-thirds of the total number of classes (i.e., at least 10 sessions) to receive course credit.
4. All assignments will be evaluated based on the following criteria:
 - Whether the student demonstrates an understanding of the assignment topic.
 - Whether the assignment appropriately reflects the course content.
 - Whether the assignment meets the format requirements of an academic report.
 - Whether sources are properly cited (i.e., no plagiarism or other forms of academic misconduct).

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

魚住 智広

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。主にラケット競技を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生も十分に受講可能です。

【到達目標】

1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 日常生活におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を期限内に提出してください。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	（講義）スケジュール、成績評価、受講上の注意点
第2回	バドミントン①	ルール
第3回	バドミントン②	道具操作
第4回	バドミントン③	基礎動作
第5回	ピククルボール①	道具操作、ルール
第6回	ピククルボール②	基礎動作
第7回	ピククルボール③	戦術、ポジショニング
第8回	ピククルボール④	ダブルスゲーム
第9回	地域の生活とスポーツ	（講義）開発、観光のまなざし、ジェントリフィケーション
第10回	メガスポーツイベント	（講義）レガシー、ショック・ドクトリン、ナショナルリズム
第11回	障害とスポーツ	（講義）感動ポルノ、社会モデル、インペアメント
第12回	卓球①	道具操作、ルール
第13回	卓球②	基礎動作、サーブ
第14回	差別とスポーツ	（講義）歪められたカテゴリー、構造的差別、アクティビズム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受講期間中は、授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介いたしますので、復習時間に精読してください。

【テキスト（教科書）】

特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

【参考書】

授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】

1. 実技授業の目標達成度（68%）、講義授業後に提出する課題（8%×4=32%）の総合評価とします。
2. 講義授業後の課題がすべて未提出の場合は単位を取得できません（講義授業後の課題を1つ以上提出することを単位取得の条件とします）。
3. 出席回数が授業実施回数の2/3（10回出席）に満たない場合は単位を取得できません。
4. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
 - ・課題の内容を理解したものであるか
 - ・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
 - ・レポートの体裁をなしたものであるか
 - ・適切な引用がなされているか（盗用・剽窃などの不正行為をしていないか）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートより「適度な運動だけでなく、座学もあり、スポーツを歴史的観点で捉えることができるいい授業であった」「身体を動かす機会が大学生になってほとんどなくなっていたため、健康のためにも体を動かすことが出来てよかった」「能力差もカバーするような内容にしていたのでよかった」等の回答がありました。本授業は、スポーツに関する人文社会科学の最新の研究動向を踏まえ、授業内容を随時更新します。また、戸籍上の性別に基づくグループ分けを行わず、誰もが安心・安全に授業を受講できることをなによりも重視します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて課題提出を行います。課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】

本授業は定員制授業です。

- ①受講を希望する学生は、第1回目の授業の前々日23:59までに、学習支援システム上で希望する授業を「仮登録」してください。
 - ②仮登録者数が定員数を超え、選抜が必要と判断された場合は、第1回目の授業の前日に選抜を実施します。
 - ③第1回授業の前日23:59までに、学習支援システム上で受講許可者を発表します。
- また受講生が定員に満たない場合、追加で補充を行います。希望する学生は、授業を実施している教場に直接来てください。補充の実施の有無および結果は学習支援システム上で通知します。

【Outline (in English)】

Outline and objectives:

This course aims to help students acquire the knowledge and skills necessary to engage in physical activity with others through structured exercise. The course mainly emphasizes the value of recreation in daily life, with racket sports as the primary activity. While various types of exercise and equipment are used, the physical intensity is moderate, making the course suitable even for students without prior exercise habits.

Goal:

By the end of the course, students should be able to:

1. Understand safe exercise practices through physical activity.
2. Develop skills to engage in physical activity with others according to individual ability.
3. Recognize changes in their physical condition while participating in sports.
4. Understand the significance and challenges of recreation in daily life

Work to be done outside of class:

The standard preparation and review time for each class is two hours. During the course period, students are expected to gather relevant information based on the class content, connecting it to their own daily lives. Any readings introduced will be expected to be completed as part of your review time.

Grading criteria:

1. Final grades will be based on the achievement of course goals (68%) and the completion and quality of assigned tasks ($8\% \times 4 = 32\%$).
2. If students submit none of the assignments, they will not receive credit.
3. Students must attend at least two-thirds of the total number of classes (i.e., at least 10 sessions) to receive course credit.
4. All assignments will be evaluated based on the following criteria:
 - Whether the student demonstrates an understanding of the assignment topic.
 - Whether the assignment appropriately reflects the course content.
 - Whether the assignment meets the format requirements of an academic report.
 - Whether sources are properly cited (i.e., no plagiarism or other forms of academic misconduct).

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）		
スポーツ科学A		2017年度以降入学者
伊藤 マモル		
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木3/Thu.3		
単位数：2単位		
定員制(20～30)		
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
本授業は、隠れ肥満や運動不足によって低下した身体機能を、健康づくりの三本柱である「ストレッチング」「ジョギング」「ストレングス（筋力トレーニング）」を通して改善し、心身のコンディショニングを整えることを目的としたアクティブラーニング型の科目です。		
受講者自身が体を動かしながら学ぶ実践的なプログラムを通して、コンディショニングに関する基礎的な知識と、日常生活に応用できる実践力を身につけます。2年生以上の学生を対象とし、自らの健康管理を主体的に行うためのスキル習得を目指します。		
【到達目標】		
1. トレーニングの原理・原則および運動の功罪を理解している。		
2. スマートフォンアプリ等を用いて、身体コンディショニングに関わる測定と記録が正しく行える。		
3. ストレッチングを目的に応じて正しく実践できる。		
4. ジョギングまたはウォーキングを安全かつ適切なフォームで行える。		
5. ストレングストレーニングを安全に実施し、その効果をレポートとしてまとめられる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1		
【主な授業方法】		
E 実験/実習/実技 /Experiment、S 演習/ゼミ /Seminar		
【授業の進め方と方法】		
以下に示した内容を授業のルーチンとして行います。		
1) シェイプアップにかかわる運動科学の知識と実践に関するショートレクチャーを行う		
2) ウォームアップ時にセルフコンディショニングチェックを行う		
3) 授業のテーマに取り組む		
4) ウォームダウンを行う		
5) リアクションペーパーを提出する		
授業の連絡、学生からの質疑、フィードバックに関しては、Googleクラスルームまたはe-mailやLINEを通じて行う予定です。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
あり / Yes		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス	＜教室＞ ①授業概要と到達目標の説明 ②受講者の決定 ③使用する施設・器材についての解説
2	身体組成と柔軟性の測定	＜トレセン＞ ①Inbodyを用いて、基礎代謝と身体組成を測定と評価を行う ②柔軟性の測定と評価
3	シェイプアップ・トレーニングⅠ	＜トレセン＞ ①ストレッチングを主としたコンディショニングを実践する ②実施した運動を記録する
4	筋力の測定	＜トレセン＞ ストレングスマシンを利用した筋力測定と評価を行う
5	シェイプアップ・トレーニングⅡ	＜トレセン＞ ①ストレングスマシンを主としたトレーニングの実践（大きな筋を刺激する種目） ②実施した運動を記録する
6	有酸素能力の測定	＜トレセン＞ ①ウォーキングまたはジョギングによる活動量を調べるための測定を行う ②測定結果を運動強度から分析し評価を行う
7	シェイプアップ・トレーニングⅢ	＜大学周辺＞ ①カルボーネン法による運動強度にしたがったウォーキングまたはジョギングを行う ②身体組成、活動量を測定し評価する
8	シェイプアップ・トレーニングⅣ	＜大学周辺＞ ①ウォーキングまたはジョギングを行う ②身体組成、活動量を測定し評価する
9	シェイプアップ・トレーニングⅤ	＜トレセン＞ ①メディシンボールを主としたトレーニングの実践 ②実施した運動を記録する
10	シェイプアップ・トレーニングⅥ	＜トレセン＞ ①バランスボールを主としたトレーニングの実践 ②実施した運動を記録する
11	シェイプアップ・トレーニングⅦ	＜大学周辺＞ ①ボルグ指数を意識したウォーキングまたはジョギングを行う ②身体組成、活動量を測定し評価する
12	シェイプアップ・トレーニングⅧ	＜トレセン＞ ①ストレングスマシンを主としたトレーニングの実践（小さな筋を刺激する種目） ②実施した運動を記録する
13	シェイプアップ・トレーニングⅨ	＜トレセン＞ ①ストレングスマシンを主としたトレーニングの実践（ピラミッド法を用いる） ②実施した運動を記録する
14	総括・レポート作成	＜トレセン＞ ①春学期に取り組んだ学修過程をまとめたレポートを提出する ②春学期を総括する
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示します。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。		
具体的には、授業外でトレーニングセンターや自宅において授業で扱ったトレーニング等の課題を再学修してください。		
特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも自分自身の変化を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。		
【テキスト（教科書）】		
必要に応じて資料等を配布します。		
【参考書】		
必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。		
1. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書		
2. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社		
3. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社		
4. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版		

5. 山本ケイイチ著, 仕事ができる人はなぜ筋トレをするか, 幻冬舎新書
6. 山本利春著, 疲れたときは、からだを動かす, 岩波書店
7. 吉江和彦著, エグゼクティブが身体を鍛えるワケ, グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した5項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. 授業中のトレーニングへの参画状況：30%
2. リアクションペーパー：30%
3. 春学期の学修過程をまとめたレポート：40%

この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

- 1) スポーツウエア：運動を安全で効率的に実践できる
- 2) スマートフォン：活動量や心拍数を計測できるアプリケーションが利用可能
- 3) タオル：汗を拭いたりストレッチの補助として使えるため、衛生面と実技の安全性向上に役立つ
- 4) 飲料（水またはスポーツドリンク）：脱水や熱中症を防ぎ、安全に運動を継続するために必要である
- 5) 必須ではないが、活動量計（スマートウォッチ等）：心拍数や歩数を正確に把握でき、学習記録や自己管理の精度を高められる
- 6) 筆記用具（またはタブレット）：セルフチェックや気づきの記録、リアクションペーパー作成に必要である
- 7) 室内用・屋外用シューズ：トレーニング施設のルールに対応し、安全に実技を行うために求められる
- 8) 替えのウエア：汗をかいた後に着替えることで、衛生的かつ快適に授業を継続できる
- 9) 小型ビニール袋またはランドリーバッグ：汗で湿ったウエアを持ち帰る際の衛生管理のために必要である

【その他の重要事項】

1. 授業1回目のガイダンスにおいて、履修希望者が30名を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。

具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずに全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。

2. 1を踏まえ、スポーツ科学Bまでの継続履修を希望した者を優先的に選定します。

3. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This active-learning course aims to improve reduced physical functions caused by hidden obesity and lack of exercise through the three pillars of health promotion: stretching, jogging/walking, and strength training. Students learn foundational conditioning knowledge and practical skills through hands-on activities.

【Learning Objectives】

Students will be able to:

Understand fundamental training principles and the benefits and risks of exercise.

Conduct and record physical measurements using smartphone applications.

Perform stretching appropriately for specific purposes.

Execute jogging or walking safely with proper form.

Perform strength training safely and summarize its effects in a written report.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to review and practice exercises introduced in class at the Training Center or at home. They should monitor changes in body weight, body fat, body temperature, diet, hydration, sleep, and bowel movements, applying course learning continuously. Standard preparation and review time is two hours each.

【Grading Criteria / Policy】

Evaluation is based on the five learning objectives and consists of:

Participation in training during class: 30%

Reaction papers: 30%

Final report summarizing the semester's learning process: 40%

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）	
スポーツ科学B	2017年度以降入学者
伊藤 マモル	
開講時期：秋学期授業/Fall	曜日・時限：木3/Thu.3
単位数：2単位	
定員制（20～30）	
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は2年生以上が対象です。

トレーニング理論を包括したコンディショニングの一環であるストレングス（筋力）トレーニングについて、各自の目的に応じたトレーニング方法に着目したプログラムを作成計画し、実践した効果を検証します。

履修者自ら作成したトレーニング・プログラムを実践していくアクティブラーニング型の授業であり、履修者が主体となり能動的に進めます。

【到達目標】

- 1：トレーニング器材を安全に使用できる
- 2：トレーニング器材を応用した各種測定方法を利用できる
- 3：測定結果からトレーニング効果を評価できる
- 4：目的に応じたトレーニング方法を実践できる
- 5：トレーニングの結果を正しく記録できる
- 6：トレーニング効果を検証した学修過程を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面授業とオンライン授業を組み合わせたブレンド型授業で開講します。ブレンド型授業とは、14回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

授業では、履修者自身が設定した目的に基づいてトレーニング・プログラムを作成し、その実践と検証を行うアクティブラーニング型の方法で進めます。前半は身体組成や筋力などの測定結果を分析し、トレーニング方法の検討とプログラムの立案を行います。後半は作成したプログラムを段階的に実践し、種目・順序・強度・方法を適宜見直しながら完成度を高めます。最終回には、実践結果の測定と効果の評価を行い、学修過程と成果をまとめて発表します。毎回、トレーニングの記録と振り返りを行い、主体的に学びを深めることを重視します。

なお、授業の連絡、学生からの質疑、フィードバックに関しては、Google クラスルームまたはe-mailやLINEを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・測定	<トレセン> ①シラバスの確認（授業概要と到達目標の説明） ②授業の進め方およびルールと評価方法 ③授業計画 ④受講者の決定 ⑤使用する施設・器材についての解説 ⑥授業支援システムへのメールアドレス登録とGoogle フォームへの回答 ⑦Inbodyを用いて、基礎代謝と身体組成を測定し、その分析・評価を行う
2	課題検討期Ⅰ・筋力（下肢）測定	<トレセン> ①Inbodyを用いた測定の結果を分析し、評価を行う ②下肢の筋力を把握するための測定を行い、結果を分析し、評価を行う
3	課題検討期Ⅱ・筋力（上肢）測定	<トレセン> ①上肢の筋力を把握するための測定を行い、結果を分析し、評価を行う
4	課題検討期Ⅲ・柔軟性測定	<トレセン> ①柔軟性を把握するための測定を行い、結果を分析し、評価を行う
5	計画立案期Ⅰ・トレーニングの目的とプログラム	<トレセン> ①グループワークを行う ②トレーニングの方法と効果を整理する ③テーマに適したトレーニング方法を検討し、個々に取り組む課題を明確にする
6	計画立案期Ⅱ・トレーニングプログラムの決定	<トレセン> ①トレーニングマシンの操作方法の確認 ②効果が期待でき、継続的に実践できるトレーニング方法（主に大きな筋を刺激する種目）を検討する ③トレーニングプログラムを作成する
7	トレーニング課題研究Ⅰ（施設利用・実践トラブル編）	<教室またはオンライン> ①トレーニング施設の利用やトレーニング中に生じる典型的な問題を取り上げ、グループまたは個人で解決策を検討する ②提示した解答をAIで評価し、不足する知識や経験に関する情報をAIから収集して学修を深める
8	トレーニング課題研究Ⅱ（食事・休養・コンディショニング編）	<教室またはオンライン> ①食事、休養、体調管理などコンディショニングに関する課題を提示し、グループまたは個人で解決策を検討する ②考えた解答をAIに評価させ、必要な知識や改善点をAIを活用して補いながら理解を深める
9	計画実行期Ⅰ・トレーニングプログラム種目の再検討	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（時間内に達成できる種目の順序を考える） ②実施したトレーニングを記録する

10	計画実行期Ⅱ・トレーニング強度に着目	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（適切な運動強度の決定） ②実施したトレーニングを記録する
11	計画実行期Ⅲ・トレーニング方法に着目	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（セット法またはピラミッド法の検討） ②実施したトレーニングを記録する
12	計画実行期Ⅳ・トレーニング方法の実践	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの方法を決定し実践する ②実施したトレーニングを記録する
13	効果検証期	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの効果を検証するための測定 ②測定結果を分析・評価する ③これまでの学修過程の整理 ④考察した測定結果をゼミ内で共有する
14	反省改善期・発表・総括	<教室> ①取り組んだ学修過程を発表する ②今後の課題を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示します。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

具体的には、授業外でトレーニングセンターや自宅において授業で扱ったトレーニング等の課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも自分自身の変化を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
2. ボール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCCメディアハウス
3. プレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミィ』ガイアブックス
4. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
5. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
6. 伊藤マモル監、ひとりて巻けるテーピング、日本文芸社
7. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
8. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
9. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
10. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した6項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. 授業中のトレーニングへの参画状況：30%
2. リアクションペーパー：30%
3. 本授業の学修過程をまとめたレポート：40%

この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

- 1) スポーツウェア：運動を安全で効率的に実践できる

- 2) スマートフォン：活動量や心拍数を計測できるアプリケーションが利用可能
- 3) タオル：汗を拭いたりストレッチの補助として使えるため、衛生面と実技の安全性向上に役立つ
- 4) 飲料（水またはスポーツドリンク）：脱水や熱中症を防ぎ、安全に運動を継続するために必要である
- 5) 必須ではないが、活動量計（スマートウォッチ等）：心拍数や歩数を正確に把握でき、学習記録や自己管理の精度を高められる
- 6) 筆記用具（またはタブレット）：セルフチェックや気づきの記録、リアクションペーパー作成に必要である
- 7) 室内用・屋外用シューズ：トレーニング施設のルールに対応し、安全に実技を行うために求められる
- 8) 替えのウェア：汗をかいた後に着替えることで、衛生的かつ快適に授業を継続できる
- 9) 小型ビニール袋またはランドリーバッグ：汗で湿ったウェアを持ち帰る際の衛生管理のために必要である

【その他の重要事項】

1. 授業1回目のガイダンスにおいて、履修希望者が30名を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。

具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずと全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。

2. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。

【Outline (in English)】

The subject is over 2nd grade.

【Course outline】

This course is designed for second-year students and above. Students develop a personalized strength-training program based on their individual goals and evaluate its effectiveness through measurement, analysis, and practice. In the first half of the course, students assess body composition, muscular strength, and flexibility. In the second half, they implement and refine their training program, concluding with an evaluation and presentation of their learning outcomes.

【Learning Objectives】

Students will be able to:

Use training equipment safely.

Conduct appropriate physical measurements using training devices.

Evaluate training effects based on measurement results.

Perform training methods suited to individual goals.

Accurately record training results.

Present the learning process based on the verification of training effects.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to review and practice training tasks at the Training Center or at home. They should monitor changes in body weight, body fat, temperature, diet, hydration, sleep, and bowel movements to support self-management. Standard preparation and review time is two hours each.

【Grading Criteria / Policy】

Assessment is based on the six learning objectives and consists of:

Participation in training during class: 30%

Reaction papers: 30%

Final report summarizing the learning process: 40%

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システムを通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4	筋力アップ運動	トレーニング機器や自重による運動を行う(講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ネットスポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、パラスポーツのボッチャを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンをを行う(講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える(講義)。

8	卓球	ネットスポーツとして卓球のダブルスを行う(講義と実習)。
9	バスケットボール	バスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	フットサルを行う(講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策(講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiやwebclassにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。

使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】

問い合わせ教員連絡先：kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】 In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.

【到達目標（Learning Objectives）】

- (1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
- (2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
- (3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
- (4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
- (5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.

It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Assignments (reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システムを通して告知する。体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4	筋力アップ運動	トレーニング機器や自重による運動を行う(講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ニュースポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、またパラスポーツとしてボッチャを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンをを行う(講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える(講義)。

8	卓球	ネットスポーツとして卓球を行う(講義と実習)。
9	バスケットボール	ゴール型スポーツとしてバスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	ゴール型スポーツとしてフットサルを行う(講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策(講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題(リアクションペーパー、小テスト、レポートなど)60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。

教場の使用状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】

問い合わせ 教員連絡先: kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【授業の概要(Course outline)】 In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.

【到達目標(Learning Objectives)】

- (1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
- (2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
- (3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
- (4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
- (5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】
Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class. 【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Assignments

(reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

